

2J-1

特 22  
812

國  
法  
講  
義  
案

224  
683







ヒ最モ著シキ二三ヲ除クノ外一々引証セズ  
 引用中單ニ條文ノミヲ示シタルモノハ憲法ナリ又法令ノ名稱  
 ニ付テモ慣用ノ略號アルモノハ之ニ從ヒタリ例ヘハ民事訴訟  
 法ヲ民訴法ト略シ裁判所構成法ヲ裁構法ト略シタルカ如キ是  
 ナリ  
 本書出版ノ成功ハ廣島控訴院長一瀬法律學士ノ盡力ノ結果ナ  
 リ因テ茲ニ之ヲ記シ以テ紀念トナス

明治三十六年八月

講者識

國法講義案目次

緒論		
第一章	國家ノ意義	一
第二章	國家ノ政體	三
第三章	國法ノ意義	八
第四章	國法ノ法源	八
第一編	統治ノ主体	九
第一章	總論	三
第二章	天皇ノ國法上ノ地位	三
第一節	統治權ノ總攬	五
第二節	天皇ノ大權	五
第三節	天皇ノ不可侵	八
第四節	天皇ノ特權	九
第三章	皇位繼承	二
第一節	皇位繼承ノ意義	二
第二節	皇位繼承ノ資格及順位	二
第四章	攝政	二
第一節	攝政ヲ置ク場合	四



第二節	攝政ノ任スル人	二五
第三節	攝政ノ地位	二五
第四節	攝政ノ終任	二六
第二編	統治ノ範圍	二九
第一章	總論	二九
第二章	領土	三〇
第一節	領土ノ特質	三〇
第二節	領土ノ區域及變更	三〇
第三章	臣民	三一
第一節	臣民分限ノ性質	三一
第二節	臣民分限ノ得喪	三一
第三節	臣民ノ權利義務	三二
第三編	統治ノ機關	三三
第一章	總論	三三
第二章	政府	三三
第一節	政府ノ意義	三三
第二節	政府ノ機關	三三
第三節	政府ノ責任	三四
第三章	帝國議會	三四
第一節	議會ノ國法上ノ地位	三四

第二節	議會ノ組織	四六
第三節	議會ノ職權	四八
第四節	議會ノ行動	五二
第五節	兩院議員ノ權利義務	五五
第四章	裁判所	五五
第五章	樞密顧問	五七
第六章	特種官廳	五八
第一節	會計検査院	五九
第二節	行政裁判所	五九
第三節	權限裁判所	六〇
第四編	統治ノ機能	六一
第一章	總論	六一
第二章	立法	六三
第一節	立法ノ意義	六三
第二節	立法手續	六三
第三節	法律	六四
第一節	法律ノ意義	六四
第二節	法律ノ制定	六四
第四節	命令	六五
第一節	命令ノ意義	六五
第二節	命令ノ制定	六七



第二章	命令ノ類別	六七
第五節	法令ノ範圍	七一
第六節	法令ノ廢止	七三
第三章	司法	七四
第一節	司法ノ觀念	七五
第二節	司法權ノ行使	七六
第三節	司法ト立法行政トノ區別	七六
第四章	行政	七七
第一節	行政ノ意義	七七
第二節	行政ノ行爲	七八
第五章	條約	八一
第一節	條約ノ性質	八一
第二節	條約ノ施行	八二
第六章	豫算	八三
第一節	豫算ノ性質	八三
第二節	豫算ノ議定	八五
第三節	豫算ノ効力	八七
第四節	豫算ノ不成立	八七

目次畢

# 國法講義案

## 緒論

### 第一章 國家ノ意義

第一、適者生存ノ大則ハ人類社會ニモ行ハレテ子育ツルコト最モ巧ニシテ且相團結スル力強キモノハ生存上ノ適者ナルヨリ夫婦親子自然ニ相團結ス(家族團體)是レ人類團結ノ最始ニシテ血縁ヲ以テ團結ノ原子トナスモノナリ既ニ人類相團結シ團體ヲ形造クル以上ハ其團體永續ノ爲メニ團體ノ秩序維持ノ必要ヲ生ス而テ團體ノ秩序ヲ維持セシムハ團體員中團體ヲ統御スルモノト其統御ニ服從スルモノトナカルヘカラス蓋シ團體員各自其意思ヲ無限ニ主張スルニシテ團體ノ團結ニ破レ其團體永續スルヲ得サレハナリ而テ家族團體ニ於テハ通常家父タル者カ其腕力智力ニ於テ最モ優等ナルヲ以テ其家族ヲ保護引率シ其間ノ秩序ヲ維持スルノ實力ヲ有シ一家ノ秩序ハ此家父ヲ崇拜シ其威力ニ服從スルニ依リ維持セラル、ナリ一家膨脹シ數多ノ分家ヲ生スルニ及ヒテハ右ノ觀念ヲ推シ擴メ相共ニ共同ノ始祖ヲ崇拜スルノ結果相團結シテ一團體ヲ爲ス所謂氏族部族是ナリ而テ此團體ニ於テハ同族間中最モ瞻望セラル、共同始祖若クハ其正系ノ子孫ハ族長トシテ最モ優等ノ勢力ヲ有シ各氏族部族ノ輩ハ其族長ノ威力ニ服從スルヲ依リテ一族ノ秩序ヲ維持セラル、ナリ而テ人類ノ發達尙進歩シ水草ヲ逐フテ移轉スル狀態ヨリ進ミテ固定ノ住居ヲ有スルニ及ヒ(人類團結カ土地の基礎ノ上ニ立ツニ及ヒ)強大ナル氏族部族ハ漸次弱小ナル者ヲ驅逐若クハ併呑シ發達シテ益強大トナリ遂ニ政治的團體ヲ生ス蓋シ團體益々發達スレハ團體員間ニ行ハル、共同生存條件益々復雜トナリ之ヲ統合支配スルニ單ニ族長族長ノ如キ簡單ナル組織ノミニテハ其團體ヲ維持スルノ困難ナルニ及ヒ遂ニ一定ノ組織系統ヲ有スル機關



ヲ必要トスルニ至ルモノナレハナリ此ノ如キ發達程度ニ達シタル團體ヲ稱シテ國家ト云フ

右説明ハ單ニ其概容ニシテ詳細ハ社會學政治學歷史學等ノ説明ニ讓ルモ人類團結ハ適者生存ノ大則ニ基因シ而テ團體權力ノ觀念ハ親則家父ヲ崇拜スル念ヨリシテ發達シタルモノナルコトハ殆ント爭ナシ殊ニ我國ノ如ク血族團體則共同始祖ヲ有スル民族カ他ノ劣等ニシテ弱小ナル民族ヲ驅逐シ若シハ併呑同化シ一族ヲ以テ邦國ヲ建設セルモノニ於テハ國家ノ成立セル順序ハ前述ノ如クナルヘシ乍併我輩ハ總テノ國家カ前述ノ順序ニ發達成立シタリト云フコトヲ近世成立シタル亞米利加諸國ノ如キハ右ト大ニ趣ヲ異ニスルモノアリ併シナカラ原始社會ヨリ發達シタル現今國家ノ多數ノ發達ハ前示ト大同小異ニシテ右説明セル所ハ人類發達ノ最モ普通ノ現象ト云フヲ得ヘシ

第二、前説明ノ如ク當初血族團體ヲ生スルニ至リタルハ生存競争ノ自然傾向ニ出テ而テ生存競争ハ一時的ノモノニアラス永久ノモノナレハ自然ノ必要上團體ハ其構成分子タル個人ニ間斷ナク生死變動アルニ拘ラス依然トシテ團體自身ノ生存ヲ維持シ其發達ヲ謀ル目的ヲ有スルノミナラス團體ノ構成員タル各個人ノ存在及發達ヲモ併セテ其目的トスルモノナルコト論ヲ俟クス而テ團體漸次進化シテ國家ナル政治團體ヲ組成スルニ至リテモ亦毫モ異ル所ナレ而テ國家カ其自身ノ生存發達并ニ其構成員タル各個人ノ存在及發達ヲ計ルカ爲メ換言スレハ國家カ其目的ヲ達センカ爲メニ要スル諸種ノ條件ヲ充ス爲メ國家及其構成員タル各個人ノ意思ノ範圍ヲ制限スル必要ヲ生ス何トナレハ若シ國家ノ意思ヲ無限ニ行ハシカ各個人ノ存在及發達ニ害アルヘク反之各個人ノ意思ヲ無限ニ認メンカ一方ニ於テ國家カ其自身ノ發達ニ害アルト同時ニ又他方ニ於テ他ノ個人ノ存在及發達ニ害アルヘクナレハナリ故ニ國家ノ目的ヲ完全ニ達セントスルニハ必ズ國家及各個人ノ意思ノ範圍ヲ制限スルノ必要ヲ生ス此意思ノ制限ヨリシテ所謂權利ナルモノ、觀念ヲ生ス故ニ權利ハ法律ノ範圍ヲ認容スル人格者ノ意思ノ力ナリト云フヲ得

第三、前述ノ如ク國家ハ獨立ノ生存目的ヲ有ス獨立ノ生存目的ヲ有スルモノヲ法理上ニ於テ人格ト稱ス例ヘ

ハ人カ法律上ニ於テ人格者タル所以ハ獨立ノ目的ヲ有シ獨立ノ生存アルコトヲ法カ認ムルニ依ルナリ商事會社モ亦獨立ノ目的ヲ有シ且構成分子タル各人ヨリ離レテ獨立ノ生存ヲ有スルコトヲ法カ認ムルニ依リテ商事會社ヲ人格者トナスナリ國家ハ其構成分子ニ間斷ナク生死アリ間斷ナク變更アルニ拘ラス依然トシテ各分子ヨリ離レテ獨立ノ生存ヲ有シ各分子ノ目的ヨリ離レテ獨立ノ目的ヲ有スル故ニ國家ヲ人格者則權利ノ主体ト云フナリ右ノ如ク國家ハ獨立ノ目的ヲ有ス此目的ヲ達スル爲メ諸種ノ活動ヲ爲サ、ルヲ得ス此活動ヲ稱シテ統治ト云ヒ其活動ノ基ク國家ノ意思ノ力ヲ統治權ト云フ而テ此活動ハ主トシテ其構成員タル各個人ヲ強制命令スル方法ニ於テ之ヲ爲ス國家ニ此命令強制ノ權アルハ前説明ノ如ク國家ハ進化シタル權力團體ナレハナリ故ニ命令強制ハ統治ノ觀念ニ缺クヘカラサルノ要件トス然リト雖モ國家カ其目的ヲ達センカ爲メニ活動ハ必シモ常ニ個人ニ對スル命令強制ノモ限ラス他ノ種ノ活動ニ依ルコトアリ則或ハ對等ノ人格者タル他ノ國家ニ交渉スルコトニ依リ或ハ各個人ニ命令強制セスシテ却テ各個人ノ自由ノ意思ヲ容レテ此目的ヲ達スルカ如キ是レナリ故ニ統治ハ必シモ常ニ命令強制ナリト云フヲ得然ラハ國家ノ意思ノ力タル統治權ハ命令強制ヲ要素トナスコト勿論ナリト雖モ其行動ノ方法ニ於テハ必シモ常ニ命令強制ノ手段ヲ取ルヲ要セス換言スレハ命令強制ノ手段ヲ取ラサルモ統治タルヲ失ハスト雖モ命令強制ノ權ヲ失ハ、統治權ナルモノ存在セサルナリ以上説明セル所ニ依リ國家ノ定義ヲ下セハ國家トハ一定ノ組織系統ヲ有シ土地の基礎ノ上ニ立ツ人ノ集合體ニシテ人格ヲ有シ自己ノ目的ヲ爲メニ命令強制ノ權ヲ有スルモノヲ云フ

### 第二節 國体及政体

第一、國家ハ統治權ノ本体ニシテ統治權ノ存在ハ國家ノ國家タル所以ナリ併シナカラ統治權カ何人ノ手ニ現存スルカハ一ニ歴史ノ結果ニシテ一般ニ答フルヲ得ス之ヲ國家ノ形體則チ國体ノ區別トナス故ニ國体ノ區別ハ國家其モノ、區別ニアラスシテ統治權所在ニ從フノ區別ナリ國体ハ歴史ノ結果ナルカ故ニ國々ニ依リ夫々異ニシテ理論ヲ以テ其種類ヲ區別スルコト困難ナリト雖モ其主ナルモノヲ舉クレハ君主國体民主國体及貴族政



治國体トス(アリストートル以來ノ分類法)

- 一、君主國体トハ特定ノ一人カ歴史上其固有ノ力ニ依リ主權者則統治者トシテ其國ヲ統治スルモノニシテ其主權者ト國家トノ關係ハ事實的ニシテ法律的ニアラサルモノナリ
  - 二、民主國体トハ國民ヲ以テ主權ノ存スル所トナスモノニシテ國ニ首長ヲ置クモ其首長ト國家トノ關係ハ事實的ニアラスシテ法律上ノ關係ナルカ故ニ其首長ハ國家ノ機關タル關係ヲ有スルモノナリ
  - 三、貴族政治國体トハ社會ノ優等ナル一部分ノ人カ主權者タルノ國体ヲ云フ
- 後ノ二者ヲ通シテ共和國体ト云フ二者共通ノ特質ハ主權カ集合觀念ノ下ニ多數人ニ歸屬スルコト是ナリ貴族政治國体ハ古代ニハ多ク存在シタリ例ヘハ希臘諸國就中「スパルタク」ハ最モ著シキモノナリ乍併此國体ハ現今進歩シタル國家ニ於テハ實在セサルヲ以テ此國体ニ付テハ別ニ說明セズ

歐洲ノ歴史ヲ案スルニ現今ノ歐洲諸國ノ祖先ハ古ノ羅馬人ニアラスシテ日耳曼人種ナリ日耳曼人カ亞細亞西部ヨリ歐羅巴ニ移轉シタル時代ハ小部落ヲ爲シタル共和國ナリ當時國民平等且皆兵ニシテ春秋二期ニ會合シ諸般ノ政事(特ニ兵事及祭事)ヲ議シタリ然ルニ羅馬人ト戰争ヲ爲スニ當リ獨立對等ノ兵士ノミヨシテ引卒者ナキトキハ戰時ニ於テ不規律ニシテ爲メニ往々失敗ヲ來スコアルヨリ國民總會ニ於テ兵事アル毎ニ將帥ヲ撰舉シ兵事ノ間ハ各人皆此將帥ノ命令ニ服從シタリ此將帥ノ職ハ臨時ノコトニシテ戰争止メハ其職ヲ止メ平等ノ地位ニ復シタリ然ルニ後ニ至リ此職カ終身ト變シ再轉シテ世襲ノ職トナリ遂ニ後世ノ君主國体ノ源ヲ爲セリ(ブルンナー獨乙法制史)

我國ノ歴史ハ之ト異ニシテ初ヨリ君主國体トシテ成立シタルモノナリ上古共同始祖ニ出タル大和民族カ土着ノ劣等ナル人種ヲ驅逐シ少部分ノ人種ヲ併呑同化シテ一國民ヲナレタルモノニシテ此民族ノ共同始祖ハ其子孫ヲ保護シ始祖ノ直系子孫ハ其民族ヲ統御スルコトヲ以テ國ノ成立ノ基礎トナセヨリ國民ノ總會ヲ以テ主權ノ所在トナシタル事實ナク家族的權力ノ觀念ヲ以テ民族ノ共同始祖ノ直系子孫則族長カ此民族則族民ナ

統御スルモノトセリ人民カ天皇ノ位ニ服從スルハ歐洲ニ於ケル如ク其撰舉シタル役人(將帥)ニ服從スルノ意ニアラスシテ恰モ子カ親ニ服從スルカ如ク血族團體ノ性質トシテ家族カ家長權ニ服從スル精神ヲ推シテ族民タル臣民カ族長タル天皇ニ服從スルナリ此觀念ハ數百千年ヲ經テ益々堅ク曾テ此觀念ヲ破リタルコトナシ故ニ我天皇ノ地位ハ歴史上固有ノ權力ニ依リ帝國ヲ統治ス我國家ト天皇ノ地位トノ關係ハ事實上ノ關係ニシテ天皇カ國家ノ最上機關トシテ帝國ヲ代表スル法律上ノ關係ニアラス故ニ國法上ノ性格ニ於テハ天皇ハ國家ト同一ニシテ從テ天皇ヲ統治ノ主体ト云ハサルヲ得ズ

第二、政体トハ國家主權行動ノ形式ナリ則主權カ何人ニアルヤノ問題ニアラスシテ如何ニ主權カ働クヤノ問題ナリ國体同一ナリト雖モ政体異ナルコトアリ政体同一ナレハ國体異ルコトアリ政体モ亦各國歴史ノ結果ニシテ一般ニ概括シテ種別スルコト難キモ其主ナルモノヲ舉クレハ立憲政体及專制政体是ナリ

一、立憲政体トハ立法司法行政ノ權力ヲ各獨立ノ機關ニ分テ行使セシムル形式ヲ云フ

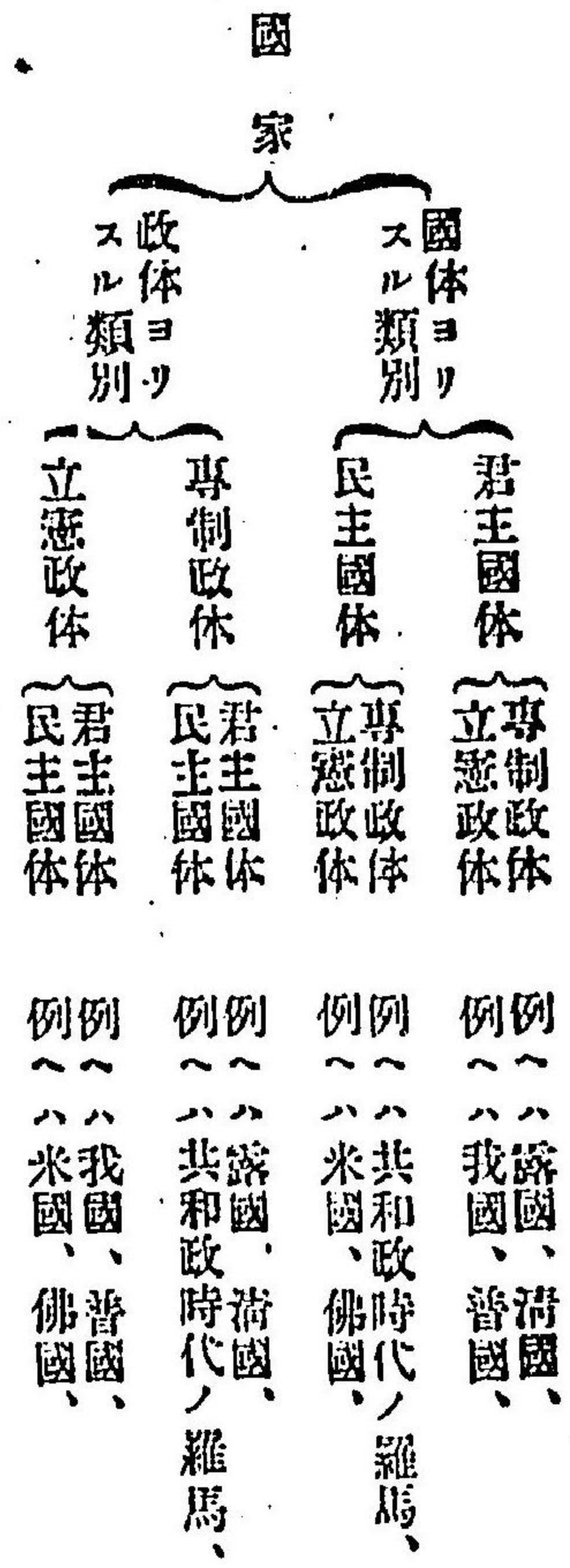
立憲政体ハ佛國「モンテスキュー」ノ三權分立論ニ基クモノナリ此點ハ後ニ說述スヘシ

二、專制政体トハ立法司法行政ノ權力ヲ各獨立ノ機關ニ分テ行使セシムルコトヲナサスシテ同一ノ者カ立法司法行政ノ形式ヲ云フ

國体ト政体トノ區別ハ觀察點ヲ異ニシタル區別ナルヲ以テ相混同セサルヲ要ス國体ヲ同クスルモ政体ヲ異ニスルアリ例ヘハ我國モ露國モ等シク君主國体ナルモ我ハ立憲政体ナルニ反シ露ハ專制政体ナルカ如ク又政体ヲ同クスルモ國体ヲ異ニスルアリ例ヘハ米國モ普國モ等シク立憲政体ナルモ米國ハ民主國体ニシテ普ハ君主國体ナリ又古ノ羅馬共和國(後世ノ羅馬ニアラス)及露國若クハ清國ノ如キハ何レモ專制政体ナルモ羅馬ハ民主國体ニシテ露國清國ハ君主國体ナルカ如ク

以上説明セル所ヲ圖解スレハ左ノ如シ





第三、立憲君主國ト立憲民主國トノ國法上ノ差異、歴史ヲ按スルニ立憲政体チ有スル國ニ二種アリ其一ハ我國、普國、埃國等ノ如ク專制國家ノ當時ニ於テ主權ヲ有シタル君主カ自カラ其主權ヲ以テ立憲國家ノ基本法則形式上ノ憲法ヲ制定シタルニシテ其二ハ革命ノ戰爭ニ於テ人民ノ力ヲ以テ專制國家ノ君主ヲ斃シ其主權ヲ奪ヒ民意ヲ以テ形式上ノ憲法ヲ制定シタルモノ(例ハ佛國)若クハ歴史ナキ平等ノ自由民カ集リ新ニ形式上ノ憲法ヲ編制シタルモノ(例ハ米國)是ナリ

此二者ノ間ニ國法上ノ原則ヲ異ニスルヲ左ノ如シ

一、國家ト憲法(形式的)トノ關係ニ於ケル差異、

立憲君主國ニ於テハ從來君主ニ屬スル主權ヲ以テ憲法ヲ明定シタルモノナレハ其君主ノ君主タル權力ハ主權傳來ノ歴史ニ存シ憲法ニ依リ始メテ此權力ヲ生シタルニアラス故ニ國家ノ編制ハ君主ノ權力ノ編制ニ存シ憲法ハ唯此編制中ノ主要ナル部分ヲ明記シタルニ過キス反之立憲民主國ニ於テハ從來ノ君權ハ革命ノ爲メニ斃サレテ人民其主權ヲ收メ之ヲ以テ憲法ヲ制裁シタルモノナルガ若クハ歴史ナキ所ニ自由民相集リ新ニ憲法ヲ制定シタルモノナルヲ以テ國家ノ編制ハ唯此憲法ノモノ上ニ存シ憲法以外ニ國家

ナレ

二、權力所在ノ推定ニ關スル差異、

立憲君主國ニ於テハ憲法ヲ作ルニ當リ從來ノ統治權ヲ一旦廢シタルコトアリ其全部ヲ依然保續シ其中ノ重ナル事項ニ關シテ明ニ規定テ設ケタルニ過キス故ニ憲法ニ明文ナキノ權力ハ憲法以外ニ於テ尙君主ニ存ス則憲法ノ明文ヲ以テ國家ノ機關(議會裁判所等)ニ委任シタルニアラサル權力ハ皆尙君主ニ存スルモノト推定セサルヲ得ス「權力所在ノ推定ハ君主ニ存ス」ノ義ナリ例令ハ我憲法ハ國疆變更ノ權、殖民地領有ノ權、貨幣鑄造ノ權、外交官差遣接受ノ權ノ如キハ憲法ニ掲ケス是等ノ權ハ天皇ニ存スト推定セサルヲ得サル如キ是ナリ

反之立憲民主國ニ於テハ民意ヲ以テ定メタル憲法ノ條項以外ニ國家ノ編制ナシ憲法ノ條項ニ見ヘサルモノハ皆全ク不定ニ屬シ民意ヲ以テ新ニ條項ヲ定ムルマテ何人モ其權力ヲ行使スルヲ得ス

三、統治權ノ分合ニ關スル差異、

立憲君主國ニ於テハ君主ノ全權ヲ以テ憲法ヲ制定シ其間ニ他ノ何人ノ意思ヲモ容ル、義務ナキヲ以テ國家ノ全權ハ君主之ヲ全有シ唯之ヲ行使スル事務ノミヲ機關ニ委任ス之ニ反テ一旦君主權力ヲ打破シ民意ヲ以テ新ニ國家ヲ編成スル場合若クハ歴史ナキ自由民相集リテ新ニ國家ヲ編成スル場合ニ於テハ國家ノ諸機關ヲシテ互ニ相制セシムル爲メ統治權ヲ二個以上ノ機關ニ分離セシムルヲ常トス但シ立憲民主國ニテモ稀ニハ統治權ヲ一人ニ委任スルコトアリ然レモ君主國ニ於テハ統治權ハ決シテ分離スルコトナク常ニ君主一人ニ歸屬ス

四、憲法改正ニ關スル差異、

立憲君主國ニ於テハ始メ君主ノ全權ヲ以テ制定シタル憲法ナレハ後ニ之ヲ改正スルニ當リ國家機關ヲシテ之カ決議ヲ爲サシムルモノ之ヲ採用スルト否トハ全ク君主ノ自由ニ屬ス反之立憲民主國ニ於テハ人民ノ



意思ヲ以テ制定シタル憲法ナルカ故ニ人民ノ意思ヲ以テ變更スルヲ得ヘシ假令君主ヲ立ツルモ君主ハ之ヲ左右スル權ヲ有セズ例ヘハ白耳義國ノ君主ノ如シ(有賀氏國法學上卷)

## 第二章 國 法

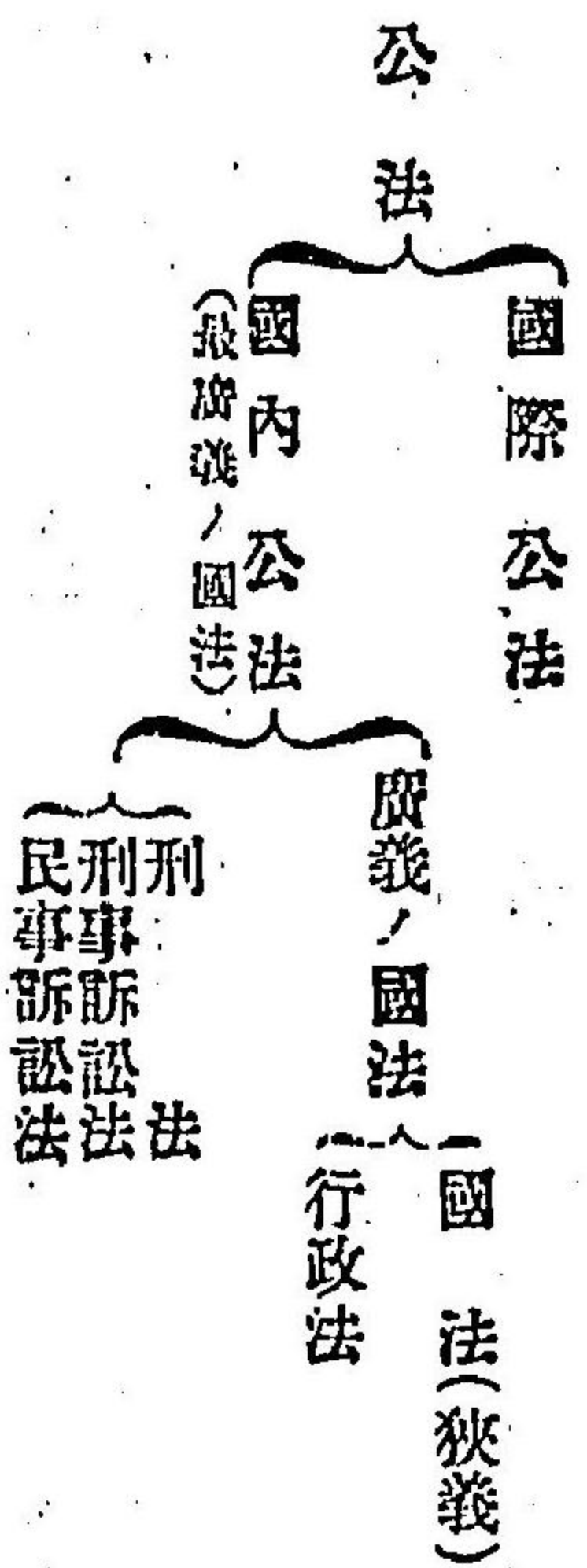
### 第一節 國法ノ意義

第一、廣義ノ國法、國家カ自カラ其意思ヲ制限スルモノハ公法ニシテ國家カ個人相互間ニ意思ノ限界ヲ立ツルモノハ私法ナリ公法中ニテ國家相互間ノ意思ノ限界ヲ立ツルモノハ國際公法ニシテ國家又ハ其機關及個人トノ間ニ意思ノ限界ヲ立ツルモノハ國內公法ナリ國內公法ヲ最廣義ノ國法ト云フ故ニ最廣義ノ國法ハ憲法行政法ハ勿論民事訴訟法刑事訴訟法ヲモ包含ス最廣義ノ國法中刑法民事訴訟法刑事訴訟法ハ早クヨリ各獨立シタル一分科ヲ爲セルノモナラス是等ハ單ニ國家ノ概念以外ニ尙特別ノ目的ヨリ生スル原則ニ依リ支配セラル、カ故ニ之ヲ除キ殘余ノ部分ヲ稱シテ廣義ノ國法ト云フ

第二、狹義ノ國法、廣義ノ國法ヲ更ニ分チテ狹義ノ國法ト行政法トス國法學モ行政法モ共ニ國家機關ノ組織及機能ヲ論スルモノナルヲ以テ此二者ヲ區別スルハ困難ニシテ此區別ニ關スル學者ノ見解モ區々ナリ或一派ノ學者ハ(例ヘハツアルン獨乙國法論)國法ヲ以テ行政法ヲモ含ムモノトシ之ヲ憲法行政法ノニニ分ツモ多數ノ學者ハ廣義ノ國法ヲ狹義ノ國法ト行政法トニ分チ行政ニ關ル重要ナル原則ハ國法學ニ於テ論シ行政法ハ其細目ヲ論スルモノトセリ(マイヤー獨乙國法論)

我輩ハ狹義ノ國法トハ一國ノ國体及政体ノ大体ヲ規定スル法規ナリト云ハントス故ニ國家ニ關スル法規ニテモ國体若クハ政体ニ關スルモノニアラサレハ國法ニアラス又國体政体ニ關スルモノト雖モ大綱ニアラスニテ細目ニ亘ルモノハ行政法其他ニ於テ論スヘキモノニシテ國法ニアラス然ラハ何ニカ大体ノ規定則大綱ナリヤニ付テハ概括的ニ答フルコト困難ニシテ一々現實ノ場合ニ付テ攻究セサルヲ得ス

以上説述シタル所ヲ圖解スレバ左ノ如シ



### 第二節 國法ノ法源

國法ハ或不文法則慣習法ナルコトアリ或ハ成文法ナルコトアリ

第一、不文法  
慣習法ヲ以テ國法ノ法源トナスコトヲ全然否認スル者アリ若シ然リトスルトキハ憲法發布前ノ諸國ニ於テハ殆ント國法ナルモノナク又英國ノ如キハ今日ニ於テモ尙國法極メテ不備ト云ハサルヲ得サルニ至ル故ニ此論ノ採ルニ足ラサルコトハ弁ヲ要セス

慣習法カ如何ナル理由ニ依リテ法カ有スルヤハ頗ル議論アル点ニシテ一派ノ學說ニ依レハ法ノ根源ハ國民ノ法律上ノ確信ニアリ法律上ノ確信ハ直接ニ法ヲ生スルコトアリ是則慣習法ニシテ間接ニ法ヲ生スルコトアリ是則成文法ナリト如此慣習法カ國家ニ干係ナク獨立シテ効力ヲ有シ國家ヲ羈束スルヲ得ルトスルノ說ハ誤ナリ何トナレハ若シ此ノ如クスルトキハ國家ハ自己ノ意思ニ基カスシテ法律上其意思ヲ制限セラル、コトナリ國家ノ概念ニ反スレハナリ故ニ慣習法ハ國家カ之ヲ認ムルニ依リ効力ヲ有ス換言スレハ國家カ其意思ニ依リ自ヲ制限スルナリ國家ノ意思ニ反シテ効力ヲ有スルモノニアラス故ニ國家カ慣習法ヲ認ムルノ意思ヲ推測シ得ヘキ場合ニアラサレハ慣習法ハ効力ヲ有セス慣習法ハ成文法ト共ニ國法ノ法源ヲ爲スモノナルモ成文法ノ増



加ト共ニ漸次其區域ヲ縮メラレ重要ノ度ヲ減スルハ自然ノ數ナリトス(ケインドシヤイド・パンデクテン參照)

第二、成文法、

一、法律命令、  
法律ト命令トノ區別ハ第四編ニ於テ詳細ニ説明スヘシ法律ノ形ヲ有スルモノコシテ法規ヲ定メタルモノアリ然ラサルモノアリ命令ノ形ヲ有スルモノニシテ法規ヲ定メタルモノアリ然ラサルモノアリ國法ノ法源トナルモノハ法律命令ノ形如何ヲ問ハス法規ヲ定メタルモノナルヲ要ス法規ヲ定メタルモノニアラサレハ法律ノ形ヲ有スルモ法源タルヲ得ス

二、皇室典範、

典範ニ付テハ第一編ニ於テ詳述スヘキヲ以テ茲ニ説明セス只注意スヘキハ國法ノ法源タルモノハ典範全部ニアラスシテ皇位繼承ニ關スル規定君主ノ成年ニ關スル規定攝政ニ關スル規定等國体政体ノ大綱ニ關係アル規定ノ部分ニ限ルコト是ナリ

三、憲法、

甲、憲法ノ歴史、

法ヲ實質上ヨリ區別シテ國家ノ基礎ニ關スル根本法ト其法ヲ基礎トシテ發生スル法ト爲スノ觀念ハ希臘ニ淵源シ「アリストートル」ノ如キハ法ヲ憲法ト普通國法トニ區別セリ羅馬ハ希臘ノ文物諸制度ヲ模倣シタル結果其思想界ハ一般ニ希臘哲學特ニ「ストイック」派ノ哲學ニ依リ支配セラレ國法ノ觀念ニ於テモ亦其影響ヲ受ケ希臘ト同シク憲法ト普通國法トノ間ニ區別ヲ認メ憲法ヲハ國家構成法ト稱シタリ中世ニ於テモ學者ハ多ク從來ノ觀念ヲ襲蹈シ憲法ハ國家ノ根本法ト稱シ普通國法ヨリ強力ナル法力ヲ有スルモノトシ君主ト雖モ其制御ヲ受クルコト及君主一人ノ意思ヲ以テ變更廢止スルヲ得サルコトヲ以テ憲法ノ要素ト認メタリ

右ノ如ク憲法ノ實質的觀念ハ希、羅、中世ヲ通シテ存在發達シタルモ是等ハ單ニ學者ノ理想若クハ執政者ノ心得トシテ存在セシニ過キス憲法制定(形式的憲法ノ實在)ノ興論起リタルモ數百年來歴史アル君權ハ尙強盛ニシテ容易ニ其實行ノ運ニ至ラザリシナリ然ルニ「コロンバス」ノ新大陸發見以來歐洲人ノ新大陸ニ移住スル者頗ル多ク此新殖民地ニ於テハ各人平等ノ地位ニアリテ歐洲本國ニ於ケル如キ上下ノ差別嚴ナラス且新ニ國家ヲ形成スル場合ナレハ容易ニ憲法ヲ制定スルヲ得ル事情アリシヲ以テ千六百二十年十一月ノ新「ブリメー」國憲法ノ制定ヲ嚆矢トシ爾來數多ク憲法ノ制定ヲ見遂ニ千七百七十六年北米合衆國ノ獨立スルニ及ヒ整然タル憲法ノ制定ヲ見ルニ至レリ  
是ヨリ先キ英國ニ於テ國王ノ軍費ノ請求ヲ制限センカ爲メ千二百十五年北方ノ諸侯兵ヲ擧ケ王ニ背キ將來ノ負擔條件ヲ協定セシ「Magna Carta」ヲ發シシメタル「Magna Carta」モ此「Magna Carta」ニ於テハ一、諸侯ノ王室ニ對スル義務ヲ限定シ二、教會ノ獨立ヲ確認シ三、人權ノ自由ヲ保証セシメタルノミニシテ立法司法行政權ハ如何ニ行使スルヤノ原則ノ制定ナキヲ以テ未タ完全ナル憲法ト云フヲ得ス續テ「エドワード」一世ヨリ三世ノ時代ニ至リ上院下院ノ組織ヲ見國民ノ立法ニ參與シ課税ニ同意スルコト始マリ爾來代々ノ國王カ議會ニ讓歩シタル自由及特權ハ積堆シテ今日ノ英國憲法ヲ爲スモ成典トシテ存在スルニアラス故ニ形式的ノ憲法トシテハ前示北米諸國ノ憲法ヲ推サ、ルヲ得ス

乙、憲法ノ意義

學者ハ憲法ヲ二様ノ意義ニ用ユ

- 1、形式的意義ニ於テ憲法ト稱スルトキハ憲法ナル名稱ヲ以テ公布セラレタル法、則成文憲法ヲ指スモノナリ英國ノ如キ成文憲法ナキ國ニ於テハ此意義ニ於ケル憲法ナシ
- 2、實質的意義ニ於テ憲法ト稱スルトキハ一定ノ實質ヲ有スル法ヲ指スモノナリ如何ナル實質ヲ有スル法ヲ以テ憲法トナスヤニ付テハ學說區々タリ試ミニ其一二ヲ擧クレハ或ハ



イ、憲法トハ國家ノ組織ヲ規定スル法ナリト云ヒ或ハ  
 ロ、國家ノ構成分子及國家ノ作用ニ關スルノ法ナリト云ヒ或ハ  
 ハ、國家ノ構成分子ト其相互ノ關係并ニ直接國家機關ノ組織權限關係及國家機關トシテノ行為ニ關  
 スルノ法ナリト云フ

以上諸說中其何レヲ採ルヲ問ハス苟モ國家トシテ存在スル以上ハ如何ナル國家ニモ實質的憲法ハ必ス存在ス  
 然レモ形式的憲法ハ各國家ニ必シモ存在スルモノニアラス  
 我輩ハ我國ニ於テハ憲法トハ國法上憲法トシテ制定公布セラレタルモノヲ云ヒ憲法ト他ノ國法トヲ區別スル  
 標準ハ其實質ニ依ラス其法力及變更ノ手續ニ依リ決スヘキモノニシテ憲法ハ一方ニ於テ國法中最高ノ法力ヲ  
 有シ法律ト命令トニ論ナシ憲法ニ牴觸スルモノハ皆其法力ヲ失フ又他方ニ於テハ憲法ハ憲法變更ノ手續ニ依  
 ルニアラザレハ之ヲ變更廢止スルヲ得ス反之法律命令ハ法律命令ニ依リ之ヲ變更廢止スルヲ得ルモノトス約  
 言スレハ法力及變更手續ノ如何カ憲法ト他ノ國法トヲ區別スル標準ナリト信ス

前說明セル如ク國法トハ國体及政体ニ關スル大綱ヲ規定スルモノニシテ此大綱ハ憲法ニ於テ盡セルモノニア  
 ラス又憲法中ニモ國体政体ノ大綱ニ關セシテ其細目ニ關スルモノナキニアラサルヲ以テ憲法ト國法ト同一  
 ナラサルヲ論テ俟タス國法トハ實質上ノ稱呼ナリ憲法トハ形式上ノ稱呼ナリト解スヘシ學者ノ所謂實質的意  
 義ニ於ケル憲法カ我輩ノ所謂國法ニ相當シ學者ノ所謂形式的意義ニ於ケル憲法カ我輩ノ所謂憲法ニ相當スル  
 モノナリ我輩ハ左ノ編別ニ依リ我國法ヲ說明セントス

- 第一 統治ノ主体
- 第二 統治ノ範圍
- 第三 統治ノ機關
- 第四 統治ノ機能

## 第一編 統治ノ主体

### 第一章 總論

第一、統治權ノ作用ハ命令強制ニ止ラス個人若クハ他ノ國家ト對等ノ行為ヲナスコトモ亦統治權ノ作用ニ屬  
 スルコト前緒論第一章ニ於テ既ニ說明シタリ若シ統治權ヲ以テ命令權ト同シ意味ナリトセハ統治權ハ國家ノ  
 意思ノ全体ヲ含ムモノト云フヘカラス憲法第四條ニ天皇ハ統治權ヲ總攬シ憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フト規定  
 セルヨリ見レハ條約ノ締結ノ如キモ(十三條)亦統治權ノ作用ト認メサルヲ得ス然ルニ條約ハ對等人格者タル  
 國家相互間ノ約束ニシテ一ノ國家ガ他ノ國家ニ命令スルモノニアラサルヲ論テ俟タス然ラハ統治權ハ命令權  
 ニアラサルモノヲモ包含セルモノト解セサルヲ得ス

第二、統治權ハ分割スヘカラス、凡ソ一ノ人格者ノ意思ハ同時ニ二箇以上存在スルヲ得ス國家ハ一ノ人格者  
 ニシテ統治權ハ國家ノ意思ノ力ナルコト前說明セル所ナレハ國家ノ意思ノ力タル統治權ハ唯一ニシテ分割ス  
 ヘカザルコト論テ俟タス是レ統治權不可分ノ原則ノ根據ナリ乍併統治權ノ不可分トハ必シモ數多ノ機關カ  
 統治權ノ行使ニ參與スルヲ得ストノ義ニアラス二個以上ノ機關其行使ニ參與スルモ苟モ其行動ヲ一ニ歸スル  
 コトヲ得ル組織ナレハ國家ノ意思ハ一ト謂フヲ得ルカ故ニ統治權不可分ノ原則ニ反スルコトナシ反之統治權  
 カ數多ノ權力ニ分レ是等ノ權力カ相互ニ獨立ノ地位ヲ有スルトセハ國家ハ同時ニ二三ノ意思ヲ有シ遂ニ其人  
 格ヲ失フヘシ蓋シ先說明ノ如ク人格者ハ同時ニ二三ノ意思ヲ有スルヲ得サレハナリ右ハ明白ナル道理ナルニ  
 モ拘ラス右道理ニ反スル三權分立論カ一時勢力ヲ逞フシ諸國ノ法制ニ影響ヲ及シタルヲ以テ茲ニ三權分立論  
 ナ概説シ其誤謬ヲ指示スルノ必要アリ

政体ヲ分テ三種トナスノ說ハ希臘ノ「アリストートル」ニ出タル「前緒論」ニ於テ說明シタリ而シテ國家ノ機  
 能ヲ分テ立法行政司法ノ三トナス「モ」アリストートル「以來學者往々唱フル所ニシテ殊ニ英ノ「ブロン、ロフ



ク「ハ右三機能ヲ各別ノ機關ニ委任スヘキ旨論シタリシカ未ダ勢力ヲ得ルニ至ラス然ルニ十八世紀ニ於テ佛  
ノ「モンテスキュー」ハ右三政体説ト三機能説トヲ巧ニ配合シ以テ治者ノ專制ヲ厭セン爲メ三權分立論ヲ唱道  
シ此説大ニ世ニ行ハレリ其説ノ大要ヲ擧グレハ

立法司法行政國家ノ三權力トシ相互ニ獨立ノ地位ヲ有セシメ之ニ政体論ヲ加味シ以テ被治者則人民ノ自由  
ヲ保護セントシタリ故コ「モンテスキュー」ハ一方ニ於テハ國家ノ三機能ヲ各獨立ノ機關ニ分配シ是等ノ機關  
ハ其權限内ニ以テハ全然獨立コシテ毫モ他ノ牽制ヲ受ケサルヲ必要トシ他方ニ於テ政体ノ三別ヲ利用シ君主  
コハ行政權ヲ與ヘ人民ニハ立法權ヲ與ヘ之ヲ行フヘキ議院ノ一半ハ貴族ヲシテ之ニ居ラシメ他ノ一半ハ庶民  
ヲシテ之ニ居ラシムルモノトシ何レノ一モ全權ヲ有セサル故ニ專横ニ直ルヲ得サルモノトシ以テ民福ヲ保護  
スルノ方法ナリトシ其利益ヲ説明シテ國民全部カ法ノ成立ニ參與スルヲ以テ法ハ善良ナルヘシ司法行政ノ機  
關ハ單ニ委任ヲ受ケタル事件ヲ執行スルニ止マリ自由ニ原則ヲ破ルコトヲ得サルヲ以テ行政及司法ハ公平ナル  
ヘシト云ヘリ

右三權分立論ノ誤謬ナルコトハ前説明ノ如ク國家ニ二三ノ意思カ同時ニ存在シ得ルトナスノ点ニアリ元來立法  
司法行政ハ三權分立論者ノ唱フル如キ各獨立ノ權力ニアラスシテ實ハ同一ノ權力(統治權)ニ屬スル異種ノ作  
用ニ外ナラス然ルニ此同一權力ノ異種ノ作用ヲ各獨立ノ權力トシテ立論セルハ其根本ヲ誤レリト云ハサルヲ  
得ス

第三、天皇ハ統治ノ主体ナリ、統治ノ主体トハ統治權所在ノ謂ニシテ統治權ガ何人ノ手ニアルヤノ問題ナリ  
統治トハ國家ノ活動ノ總稱ニシテ單ニ行政ノモノ謂コアラズ立法モ司法モ亦統治ナリ故ニ統治權トハ國權ト  
云フニ同シ國權ヲ立法權司法權行政權ニ分チ君主ハ立法權司法權ヲ有セシテ獨リ行政ノ權ノミヲ有ストス  
ル或一派ノ學說ノ如キハ我國法ノ容レサル所ナリ我輩ハ統治權ト云フモ國權ト云フモ同一ナリ只觀察點ヲ異  
ニシタル名稱ニ過キスト解ス統治權トハ動ノ狀態ヨリ云ヒ國權トハ靜ノ狀態ヨリ呼フニ過キス而テ我 天皇

ノ地位ト我國家トノ關係ハ事實上ニシテ法律上ニアラス故ニ國法上ノ性格ニ於テハ天皇ハ國家ト同一ニシテ  
從テ天皇ハ統治ノ主体ナルコト我輩ノ先ニ說明セル所ナリ(緒論第一章第二節第一參照)

## 第二章 天皇ノ國法上ノ地位

### 第一節 統治權ノ總攬

第一、統治權ノ總攬、天皇ハ統治權ノ主体ナルコトナラス其行使ヲモ他ニ分與セズ天皇ニ於テ其全部ヲ總括  
スルカ故ニ統治權ヲ總攬スト云フ統治權ノ總攬者ハ統治權ノ行使ヲモ機關ニ分與スルコトナシ機關ノ補助ニ  
依リ自ラ之ヲ行フ國家ニ行ハル、公力ハ皆源ヲ天皇ニ發シ政府議會裁判所會計検査院等ノ諸機關ハ實際ニ於  
テ如何ニ有力ナルモ法理上ニ於テハ皆天皇ノ補助機關タル性質ナリ

第二、統治權行使ノ制限、總テノ權力ヲ其一身ニ總括スルハ必シモ其權力ノ無制限ノ意ニアラス然リト雖モ  
君主ノ統治權ヲ總攬スル邦國ニ於テハ權力其物ヲ制限スヘキコアラサルヲ以テ唯其行使方法ヲ制限スルノ外  
ナシ憲法第四條ニ「此憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フ」ト規定セルハ此義ヲ明ニシタルモノナリ統治權行使ノ制限  
ニ二ノ方法アリ

- 一、一定ノ機關ノ補助ニ依ルコト、例ヘハ立法權ヲ行フハ帝國議會ノ協賛ヲ要スルカ如シ(三十七條)
  - 二、一定ノ形式ヲ守ルコト例ヘハ租稅ヲ課スルコトハ必ス法律ヲ以テスルコトヲ要スルカ如シ(二十一條)
- 憲法ノ各條項ハ天皇ノ權力行使ヲ制限スト雖モ此制限ハ他ノ意思ヲ以テ制限スルモノニアラス自ラ立テ自ラ  
守ルモノ換言スレハ自己ノ意思ヲ以テ自己ノ意思ヲ制限スルモノニシテ他ノ意思ニ依リ自己ノ意思ヲ束縛セ  
ラル、モノコアラズ

### 第二節 天皇ノ大權

第二、大權ノ意義、君主ノ大權ノ觀念ノ最モ早ク發達シタルハ英國ナリ全國ニ於テハ元君主ハ一切ノ統治權



ヲ總攬シタリシカ數多ノ事項ニ付テハ君主カ漸次其特權ヲ議會ニ讓歩シタル結果君權ノ幅員ヲ縮少シ後ニ至リテハ議會ニ移サスシテ君主ノ手ニ殘留セルモノヲ大權ト稱スルニ至レリ故ニ英國ニ於テハ君主ノ大權ト稱スルハ機關ニ移サスレテ君主カ自己ニ留保シタル權力ナリ(アンソンの英國憲法論)

我憲法ノ規定ヲ見ルニ天皇ノ大權ニハ廣狹ニ義アルカ如シ廣義ニ於テハ大權トハ統治權ト云フニ等シク天皇カ其補助機關ヲ經テ活動スルト否トヲ問ハス廣ク帝國ヲ統治スル權力ヲ指スモノナリ例ヘハ統治權ノ作用タル立法權ハ天皇ノ獨リ行フモノニシテ議會ト共ニ行フモノニアラサルヲ以テ是亦天皇ノ大權ノ一タリ斯ク解セサルヘカヲサレ理由ハ憲法第十七條ニ「攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フ」ト規定セリ此規定ニ依レハ統治權ハ攝政ヲ置ク間攝政ニ於テ之ヲ行フモノナルコト論テ俟タス若シ假リニ立法權ヲ大權外ノモノトスレハ攝政ヲ置ク間何人カ之ヲ行フヤ解スヘカヲス故ニ我憲法ノ大權ナル語ニハ廣キ意味アルコト明白ナリ乍併他方ニ於テ大權ナル語ハ狹義ヲ有シ補助機關ニ移サスシテ天皇カ自ラ活動スル權力ヲ指シタルモノト認メサルヲ得ス蓋シ元來天皇ノ統治權ハ無制限ナル原則トシ立憲制ノ擔保ノ爲メ統治權ノ行使ニ付キ一定ノ補助機關ヲ經由スヘキ條件トシ以テ無制限ノ統治權ノ行使ニ付キ制限ヲ設ケタリト雖モ此制限ナキ範圍ニ於テハ天皇ノ無制限ノ統治權ハ任意ニ活動シ得ヘキモノナルヤ論ヲ俟タス此制限ヲ設ケサル範圍ヲ狹義ニ於ケル大權ト云フ故ニ狹義則通常ノ意味ニ於ケル大權トハ補助機關ヲ經スレテ直接ニ活動スル天皇ノ統治權ナリ此說明ハ憲法第六十七條ノ規定ニ照シテ其當ヲ得タルモノナルコト益明ナリ何トナレハ全條ニ所謂大權ヲ以テ廣義ノ大權ト解スルトキハ法律ノ結果ニ依リ云々ハ無用ノ規定ト云ハサルヲ得サレハナリ

以上説明セル所ニ依リ之ヲ見レハ統治權(廣義ノ大權)ハ自ラ分レテ二トナル

- 一、憲法ニ於テ依ルヘキ補助機關ヲ定メタルモノ
- 二、憲法ニ於テ依ルヘキ補助機關ヲ定メサルモノ則天皇ノ大權是ナリ

憲法ニ依ルヘキ補助機關ヲ定メサル權力タリトモ一定ノ形式ヲ守ル必要ナキニアラス然レトモ他ノ機關ノ補助ニ俟タス直接ニ活動スルモノナルヲ以テ是ヲ天皇ノ國法上ノ大權ト云フ

### 第二、大權ノ種別

助ニ俟タス直接ニ活動スルモノナルヲ以テ是ヲ天皇ノ國法上ノ大權ト云フ

#### 大權中二種ノ重要ナル區別アリ

一、憲法上ノ大權則憲法ニ於テ天皇ノ大權トシ他ノ機關ニ依リテ行使スルノ制限ヲ設ケサルコトヲ規定スル之ニ屬スルモノヲ舉グレハ

- 1、法律ノ裁可及公布執行ニ關スル權(六條)
- 2、官制編制權(十條)
- 3、兵馬統帥權(十條)
- 4、軍制權(十二條)
- 5、和戰及條約權(十三條)
- 6、戒嚴宣告權(十四條)
- 7、議會集散命令權(七條)ノ如キ是ナリ

#### 二、事實上ノ大權

積極的ニ君主ノ大權タルヘキ明文ヲ設ケス唯憲法上ニ於テ他ノ機關ニ依リ行使スルノ規定ナキニ依リ自然ニ大權ニ存スルモノヲ云フ蓋シ權力所在ノ推定ハ常ニ天皇ニアレハナリ之ニ屬スルモノヲ舉グレハ

- 1、頒曆ノ權
- 2、國境變更ノ權
- 3、外交官差遣及接受ノ權
- 4、貨幣鑄造ノ權

ノ如キ是ナリ

三、一種ノ大權ノ効力ノ差異



- 1、事實上ノ大體ハ現今大權ナルモ後ニ至リ法令ヲ以テ規定ヲ設ケ他ノ機關ニ依リ行使スルヲ妨ケス之  
 一、反シテ憲法上ノ大權ニアリテハ憲法改正ノ手續ヲ爲スニテハ動カスヲ得ス
- 2、財政上ノ差異、憲法上ノ大權ニ基ツク歳出ニ限リ前年度ニ於テ一旦議會ノ承諾ヲ經タルトキハ既定  
 ノ歳出トナリ議會ハ次年度ニ於テ政府ノ同意ナクシテハ廢除若クハ削減スルヲ得ス反之事實上ノ大權  
 ニ基ツク歳出ハ同一ノ場合ニ於テ既定ノ歳出トナラス(六十七條)詳細ハ第四編中豫算ノ處ニ於テ説明  
 スヘシ

### 第二節 天皇ノ不可侵

第一、天皇無責任ノ理由  
 憲法第三條ニ天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラスト規定セリ此規定ハ天皇ハ無責任ナリトノ趣旨ニ歸ス天皇ノ無  
 責任ナラサルヘカラスト所以ハ元來天皇ハ自ラ統治ノ主格ニシテ他人ノ統治權ノ客体ニアラス總テ責問ナル  
 モノハ上權者ニ於テ下權者ニ向ヒ法ヲ適用スル結果ナリ而シテ憲法ハ天皇ノ上ニ立テ其行爲ニ對シ法規ヲ適  
 用スル權能者アルヲ認メ然ラハ天皇ノ無責任ナルコト辯テ俟ダス

第二、國法上刑法上ノ無責任  
 無責任ノ事ハ前説明シタリ只一ノ注意スヘキコトハ不可侵ト云フハ他ノ權力ニ依リ侵サレストノ意味ニシテ  
 私人ヨリ犯サレストノ意ニアラス故ニ天皇ノ身體ニ對スル犯罪ヲ嚴罰スルヲ不可侵ノ原則ヨリ出タルモノト  
 スルハ誤ナリ何トナレハ刑法ハ皇族ニ對スル犯罪ヲモ嚴罰スルヲ見レハ不可侵ノ原則ヨリ出タルモノニアラ  
 サルコト論テ俟ダス

第三、私法上ノ無責任  
 歐洲諸國ニ於テハ私法上ノ行爲ニ付キテハ君主モ地方裁判所ニ出訴セラル、コトアリ(外形上ハ君主ノ内藏  
 ニ對シテ出訴スルヲ例トスルモ)我國ノ國法ハ民事關係ニ付テモ裁判所カ天皇ニ對シ裁判スルヲ認メス皇室

典範第五十條及第四十九條ノ規定ヲ見レハ此精神ハ明白ナルヘシ又理論上天皇ニ對シテ裁判スヘキモノニア  
 ラス何トナレハ裁判所ハ天皇ノ名ニ於テ裁判スルモノナレハ裁判所カ天皇ニ對シテ裁判スルモノトスレハ天  
 皇カ天皇ニ對シテ裁判スルコトナレハナリ  
 以上ヲ以テ之ヲ見レハ天皇ハ國法上刑法上私法上共ニ無責任ニシテ何等ノ例外ナシ

### 第四節 天皇ノ特權

- 第一、特權ノ意義  
 特權トハ一般臣民ト異ナル格式名譽ヲ有スルヲ云フ古來天皇ハ其時運ニ從ヒ時ニ或ハ非常ニ究境ニ陥リタル  
 コトナキコアラサルモ尙格式上ニ於テハ天皇ハ常ニ社會ヨリ尊崇セラレタリ
- 第二、特權ノ種別  
 大別シテ一、社會上ノ特權、二、財産上ノ特權、三、皇族自治權ノ三トス
- 一、社會上ノ特權
- 1、守備儀仗ノ權(師團司令部條例二條)
  - 2、敬稱ノ權(皇室典範十七條十八條)
  - 3、紋章ノ權(明治六年三月全四年六月布告)
  - 4、特別保護ノ權(刑法一編一章及百七十三條等)ノ如キ是ナリ
- 二、財産上ノ特權
- 1、宮中收入ノ權、維新後國家ノ會計ト宮中ノ會計トチ分別スル主義ヲ取リ國家ノ收入ハ國庫ノ所得ト  
 シ年々其幾分ヲ以テ宮中ニ收納セシムル制ヲ立テタリ皇室經費是ナリ(六十六條)現在ノ定額三百萬圓
  - 2、世傳御料權、世傳御料トハ皇室世襲財産ノ謂ナリ世傳御料ノ特權タル所以ハ普通ノ官有又ハ民有財  
 産ニ適用スヘキ法令タリトモ世傳御料ノ永續持久ニ害アルモノハ之ヲ世傳御料ノ上ニ行フコトヲ得サ



ルニアリ(典範四十五條)

3、普通財産ニ關スル權、租稅ヲ課セサルハ其特權タル所以ナリ從テ地租ニ付加スヘキ諸稅ヲモ課セス

三、皇族自治權

1、皇族自治ノ意義

皇族ノ何タルヤハ皇室典範三十條ニ列記セリ自治トハ身分關係及司法行政ニ關シ國家一般ノ法令ニ從ハス自ラ制度ヲ定メ之ヲ執行スル權ヲ云フ天皇ノ近親ハ公然一般法令ノ管轄外ニ置キ自治權ヲ保有シタルコトハ古代ヨリ變リナキ事實ナリ

2、皇族自治ノ範圍

甲、身分上ノ特例

皇族ノ身分普通民法ノ規定ニ從ハス典範ヲ以テ定メタル特例ニ從フ則チ

イ、天皇皇太子皇太孫ハ十八歳ヲ以テ成年トス(典範十三條四條)

ロ、戶籍ヲ作ラス皇族譜ヲ作ル(全三十三條三十四條)

ハ、皇族ノ幼者父ナキモノハ普通後見法ニ依ラス特例ニ從フ(全三十七條三十八條)

ニ、皇族ノ婚嫁ハ同族間若クハ特認華族ニ限リ且勅許ヲ要ス(全三十九條—四十四條)

乙、司法上ノ特例

イ、全族間ノ民事訴訟ハ勅令ニ依リ宮内省ニ於テ裁判員ヲ命ジ裁判セシメ勅裁ヲ經テ執行ス(全四十九條)

ロ、人民ヨリ皇族ニ對スル民事訴訟ハ東京控訴院裁判ス皇族ハ代人ヲ出シ自身出頭セス(全五十條)

ハ、刑事訴追ニ付キ勅許ナクシテ勾引シ又ハ召喚セラル、コトナシ(全五十一條)

ニ、品位ヲ濫シ又ハ忠順ヲ欠クトキハ皇族會議ニ諮問ノ上懲戒シ重キモノハ特權ノ一部又ハ全部ヲ

停止又ハ剝奪ス(全五十二條五十四條)

ホ、蕩産ノ行爲アルトキハ皇族會議ニ諮問ノ上勅旨ヲ以テ禁治産ヲ宣告シ管財人ヲ任ス(全五十三條五十四條)

丙、行政上ノ特權

總テ戶籍及土地ヲ基礎トスル行政上ノ法令ハ皇族ノ上ニ行ハレス故ニ

イ、徵兵令ハ行ハレス

ロ、地租條例亦同シ

ハ、所得稅法亦同シ

ニ、自治體ノ行政及自治體ニ委任スル國家事務ハ概シテ皇族ノ上ニ行ハレス

3、皇族自治ノ機關

甲、皇族會議ハ成年以上ノ皇族男子ヲ以テ組織シ内大臣樞密院議長宮内大臣司法大臣大審院長ヲ參列

セシム議長ハ天皇自ラナスカ又ハ皇族ノ一人ヲシテ之ニ任セシム(全五十五條五十六條)

乙、樞密顧問、皇位ニ關スルコト多キヲ以テ官府タル樞密顧問ヲシテ干與セシム(樞密院官制六條ノ

一)

丙、宮内大臣(宮内省官制二條三條)

丁、皇族職員

1、親王家—別當、家令、家扶、家從

2、賭王家—家令、家扶、家從

4、皇族自治ノ條規(主要ナルモノハ皇室典範ナリ故ニ典範ノミ說明シ他ハ略明セス)

甲、皇室典範ノ性質



- 1、一般人ハ其家法ヲ制定スル自由アルモ之ヲ以テ一般人ノ身分及國家ノ司法行政ニ對スル權利義務ヲ左右スルヲ得ス然ルニ獨リ皇族ニ限り其家法ヲ以テ國家法令ノ上ニ加ヘ憲法ト相并ヒテ公然ノ効力ヲ有セシムル權アリ是皇族自治カ天皇ノ特權タル所以ナリ
- 2、皇室典範ハ皇家ノ家法及相續法ヲ揭クルモノナルヲ以テ此点ニ於テハ私法ノ範圍ニ屬ス然レトモ他ノ一方ヨリ見レハ此家憲ハ國家ニ勢力ヲ及ホシ統治ニ關係ヲ有スルモノアルヲ以テ此点ヨリ論スレハ公法ノ性質ヲ具フルモノナリ

乙、皇室典範ト憲法トノ關係

- 1、皇室典範ハ立法ノ順序ニ於テ憲法ニ先ツモノト云ヘキモノナリ何トナレハ憲法ハ天皇ヨリ出テタルモノニシテ典範ノ關スル所ハ天皇ノ皇位ニ關スルモノナリ
- 2、乍併典範ハ憲法ノ一部ヲ成スモノニアラス或國假令ハ「バーデン」ニ於ケル如ク憲法ニ於テ家法ヲ以テ憲法ノ一部ナリト明言セル場合ハ格別ナルモ單ニ憲法カ典範ニ定ムル所ニ依リ規定スルト云フ理由ヲ以テ典範ハ憲法ノ一部ナリト認ムルヲ得ス憲法カ直接規定ヲ爲サスシテ他ノ法律命令ニ讓リタル場合ハ少カラス例ヘハ憲法第五十七條第三十四條ノ如キ是ナリ乍併此ノ如キ場合ニ於テモ裁判所構成法若シハ貴族院令ハ單純ノ法律命令ニシテ決シテ憲法ノ一部トナルモノニアラス然ラハ皇室典範ニ於テモ同様ニシテ典範ヲ以テ憲法ノ一部ナリト云フヲ得サルハ明白ナリ
- 3、典範ハ憲法ヲ動ス力ナシ若シ典範ヲ改正シテ憲法ヲ變更スルヲ得ルナラハ立憲制ノ擔保ハ此点ヨリ破ル、トナルヘシ故ニ典範ノ變更ハ憲法ヲ變更スル力ナシトセル所以ナリ(七十四條二項)

第三章 皇位繼承

第一節 皇位繼承ノ意義

第一、皇位トハ皇室嫡宗ノ國法上ノ地位ヲ謂ヒ其地位ニアル人ヲ天皇ト云フ皇位ハ日本帝國ヲ統治スルヲ權利ナルト同時ニ亦之ヲ統治スル義務ナリ相續ノ私事ニアラス此本質ヨリシテ左ノ論結ヲ生ス

- 一、日本帝國ハ万世一系ノ皇位ト相終始ス
  - 二、皇位ハ國家ノ主權ナリ則チ皇位ハ憲法ニ依リ始テ統治權力ヲ得タルモノニアラス
  - 三、皇位ニ即クヘキ人隨意ニ之ヲ辭退シ又ハ他人ニ之ヲ贈與スルヲ得ス
  - 四、皇位ハ數人ニ之ヲ分割スルヲ得ス換言スレハ皇位ハ不可分ナリ
- 第二、皇位繼承、皇位繼承ノ場合ハ天皇崩御ノ時ニ限ル如何ナル場合ニ於テモ讓位ノ事ナシ歴史ヲ按ズルニ第三、十四代舒明天皇マテハ讓位ノ事ナシ其後ハ讓位ノ事往々アリタルモ多ク戰亂ノ時其他變例ノ時ニ限ル故ニ古代ノ制ニ則リ讓位ノ事ヲ認メサルコトセルナリ只障害永キコ直ルトキハ或ハ攝政ヲ置ク場合トナルコトアルヘキナリ
- 國法ノ原則ニ依レハ皇位ニ間斷アルヲ許サズ蓋シ皇位ハ統治ノ主體ニシテ而テ統治權ノ發動ニ間斷アルヲ許サ、レハナリ天皇崩御ノ瞬間ニ皇嗣皇位ヲ繼承ス所謂讓位是ナリ一定ノ形式ニ依リ踐祚ト稱スル効果ヲ生スルモノニアラス踐祚ハ國法上權利移轉ナリ踐祚ハ即位ノ禮トハ別ナリ即位ノ禮ハ一ノ儀式ニシテ京都ニ於テ之ヲ行フ國法上ノ重要ナル効果ヲ生セス(典範十一條)

第一節 皇位繼承ノ資格及順位

第一、皇位繼承ニ付テハ皇位繼承ノ資格及順位ヲ區別スヘシ一定ノ條件ヲ充スニアラサレハ如何ナル場合ニテモ皇位ヲ繼承スルヲ得ス之ヲ皇位繼承ノ資格ト稱ス繼承ノ資格ヲ有スルモノ、内ニテ何人カ皇位ヲ繼承スル先位ナルカヲ定ムルモノ之ヲ皇位繼承ノ順位ト云フ繼承ノ資格ハ各人ニ屬スルモノニシテ繼承ノ順位ハ有資格者相互ノ關係ニ屬スルモノナリ此資格及順位ハ國法上當然定マルモノニシテ各個ノ場合ニ於テ特ニ之ヲ定ムルコトヲ得サルモノナリ



第二、繼承ノ資格

- 一、天祖ノ後裔ナルコト、養子猶子ヲ認メス(典範一條四十二條)
- 二、男系ノ男子ナルコト、女子ヲ排斥スルハ勿論女系ノ男子ヲモ排斥ス(全一條)歴史ヲ按スルニ崇峻天皇マテ三十二世嘗テ女帝ナシ神功皇后モ攝位ニ止マリテ女帝アルハ多ク外戚ノ專横其他變例ニ出タルモノナラヲ以テ古制ニ則リ女帝ヲ認メサルコトナシタリ
- 三、國法ニ從ヒ爲シタル婚姻ヨリ生シタルモノナルコト、皇族ノ婚嫁ニハ勅許ヲ要ス勅許ヲ經サルモノハ婚姻其自身ノ效果ヲ生セス故ニ此婚姻ヨリ生シタルモノハ私法上ノ認知ノ規程ニ依リ所生子ヲ認知スルヲ得ス故ニ此子ハ繼承ノ資格ヲ有セサルナリ

第三、繼承ノ順位

順位トシテハ繼承ノ資格アル皇族中皇族譜ニ依リ前後ノ別アリ大要ヲ舉クレハ

- 一、嫡流ヲ先ニシ庶流ヲ後ニス(典範四條)
  - 二、卑族ニ傳フルヲ原則トシ尊屬ニ逆ラス(全一條一五條)
  - 三、嫡長子孫ニ傳フルヲ正順トシ嫡長子孫ナキ場合次子以下ニ及フ(全一條一四條)
  - 四、子孫ナキ場合始メテ傍系ニ及フ(全五條一七條)
  - 五、同等資格ニ於テハ長ヲ先ニス(全八條)
- 身體精神ノ不治重患若クハ重大ノ事故アルトキハ皇族會議及樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ承順位ヲ變換スルヲ得(全九條)諮詢ヲ發スルモノハ天皇ニシテ他ノ者ハ何人ト雖トモ之ニ紛更ヲ試ムルヲ得ス

第四章 攝政

第一節 攝政ヲ置ク場合

第一、國法上ヨリ云ヘハ「王ハ會テ死セス」則國家ノ統治權ハ永々間斷ナシ發動シテ止息スル所ナシ故ニ元首ノ地位ニ間斷ナシト雖トモ事實上天皇ノ能力ニ變化ナキ能ハス故ニ天皇ノ幼少又ハ身心ノ故障ノ場合ニ於テ天皇ニ代リ元首ノ權力ヲ行フ者ヲ設クル必要アリ攝政是ナリ故ニ攝政ハ形容シテ天皇不能力ノ場合ニ於ケル國法上ノ後見ナリト云フヲ得ヘシ

第二、攝政ヲ置ク場合ハ

- 一、天皇成年ニ達セサル場合、天皇ノ成年ハ十八歳ナリ(典範十九條一項十三條)
- 二、久コ亘ル故障ノ爲メ大政ヲ親ラスル能ハサル場合、(全十九條二項)皇族會議樞密顧問ノ議ヲ經テ攝政ヲ置ク此議ヲ起スモノハ明ニ規定ナキモ天皇ナルヘシ何トナレハ皇族會議モ樞密顧問モ天皇ノ諮詢ニ答フル權能アルノミナレハナリ

第二節 攝政ニ任スル人

- 第一、攝政ニ任スルニモ亦其資格ト其順位トノニ區別スルヲ要ス其資格ハ繼承ノ資格ト略同一ニシテ只一ニノ差異ハ繼承コハ男系男子ニ限ルモ攝政ハ女子ヲ排斥セサルト成年者ナルコトヲ要ストニアリ但女子ハ其配偶者ナキトキニ限ル(典範二十一條一二十三條)

- 第二、攝政ニ任スヘキ順位
  - 一、成年ノ皇太子、次位成年ノ皇太孫(全二十條二十二條)
  - 二、他ノ成年ノ皇族男ヲ先ニス(全二十一條)
  - 三、重大ノ事故又ハ重患アレハ皇族會議及樞密顧問ノ議ヲ經テ其順序ヲ變更スルヲ得(全二十五條)
  - 四、皇太子皇太孫成年ニ達シ又ハ事故ヲ除クトキハ攝政ハ其任ヲ讓ラサルヘカラス(全二十四條)

第三節 攝政ノ國法上ノ地位

第一、國法上ノ地位



- 一、攝政ハ天皇ノ權力ヲ自ラ具フルニアラス然レトモ其意思ヲ以テ天皇ノ意思ヲ補ヒ之ニ依テ天皇ノ權力ヲ行使ス(十七條二項)
- 二、法理上攝政ノ行為ハ天皇ノ行為ナリ天皇ノ行為ナルカ故ニ國家ノ行為ナリ然レトモ攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行使スルノミニテ天皇ニ代リテ大權其モノヲ具有スルニアラス故ニ職權ヲ以テ大權其モノ、實体ヲ動スヲ得ズ則憲法及典範ハ攝政ヲ置ク間變更スルヲ得ス(七十五條)
- 三、攝政ハ天皇ノ委任ニ依リ大權ヲ行フモノニアラズ憲法上當然之ニ任スルナリ憲法ニハ攝政ヲ置ク場合ノ必要ノ有無ヲ決スルコトアルモ是ハ憲法上置クコトヲ必要トスル場合ニ當ルヤ否ヤヲ決スルモノニシテ攝政ヲ置ク必要アリヤ否ヤヲ決スルモノニアラス苟モ其場合存スル以上ハ憲法ハ必ス攝政ヲ置カサルヘカラストスルナリ
- 四、攝政ハ形容ヲテ云ヘハ天皇ノ國法上ノ後見ナリ故ニ天皇ノ私法上ノ關係ニ於ケル後見ハ攝政ノ干知スル所ニアラス然レトモ典範ニ依リ天皇ニ屬スル權力則皇族ニ對スル權力ハ尙國法上ノ後見タル攝政ノ權限ニ屬ス私法上ノ關係ニ於ケル後見ハ大傅之ニ任ス(典範二十六條一二十九條)
- 第二、一身上ノ資格
  - 一、攝政ハ臣民ナリ天皇ニ代リテ大權ヲ行フモ自ラハ天皇ニアラス故ニ天皇ニ屬スル社會上ノ特權ヲ有セズ社會上及財産上ノ特權ハ依然天皇ニ存ス
  - 二、無責任ニ付テ、1、國法上ノ無責任ハ攝政モ事實ニ於テ同一ナリ何トナレハ國務大臣ニ於テ攝政ヲ補弼シ其責任スルカ故ナリ 2、刑法上ノ無責任ニ攝政タルノ任ハ憲法ニ基ツク憲法ハ刑法刑事訴訟法ノ上ニアリ刑事ノ結果トシテ國法上ノ攝政ノ任ヲ盡スヲ際容スルヲ許サズ私法上ノ無責任ニ付テモ亦同様ナリ

#### 第四節 攝政ノ終任

- 攝政ノ終任ハ攝政ヲ置ク必要止ミタルニ依ル場合ト攝政ニ任シ居ルモノカ攝政ノ地位ヲ喪失シテ次ニ任スキモノカ之ヲ承繼スヘキ場合トノ二アリ
- 第一、攝政ノ必要止ミタルニ依ル終任
- 一、原因ノ消滅
    - 1、天皇成年ニ達シタルトキ
    - 2、故障止ミタルトキ、攝政ヲ置ク場合ト同一手續ヲ要ス提議者ハ攝政ナルヘン
  - 二、天皇ノ崩御
- 第二、攝政ニ任スル者カ攝政ノ地位ヲ喪失スルニ依ル終任
- 一、攝政ニ任スルモノ、身上ノ出來事ニ依ルモノ
    - 1、攝政ノ死亡
    - 2、攝政者カ大權ヲ行フコトヲ得サル故障ニカ、リタルトキ
  - 二、攝政者身上外ノ出來事ニ依ルモノ
    - 天皇ノ近親(皇太子若クハ皇太孫)カ成年ニ達シタルカ又ハ其故障カ除カレタルトキ



## 第二編 統治ノ範圍

### 第一章 總論

第一、國家ノ統治範圍ハ左ノ二元素ニ依リ定マル

一、領土 二、臣民是ナリ

國家ノ統治ノ客体ハ人及人ノ集合体ニシテ領土ハ統治ノ客体ニアラス統治權カ人ニ對シテ行ハル、限界タルニ限キラス

前示所説ニ反對シテ或一派ノ學者ハ統治ノ客体ナルモノハ物及之ニ準スヘキモノ(奴隸ノ如キ)ニ限ルト主張ス(ブロイス)此説ハ私法ノ觀念ニ基スルモノニシテ國法上ノ統治ト私法上ノ支配トヲ混同シタル誤謬ニ出ツ又或一派ノ學者ハ領土ハ統治ノ客体ナリ國家ハ領土ニ對シ一種ノ權利ヲ有ス此權利ハ實質上臣民ニ對スル權利トハ異ナルモノニシテ國家ノ物權ト稱シテ可ナリ國家ハ其目的ヲ達スル爲メニ臣民ヲ統治スルノミナラズ土地ニ對シテモ亦其權利ヲ用ヒサルヘカラズ臣民ニ對スル權モ土地ニ對スル權モ等シク命令權ナリ乍併臣民ニ對スル權ハ親族法ノ權力干係ニ類スルニ反シ國家カ領土ニ對スル權ハ一ノ物件ヲ完全ニ支配スル点ニ於テ私法上ノ所有權ト性質ヲ同クス只有物權ヲ支配スル方法目的及實體ヲ異ニスルノミト(ケルベル、ラハント等)臣民カ統治ノ客体ナルコトハ別ニ説明ヲ要セス何トナレハ抑モ統治ナルモノハ國家ノ目的ヲ達スル爲メ活動スル國家作用ニシテ主トシテ臣民ヲ命令強制スルコトニ依リテ達セタル、モノナレハナリ乍併領土カ國家統治ノ目的ナリヤ否ヤニ付テハ前示ケルベル、ラハント等ノ説明ハ其當ヲ得タルモノニアラス抑モ二個以上ノ人格者間ニアラサレハ法律上ノ關係ヲ生ズルコトナシ一ノ人格者カ他ノ物體ニ對スル關係ハ單ニ事實上ノ關係ニ過キスシテ法律上ノ關係ニアラス何トナレハ抑モ法規ナルモノハ一人ノ意思ヲ認メ他人ニ對シ之ヲ保護ス於是物ニ對スル事實上ノ關係ハ始テ法律上ノ關係トナルナリ例ヘハ債權ハ二人以上ノ人ノ存在セザレハ成



立セサルヲ無論ニシテ所有權ノ如キモ法カ一人ノ物ニ對スル支配權ヲ認メ(則一人ノ意思ヲ認メ)他人ノ之ヲ侵害スルコトナク其權利ヲ享有スヘキコトヲ保護シ之ヲ侵害スル者ニ一定ノ制裁ヲ加フ(則他人ニ對シ之ヲ保護ス)公法ノ範圍ニ於テモ亦同様ナリ則臣民ニ公權ヲ付與シタルトキハ此点ニ於テハ國家ノ意思ヲ以テモ犯サ、ルコトヲ定ム(則他人ニ對シ之ヲ保護スルモノナリ)故ニ國家カ領土ニ對シ權ヲ有スト云ヒ若クハ領土ハ國家ノ統治ノ客體ナリト云フ以上ハ他ニ領土ニ對シ種類ノ權利ヲ有スルヲ得ル人格者ナカルヘカラス併シナカラ國家内ニ存在スル個人若クハ團體ニシテ國家ト同一ノ權利ヲ有スルモノナシ故ニ國法上領土ニ對シ所謂物權ナルモノ存在スヘキ理由ナシ然ルニ何レノ國家モ領土ヲ有スルノ能力アリテ國際法ハ一定ノ土地ニ對シ一國ノ權ヲ認メ他ノ國家ノ之ヲ侵スラ禁ス故ニ國家ト國家トノ間ニハ領土ニ對シテ權利ヲ有スルヲ得且國家ハ領土ヲ恰モ個人カ其所有權ヲ處分スルカ如ク處分スルヲ得故ニ國際法上ハ國家カ領土ニ對シテ權利ヲ有スルナリ以上ヲ以テ之ヲ見レハ國際法上ノ關係ニ於テハ領土ハ統治ノ客體ナリ反之國法上ノ關係ニ於テハ領土ハ統治ノ客體ニアラスシテ國家ノ統治權カ人ニ對シテ行ハル、限界ナリト論スルヲ相當トス(ザイデル)

## 第二章 領土

### 第一節 領土ノ性質

領土ハ國法上統治ノ客體ニアラスシテ統治權ノ及フ限界ナルコトハ前説明セル所ナリ領土ノ此本質ヨリシテ左ノ效果ヲ生ス

- 一、積極的效果トシテ國家ノ領土内ニアル凡テノ人ハ臣民タルト外國人タルトヲ問ハス總テ國家ノ統治權ニ服從セサルヘカラス但國際法上治外法權ノ場合ハ其例外ナリ
- 二、消極的效果トシテ一國ノ領土内ニ於テ他國ノ權力ヲ排斥ス

### 第二節 領土ノ區域及變更

第一、領土ノ區域、諸國ノ憲法ハ或ハ領土ノ區域ヲ明ニ定ムルアリ獨逸帝國白耳義葡萄牙ノ如ク又ハ現在ノ區域ヲ以テ國家ヲ統治スト定メタルアリ例ヘハ普國ノ如シ此等ニ於テハ領土變更ハ他ニ特別規定ナキ以上ハ憲法變更ノ手續ニ從ハサルヘカラス或ハ變更ハ法律ヲ要スト規定セルアリ例ヘハ佛、普ノ如ク我國ニ於テハ憲法ハ領土變更ニ關シ何等ノ明文ナキヲ以テ專ラ天皇ノ決スル所ナリ何トナレハ權力所在ノ推定ハ天皇ニアレハナリ領土變更ノ性質上當然法律ヲ要スルモノニアラス國際條約ニ依リ領土ヲ得喪スル場合ニハ變更ハ條約締結ニ依リ當然生スルモノナリ

#### 第二、領土變更ト法律トノ關係

- 一、領土取得ノ場合、舊來ノ領土ニ行ハル、法令カ新領土ニ行ハル、ヤ否ヤハ一ニ各法令ノ精神ニ依ル
- 二、領土ヲ割讓シタル場合
  - 1、割讓地ノミニ特ニ設ケラレタル法令ナレハ當然消滅ス
  - 2、全國ニ行ハル、法令ナレハ單ニ施行區域ヲ縮少スルニ止マル

## 第三章 臣民

### 第一節 臣民分限ノ性質

國家ノ命令權ニ服從スルノミヲ以テ臣民ノ特質ナリト云フヲ得ス外國人ト雖トモ國家ノ領土内ニ於テハ其命令權ニ服從スルモノナルコト前領土ノ處ニ於テ説明セル如シ又臣民ト外國人トノ區別ハ臣民ニハ特別義務例ヘハ兵役義務ノ如キモノアルト同時ニ特別ノ權利例ヘハ參政權居住權國家ノ保護干涉ヲ求ムル權利アルカ故ニアラス何トナレハ兵役義務ノ如キモ無藉ノ外人ニ對シテハ之ヲ負擔セシムルヲ得サル理由ナク又參政權ノ如キ通常外人ニ與ヘサルモ又一方ニ於テ臣民全部必スシモ參政權ヲ有スルモノニアラサルカ故ナリ然ラハ臣民ト外國人トノ區別ハ命令權ニ服從スルト否トニ依ラス又特別權利ヲ有シ特別義務ヲ負擔スルト否トニ依ル



コアラシテ臣民外國人共ニ等シク國家ノ命令權ニ服從スルモ其服從ノ基本ヲ異ニスルニアリ則外國人カ國家ノ命令權ニ服從スルハ其領土内ニアルカ又ハ領土内ニ於テ法律上ノ關係ヲ有スルカ故ニシテ臣民カ國家ニ服從スルハ臣民則國家所屬員タルカ故ナリ故ニ臣民ハ特別規定若クハ事物ノ性質ニ依リ本國居住ヲ要件トスルモノ、外原則トシテ外國ニ於テモ國家ノ命令權ニ服從スルノ義務アリ只國家ハ他國ノ主權ヲ犯ス能ハサルカ故ニ臣民ノ外國ニアル間ハ其命令ヲ強制スルノ手段ヲ有セサルノミ約言スレハ外國人ハ領土ニアルノ故ヲ以テ服從義務ヲ負ヒ臣民ハ臣民タル故ヲ以テ服從義務ヲ負フモノナリ

### 第二節 臣民分限ノ得喪

第一、臣民分限ノ取得、分限ニ關スル條規ハ法律ヲ以テ規定ス(十八條)之ヲ規定セルモノハ明治三十二年三月ノ國籍法ナリ

國民分限ノ取得ハ出生、若クハ廣義ノ歸化ニ依ル

#### 一、出生、

二、歸化、廣義ノ歸化ニ二アリ一定ノ條件ニ當ルモノハ當然分限ヲ取得スル法律上ノ歸化ト一定ノ要件ヲ具ヘ且本人ノ願ニ依リ分限ヲ取得スル任意歸化則狹義ノ歸化ト是ナリ

1、法律上ノ歸化ハ婚姻認知養子縁組等ナリ

2、任意歸化ノ性質ニ付テハ議論アルモ我輩ノ信スル所ニ依レハ歸化ハ歸化人ノ意思ヲ條件トスル國家ノ行政處分ナリ

第二、臣民分限ノ喪失、喪失原因ハ死亡ト廣義ノ脫籍ナリ

#### 一、死亡、

二、脫籍、脫籍ニモ任意上ノモノト法律上ノモノトアリ

1、法律上ノ脫籍ハ婚姻離縁離婚等ニ依リ外國國籍取得、國籍喪失者ノ妻子其者ノ國籍取得、認知ニ依

リ其國籍取得、等ヲ云ヒ

2、任意上ノ脫籍ハ志望ニ依ル外國國籍ノ取得ヲ云フ

### 第三節 臣民ノ權利義務

第一、公權ナルモノハ權利ナルヤ否ヤコ付キ或一派ノ學者ハ(例ヘハ「ホルハック」)國家ハ法規ノ上ニ立ツモノニシテ法規ニ從フヤ否ヤ又如何ナル程度マテ從フヤハ一ニ國家ノ決スル所ナレハ國家ハ何時ニテモ法律ヲ廢スルヲ得故ニ臣民ハ國家ノ意思ニ反シ國家ニ對シ權利ヲ主張スルヲ得ス換言スレハ臣民ハ國家ニ對シ權利ヲ有セサルナリト主張ス抑モ國家ハ法規ヲ廢スルノ權ヲ有スルモ廢セサル間ハ國家モ之ヲ守ラサルヲ得ス法規ヲ廢セサルニ係ラス之ヲ遵守スルヲ要セストセハ公法ハ根本ヨリ存在セス然レトモ事實ニ於テ既ニ臣民ノ意思ヲ認メ其範圍ヲ犯スヲ得ストスル以上ハ是則臣民ノ權利ナリト云ハサルヲ得ス換言スレハ臣民ノ國家ニ對スル權利ハ國法上存在スルナリ次ニ憲法第二章ニ臣民ノ權利トシテ規定セルモノハ其實質ヨリ云ヘハ臣民ノ自由ノ保障ナリ此ノ如キ自由ノ保障ガ果シテ權利ナリヤ否ヤコ付テハ尙學說區々々々或一派ノ學說ニ曰ク權利ハ法規ニ依リ與ヘラレタル力ナリ法カ人ノ自然ニ有スル力ノ上ニ尙其人ニ付加シタル力ナリ法ハ他人ノ行為不行爲ヲ要求スル力ヲ與ヘ或ハ自己ノ行為ニ依リ一定ノ法律上ノ効果ヲ生スル力ヲ與フ如此法カ特ニ付與シタル力ハ則權利ナリ反之天然ノ自由ニ依リ法ノ禁セサル行為ニ付テハ法ハ各人ノ自然ノ力ノ上ニ一モ加ラズル所モナク又減スル所モナシ法ハ全ク何等ノ影響ヲ及サザルナリ故ニ天然ノ自由ハ法ニ依リテ與ヘラレタルモノナルコトアラス則權利ニアラス(ザイデル、チ、マイヤー)

然レトモ權利ナルモノハ必スシモ他ノ人格者ノ行為ヲ要求スルモノナルヲ要セズ他ノ人格者ニ對シ不行爲ヲ要求スルコトヲ得ルモノモ亦權利タルヲ失ハス憲法第二章ニ規定シ保障セル自由ハ皆元天然ノ自由ニアラス法規ニ依リ與ヘラレタル力ナリ憲法ハ國家自身ノ權力ヲ制限シ臣民ノ自由ヲ犯スニハ一定ノ形式ニ依ルヘキコトヲ規定シ其形式外ニ於テハ國家ノ干涉ヲ拒ムノ力ヲ臣民ニ與ヘタルモノナレハ憲法ノ保障スル自由ハ天



然ノ自由ニアラスレテ國家ノ不行爲ヲ要求スル權利ナリト云ハサルヲ得ス(ウインドシヤイロバンデシアン、  
一木氏國法學)

臣民ハ國家ニ對シ服從義務ヲ負擔ス則臣民ノ服從義務ハ國家ノ統治權ニ對立スルモノナリ此服從義務ヲ一派  
ノ學者ハ(例ヘハ穂積氏ノ如キ)解シテ絕對無限ノ服從義務トナス若シ臣民カ負擔スル義務カ絕對無限ナレハ  
國家ト臣民トノ間ニ法律上ノ關係ナク單ニ事實上ノ關係ノミト云ハサルヲ得ス從テ國法ナルモノ存在セス然  
ルニ臣民ノ國家ニ對スル服從義務ハ統治權ニ對立スルモノニテ統治權ノ行使ニ一定ノ制限アルコト前説明セ  
ル如クナルヲ以テ從テ臣民ノ服從義務ハ絕對無限ニアラスシテ或範圍ニ限ラレタリトス但シ憲法ノ規定ハ臣  
民ノ權利ノ全部ヲ網羅セサルト同時ニ臣民ノ義務ノ全部ヲ網羅セルモノニアラスシテ單ニ其重要ナルモノヲ  
列記シタルニ過キス

第二、臣民ノ權利

一、參政權、則國家統治權ノ行使ニ參與スル權(十九條衆議院議員選舉法等)

二、國民權、則個人ノ國家ニ對スル關係ヨリ生スル權利

1、國家ノ保護干涉ヲ求ムル權

イ、法律ノ保護ヲ求ムル權(二十四條)

ロ、內務行政ノ觀念ノ下ニ總括セラル、國家ノ保護干涉ヲ要求スル權

2、個人的自由權、則國家ノ干涉ヲ受ケサル個人的權利範圍ヲ云フ個人的自由權ハ國家ノ行政行爲特ニ

內務行政ニ對スル制限ナリ

イ、身体住所文書ノ不可侵(二十三條二十五條二十六條)

法律ニ定メタル場合ニ於テ其形式及條件ニ從ヒ之ヲ爲スコトアルヘキハ憲法ノ明言スル所ナリ

ロ、動作ノ自由

A、居住及移轉ノ自由(二十二條)  
B、營業ノ自由、公益ノ爲メ殊別法律規定ニ依リ資格證明又ハ免許ヲ要スルモノヲ除キ營業ハ各  
人ノ自由ナリ

C、婚姻ノ自由、但特種ノ官吏ニ存スル制限ヲ妨ケス

D、集會結社ノ自由

ハ、精神的動作ノ自由

A、信教ノ自由

B、言論ノ自由

C、著作出版ノ自由

ニ、財産ノ不可侵

ホ、訴願及請願權

訴願權トハ個人カ行政機關ノ處分ニ依リ其權利又ハ利益ヲ傷害セラレタリトスル場合ニ於テ上級  
機關ニ對シ其救濟ヲ求ムル權ヲ云フ  
請願トハ個人ノ利益若クハ一般公益ニ關スル事件ニ付キ將來ニ向ヒ國家機關ノ行爲不行爲ヲ求ム  
ル懇願ヲ云フ

第三、臣民ノ義務、服從義務ヲ類別スレハ

一、法律ニ服從スル義務

外國人ハ內國ニ在ルトキニ限り之ヲ負フヲ原則トス反之內國人ハ外國ニアルトキト雖モ之ヲ負フヲ原則  
トス

二、官廳ノ處分ニ服從スル義務



1、裁判所ノ處分、外國人モ亦之ヲ負フ終審裁判ニ對スル服從義務ハ絕對的ナリ  
 2、行政機關ノ處分、外人モ亦之ニ服從スル義務ヲ負フ  
 以上述ヘタル服從義務ヲ具體的ニ説述スレハ其最モ主要ナルモノハ臣民カ國家ニ對スル出捐ノ義務是ナリ所謂出捐トハ

一、勤務ノ給付

1、府縣郡市町村公職ノ擔任、他人ヲシテ代理セシムルヲ得ス(府縣制郡制市制町村制)或種ノ人特ニ官吏ハ此義務ヲ免除セラル

2、兵役義務(二十條及徵兵令)此義務ハ一般義務ニシテ他人ヲシテ代理セシムルコトヲ得ス

二、物ノ給付

1、租稅納付ノ義務

納稅ノ義務ハ帝國ニ對シテモ亦地方團體ニ對シテモ存在ス(二十一條、府縣制、郡制、市制、町村制)地方團體ニ對シテハ管ニ住民ノミナラス滞在者モ亦義務ヲ負擔ス

2、徵發ニ應スル義務

平時若クハ戰時ニ軍隊ニ對シ自然的給付ヲ爲スヲ云フ

3、收用ニ應スル義務

收用ハ主ニ土地ナレトモ必シモ然ラス例ヘハ惡疫流行ノ際補償ヲ與ヘテ收買ヲ撲殺スル場合ノ如シ

第三編 統治ノ機關

第一章 總論

第一、統治ノ機關、天皇ハ帝國ヲ統治ス天皇カ統治ヲ爲スニハ機關ヲ設ケ統治權ノ機能則作用ヲ分掌セシム是ヲ統治ノ機關ト云フ

天皇ハ統治ノ機關ニオラスシテ統治ノ主體タリ自存獨立シテ其權ヲ有ス是我國體ナルコト既ニ說明セル所ナリ統治機關ト云ヘハ統治者ニ依リテ設定セラレ統治權行使ノ機具タルモノニシテ獨立自存スルモノニアラス機關ハ國法ニ依リ存廢シ國法ニ依リ其職務ヲ行フ其重要ナルモノハ憲法ヲ以テ設定シ憲法ヲ變更スルコトヲカレハ廢止スルヲ得ス之ヲ憲法上ノ統治機關トス帝國議會國務大臣樞密顧問裁判所會計検査院ノ如キ是ナリ其他ハ法律命令ニ依リ設定ス統治權ハ前說明セル如ク最高唯一ノ權力ナレハ機關ノ設定ハ國權ノ分割ニアラスシテ國家統治事務ノ分配ナリ故ニ其機關ノ存廢ハ統治權行使ノ形式ノ變更ニ過キス

然レ共憲法カ統治機關ヲ規定シタルハ單ニ事實上器械的ニ統治者ノ統治作用ヲ補助スルト云フニアラスシテ統治者カ統治權ヲ行フニハ必ス國法上ノ機關ヲ通シテ之ヲ行フヘキコトヲ主旨トスルモノナレハ機關ニ一定ノ權限ヲ與ヘ總テ統治權ヲ行使スルコトハ或機關ニ依ルコトヲ國法上ノ必要條件トス是ニ於テ機關カ國法上或權限ノ主体トナルナリ併シナカク機關ノ表示シタル意思ハ機關ノ意思ニアラスシテ機關ニ依リ表示セラレタル國家ノ意思ナリ從テ意思ニ屬スル力タル權利モ機關ノ權利ニアラスシテ國家ノ權利ナリ約言スレハ機關ハ國家ノ爲ニ國權ヲ行フ權限ヲ有スレトモ獨立シテ權利ノ主体タルコトヲナス

機關ノ職權ハ國法ノ規定ニ依リ之ヲ有シ法令ノ委任ナキトキハ之ヲ行フヲ得ス反之其權限内ノ行爲ハ總テ有効ナルヲ以テ仮令其權限ヲ廢止變更セラル、モ其廢止變更前ノ行爲ハ總テ國家ノ意思表示トシテ有効ノモノナリ



## 第二、官廳及官吏、

官廳トハ國法上一定ノ範圍ヲ有スル國家權能ヲ元首ノ委任ニ依リ行使スル國家機關ヲ云フ。一、官廳ハ必シモ命令權ヲ行使スルモノタルコトヲ要セス。國家ノ財產及營造物ヲ管理スル機關モ亦官廳ナリ。例ヘハ大林區署、小林區署、葉煙草專賣局ノ如キ是ナリ。二、元首ノ委任ニ依リ行使スルモノナラサルヘカラス。然ラサレハ帝國議會ヲモ官廳ト云ハサルヘカラス。至ルヘシ議會ヲ官廳トスルハ官廳ナル語ノ從來ノ用例ニ反ス。官廳ヲ組織スル各個人ハ時々變更スルモ官廳ハ之カ爲ニ移動スルコトナシ。蓋シ國家ノ機關ハ之ヲ代表スル人々ヨリ獨立シテ存在スルモノナレハナリ。

官吏トハ特別ノ國家行爲(任命)ニ依リ一定ノ範圍内ニ於テ無制限ノ國家固有ノ事務(狹義ノ國家事務)ヲ擔任スルノ義務ヲ負フモノニシテ國家ニ對シ特別服從關係ノ下ニ立ツモノヲ云フ。故ニ官吏ハ

- 一、國家ニ對シ一定ノ範圍内ニ於ケル無制限國家事務ヲ擔任スヘキ義務ヲ負ハサルヘカス。但現ニ事務ヲ擔任シツ、アルヲ要セス。擔任スヘキ義務ヲ負ヘハ十分ナリ。例ヘハ休職官吏ノ如シ。
- 二、此義務ハ或ハ私法上ノ雇傭契約ニ基クコトアリ。或ハ國家行爲ニ基クコトアリ。其雇傭契約ヨリ生スルモノハ私法上ノ關係ニシテ國法ノ論スヘキ範圍外ニ屬ス。故ニ官吏ノ事務擔任ノ義務ハ私法關係ニ基クニアラス。シテ必ス國家行爲ニ基カサルヘカラス。又國家行爲ハ任命ナル特別行爲ナラサルヘカラス。個人ノ自由意思ヲ毫モ認メサル兵役ノ如キハ國家行爲ナルニ相違ナキモ此ノ如キ國家行爲ニ依リ事務ノ擔任ヲ命セラレタルモノハ官吏ニアラサルコト無論ナリ。

- 三、此事務ハ國家固有ノ事務ナラサルヘカラス。國家固有ノ事務以外ノ公ノ事務所謂廣義ノ國家事務ヲ擔任スルモノハ官吏ニアラス(例ヘハ公証人ノ如キ)是レ官吏ト公吏ノ別カル、所ナリ。國家固有ノ事務ト此以外ノ公ノ事務トノ區別ハ一ニ國法ノ規定精神ニ從フノ外ナシ。
- 四、又官吏ハ特別服從關係ノ下ニ立タサルヘカラス。特別服從關係トハ國家ナル政治團體所屬ノ總員カ其團

體(則臣民カ國家ニ)ニ對スル一般服從關係ノ外ニ官吏タル地位(身分)ヨリシテ更ニ特別ノ服從關係ノ下ニ立ツヲ云フ。而テ此特別服從關係ノ存在ハ主トシテ刑罰(主トシテ職務犯罪ニ對スル刑罰)及懲戒處分ニ依リ表彰セラル(ラバント獨乙國法論參照)。

## 第二章 政府

### 第一節 政府ノ意義

第一、帝國憲法ニ於テ政府ノ權ヲ定メタル規定ヲキテ以テ政府トハ如何ナルモノナルヤヲ説明スルコト極メテ困難ナリ。憲法第八條第三十八條第五十四條第六十七條第七十一條等ニ散見スル所ヨリシテ歸納シテ政府ノ意義ヲ説明ズレハ政府トハ天皇ノ大權ヲ行使スル機關ナリ。大權トハ議會裁判所等ノ權限ニ屬セス。君主ノ親裁シテ行フ所ノ政務ノ範圍ナリ。此大權ヲ施行スル機關カ政府ナリ。換言スレハ特ニ補助機關ヲ設ケタルモノヲ除ク以外ノ總テノ統治權行使ヲ補助スル機關ヲ政府ト云フ。政府ハ議會裁判所ト共ニ重要ナル憲法上ノ統治機關タルモノナリ。

政府ハ前説明ノ如ク統治ノ機關ナルカ故ニ法令ニ依リ其職務ヲ有スルノ外ニモ固有自存ノ權力アルコトナシ。法令ノ明許アルニアラサレハ國權ヲ行フコトヲ得ズ。元首ニ對スル地位ニ於テ議會ト政府トノ間ニ親疎ノ差アルコトナシ。政府ノミ皇位ニ密接シ天皇ヲ首長トシテ一體ヲ爲スモノニアラス。政府ヲ以テ行政ノ部トナシ。元首ヲ以テ行政ノ長トナス。或學派ノ説明ハ我國體ノ許サ、ル所ナリ。

第二、政府機關ノ組織、政府ノ組織ハ憲法ニ定メタル機關ノ外ハ大權ノ範圍ニ屬ス。憲法上ノ政府機關ハ國務大臣ナリ。其權限ハ憲法ニ於テ定ムルノ外大權ヲ以テ官制ヲ定メ其職掌ヲ分ツコトハ法律ヲ要セス。

國務大臣ハ大權ノ行動ヲ補助スヘキ官廳ナリ。補助トハ大權ノ行使ニ意見ヲ述ヘ又ハ之ヲ施行スル事實ノ働ヲ云フモノニシテ合意約束又ハ代理等ノ如ク法律的行動ヲ云フモノニアラス。故ニ君主ノ大權ノ或部分ヲ國務



大臣ニ委任シテ行ハシムルコトハ(代理關係)憲法ノ許サ、ル所ナリ  
 國務大臣ト行政官府ノ地位トハ其觀念ニ於テ異ナルコトヲ記憶セラルヘカラス現行法ニ依リハ國務大臣ハ總理大臣各省大臣及無任大臣ヲ云ヒ實際無任大臣ナルモノ實在スルコト極メテ稀ナルヲ以テ國務大臣ト云ヘハ各省長官ナリト考ヘ自ラ教育ヲ爲シ會計ヲ司ルカ如ク考ヘタル、モ是ハ單ニ官制ニ於テ國務大臣ヲシテ各省長官ヲ兼シムルカ爲メナルコト過キス憲法上ノ國務大臣ハ大權ヲ補弼スル官廳ニシテ行政ノ長官ニアラス行政長官以外ニ於ケル大臣補弼ノ職ヲ云フナリ又大臣ノ名稱ノ有無ハ問フ所ニアラス例ヘハ宮内大臣ハ名稱大臣ナルモ國務大臣ニアラス又憲法ニハ國務大臣ノ一人ナルト數人ナルトヲ問ハサルナリ歐洲ノ制ヲ按スルニ國務大臣カ或ハ一人ナルアリ例ヘハ獨乙帝國ノ宰相ノ如シ獨乙帝國ノ他ノ大臣ハ行政ノ長官ニシテ國務大臣ニアラス或ハ國務大臣カ憲法上ノ補弼機關ニアラスシテ國務大臣ヲ以テ組織セル合議体カ補弼ノ責任者タル制度ヲ採ルアリ是ヲ内閣制度(Cabinet System)ト云フ則チ責任者ハ各國務大臣ニアラスシテ大臣ヲ以テ組織セル内閣ナル合議体カ責任者ナリ例ヘハ英國ノ如シ我國ニモ内閣ナル名稱ハ英國ト同一ナルモ我國ノ内閣ハ大臣ノ國務ヲ議スル合議所ニシテ責任者ニアラス我國ノ責任者ハ各個ノ國務大臣ナリ故ニ我國ノ内閣ハ統治機關ニアラス内閣ナル名稱ノ同一ナル爲メ觀念ノ混同ヲ來サ、ルヲ要ス

### 第一節 政府ノ職權

#### 第一、政治ノ權、

爲政ノ方針ヲ以テ各省ノ計劃ヲ統治スルチ政府ノ專務トス是ヲ以テ此任務ヲ定ムル上ニ關係アル事柄ハ政府ニ於テ處分方法ヲ定メ天皇ニ上奏シテ裁可ヲ乞フノ權アリ之ヲ統治ノ權ト云フ其主ナルモノヲ舉シレハ

- 一、法律案ノ裁可不裁可ヲ奏請スル權
- 二、勅令ノ制定ヲ奏請スル權
- 三、閣令ヲ發スル權

#### 四、豫算ヲ編成シテ議會ニ提出スル權

#### 五、豫備金ノ支出ニ關スル權

等ノ如キ是ナリ

#### 第二、上奏ノ權及宣行ノ權

一、上奏ノ權、上奏ノ權トハ國家ノ他ノ機關ヨリ元首トシテノ天皇ニ上奏スル所ハ法令ヲ以テ特例ヲ設ケタルノ外必ス政府ヲ經由セシムルヲ云フ其特例ハ樞密院ノ上奏軍事參議官ノ上奏帝國議會ノ上奏會計檢査院法第十五條ノ上奏參謀本部海軍々令部ノ上奏等ノ如キ是ナリ

二、宣行ノ權、宣行ノ權トハ總テ天皇ノ國ノ元首トシテノ命令ハ何等ノ事件ニ關スルチ問ハス必ス國務大臣ノ副署ニ依テ初テ實施ノ効ヲ得ルヲ云フ國務大臣ノ副署ナキモノハ仮令外ニ對シテ發宣スルモノ之ヲ實行スルチ得サルヲ以テ立憲制ノ通義トス(五十五條二項、普憲四十四條)依テ副署ノ意義ニ就テ述ヘンコ副署トハ君主ノ發スル法令ニハ御名御璽アルノ外國務大臣之ニ署名スヘキコトヲ云フニ外ナラス副署ハ法令ニ特別規定アルノ外國務大臣一名ノ副署アレハ足ルモノニシテ必シモ國務大臣總員若クハ主任大臣ノ副署アルコトヲ要スヘキモノニアラス

#### 副署ノ國法上ノ効果ハ

- 1、副署ハ詔勅ノ國法上ノ効力ヲ生スル爲ニ必要ナル形式ナリ此形式ヲ缺クトキハ詔勅ハ國法上國事ニ關スル詔勅ト認ムルチ得ス
- 2、副署ハ政府奏宣ノ權ヲ經由シタルコトノ保證ニシテ則國務大臣カ詔勅ノ成立ニ與リタルコトヲ公ニ証明スルモノナリ
- 3、副署ハ國務大臣ノ責任ヲ表示スルモノナリ違法ノ詔勅ニ副署シタルモノハ他ノ証明ヲ俟タズ當然其責ニ任セサルヘカラス乍併大臣ノ責任ハ詔勅ニ參與シタル事實ニ依リテ成立スルナリ副署ヲ俟テ初テ責任生スルモノニアラス故ニ大臣ハ假令詔勅ニ副署セストモ其成立ニ參與シタルトキハ其責ヲ免ル、



ヲ得ス約言スレハ副署ハ大臣ノ責任ヲ表示スヘキモ副署ニ依リテ始メテ責任ヲ生スルモノニアラス  
第三、帝國議會ニ對スル權

- 一、議會ノ開閉集散ニ關スル權  
議會ノ開閉集散ハ憲法及議院法ノ規定ニ依リ天皇ノ命スル所ナリ然レ共其時日ノ早晚期間ノ長短如何ハ政治ニ關係ヲ及ス大ナルヲ以テ政府ヲシテ之ヲ定メシメ裁可ヲ經テ命令セラル、モノナリ
- 二、議長副議長勅任奏請ノ權(議院法三條)
- 三、出席發言ノ權  
國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ各議院ニ出席シ及發言スルコトヲ得(五十四條)

四、秘密會議ヲ要求スルノ權

但議院ハ必スシモ之ニ應スルノ義務ナシ(四十八條)

五、法律案提出ノ權(二十八條)

六、議案修正撤回ノ權(議院法三十條)

七、讀會省密ニ關スル權(議院法二十八條)等是ナリ

第四、行政各部及官吏ニ對スル權

各省以下ノ官廳ヲ總稱シテ行政各部ト云フ

政府ノ各省ニ向テ有スル所ハ 一、編制權、二、指令權、三、監督權ニシテ官吏ニ向ツテ有スル所ハ任免ヲ奏請スル權ナリ司法官會計検査官行政裁判所評定官ニハ法律カ特例ヲ設ケタリ元來官吏任免ハ天皇ノ大權ナルヲ勿論ナリト雖モ國務大臣ヲシテ行政ノ責任ニ任セシムル以上ハ行政ノ爲ニ使用スル機關ハ如何ニ編成スヘキヤ何人ヲ官吏ニ任用スヘキヤ又如何ニ之ヲ待遇スヘキヤニ付國務大臣ノ便宜トスル所ヲ斟酌セサルヘカラス因テ其案ヲ具シテ奏請スル權ヲ政府ニ付與シタルモノナリ

### 第三節 政府ノ責任

第一、政府ノ責任ノ意義、政府ノ責任トハ國務大臣カ政府人員トシテ有スル國法上ノ責任ニシテ一ニ之ヲ大臣ノ責任ト云フ大臣カ各省事務ニ關シテ有スル行政法上ノ責任ト區別スヘキモノナリ

第二、大臣責任ノ原因、大臣責任ヲ論スルニ當リテハ主觀的責任ト客觀的責任トヲ區別スルヲ要ス主觀的責任トハ責任ノ生スル資格ヲ云ヒ客觀的責任トハ責任ヲ救済スル方法ヲ云フ例ヘハ刑法ハ諸種ノ所爲ヲ罰スヘキ所爲ト定メ裁判所構成法ハ刑法ヲ適用スヘキ機關ヲ定メ刑事訴訟法ハ刑法適用ノ手續ヲ定ム此等ハ皆刑法上ノ責任ニ關シ客觀的ノ規定ヲ設ケタルモノナリ此等ノ規定アルモ刑法上ノ責任ハサル資格アルモノ例ヘハ一國ノ元首ニ對シ刑法ヲ適用スルヲ得ス是則主觀的責任ノ存在セサル故ナリ反之臣民ハ刑法上ノ責任ヲ負フヘキ資格ヲ有スルモ法律ニ明文ナキ所爲ヲ爲セハ處罰セラル、コナシ是客觀的規定ノ存在セサル故ナリ則客觀的責任ヲ欲シナリ其他如何ナル種類ノ責任ニテモ總テ主觀的ト客觀的トノ兩面ヲ有セサルモノナリ右ノ觀念ヲ以テ我憲法ノ規定ヲ見ルニ第五十五條第一項ハ單ニ大臣ノ責任ノ主觀的方面ヲ規定セルニ過キス此規定ヲ以テ客觀的方面ヲ併セテ規定セリトスルハ誤ナリ此規定ハ單ニ大臣ノ答責資格アルコトヲ規定セルニ過キス如何ナル責任ニ任スルヤ則責任ノ内容ハ之ヲ他ノ規定ニ俟タサルヘカラス然ラハ何故ニ此規定ヲ設ケタルヤ其理由ハ蓋シ國務大臣ノ責任ヲ他ノ一般官吏ノ責任ヨリ區別セントスルニアリ(一木氏國法學)

凡ソ官吏ト雖モ其自己ノ所爲ヨリ生セシ責任ニ任セサルヘカラスルコトハ無論ナリ乍併官吏ハ上級下級ノ區別アル故ニ下級官吏カ上級官吏ノ命令ヲ執行シタルカ爲ニ法ヲ犯ス結果ヲ生シタルトキハ其上官ノ命令カ形式上完全ナルニ限リ下級官吏ハ其責任ニ任セサルヲ一般ノ原則トス但法令ニ依リ上級官吏ノ命令ヲ執行シタル場合ニモ其違法ノ点ニ付責任ニ任セシムヘキ規定アルトキハ固ヨリ別事ナリ

若シ此ノ如キ規定アルトキハ此場合ニ於テハ其自然ノ觀念トシテ法律ハ上官ノ命令ノ審査ヲ下級官吏ニ與ヘタルモノト認メサルヲ得ス



憲法第五十五條ニ國務大臣ハ天皇ヲ補弼シ其責ニ任スト規定シタル以上ハ我國法上天皇ハ國務大臣ノ上官ニ  
 アラサルヲ無論ナリト雖也前示理論ノ精神ヲ汲ミ天皇ノ發スル國法上ノ命令カ國法ニ遵據セルモノナルヤ否  
 ヤヲ審査スルコトヲ大臣ニ與ヘタルモノト認メサルヲ得ス則天皇ノ國法上ノ命令カ國法ニ適合スヘキヤ否ヤ  
 ヲ審査シ若シ適合セサルトキハ之ニ適合スヘキ様務ムルカ大臣補弼ノ職ノ最モ著シキ任務ナレハ從テ違法ノ  
 命令ハ之ヲ執行セサル義務ヲ有ス此ノ如ク大臣カ天皇ノ國法上ノ命令ノ國法ニ適合スルヤ否ヤヲ審査シ其違  
 法ト認ムルモノハ之ヲ執行セサル義務ヲ有スル以上ハ若シ違法ノ命令ニ副署シ之ヲ執行シタルトキハ則補弼  
 ノ職ヲ盡サ、ルモノナルヲ以テ自ラ其責ニ任セサルヘカラサルヤ明白ナリ要之大臣ハ自己ノ不法行為ニ基キ  
 其責ニ任スルモノニシテ天皇ノ不法行為ニ付天皇ニ代リ其責ニ任スルモノニアラス反之國法ニ適合シタル天  
 皇ノ命令ハ國務大臣服從ノ義務アルヲ以テ國務大臣カ適法ノ命令ニ副署シタルトキハ仮令實質上國家ノ利益  
 ナ害スルコトアリトモ國務大臣テ國法上ノ責ニ任セシムルヲ得ス但大臣カ故意又ハ過失ニ依リ不利益ナ  
 ル政策ヲ立テ其結果茲ニ至レルトキハ其職務上ノ怠慢ニ對シ行政上ノ責ニ任スルハ別問題トス  
 國務大臣カ天皇ノ命令ニ對シ責任ヲ負ヘルコトハ副署ニ依リ之ヲ公証ス副署ノ事ハ前ニ之ヲ説明シタリ以上  
 説明シタルハ國務大臣ノ主觀的責任ナリ此ノ如ク主觀的責任アル以上ハ之ヲ救済スル手續則客觀的責任ノ規  
 定ナカルヘラス而モ現今此點ニ付テハ極メテ不備ニシテ只大臣ノ國法上ノ責任ヲ責問スル手續中  
 一、會計上ノ責任ニ關スルモノ則憲法第六章ノ規定ノ違反ニ關スルモノニ付テハ之ヲ裁判スルモノハ會計  
 検査院ニシテ其手續ハ會計検査院法ニ規定セラレタリ  
 二、其他ニ付テハ尙未ダ其手續ノ規定ナシ併シ將來制定ノ必要アリ

### 第三章 帝國議會

#### 第一節 帝國議會ノ國法上ノ地位

第一、近代ノ國家ハ政治上ノ理由ヨリシテ人民ヲシテ政治ニ參與セシム其參與セシムルニ二方法アリ  
 一、一定ノ資格アル人民ヲシテ直接ニ參與セシムルモノ  
 二、人民中ヨリ撰出シタル代議士ヲ以テ組織シタル議會ヲシテ參與セシムルモノ  
 第一ノ主義ハ瑞西或州ニ行ハレ第二ハ多數國家ニ行ハル我國モ亦第二ノ主義ヲ採レリ  
 第二、議會ハ人民ヨリ撰舉シタルモノヲ以テ組織スルヲ以テ法律上議會ノ意思ヲ以テ國民ノ意思ヲ代表スル  
 モノト推定スルナリ必シモ議會カ事實上國民ノ意思ヲ代表スルモノニアラス「シユルチエ」曰ク所謂國民ノ意  
 思ナルモノ別ニアリテ議會之ヲ實行スルモノニアラス法律上議會ノ意思ヲ以テ國民ノ意思トナスナリ議員カ  
 其職權ノ範圍内ニ於テ憲法ニ合ヒタル形式ヲ以テ爲セル決議ニ付スルニ國民ノ意思表白タル効ヲ以テスルナ  
 リト(獨乙國法論)

第三、君主國體ノ議會ト民主國體ノ議會トノ實質上ノ差異ハ  
 一、君主國ノ議會統治權ノ客體(則統治者)タル地位ニ居テ國民ノ意思ヲ代表スルモノナルニ反シ民主國ノ  
 議會ハ統治權ノ主體(則統治者)タル地位ニ立テ國民ノ意思ヲ表スル者ナリ民主國ニ於テハ主權ハ國民ニ  
 アリ故ニ國民代表ノ機關タル議會ニ於テ統治權ヲ行フ此ノ如キ國法關係ニ基ク國會ハ漸ニ憲法ノ明文ヲ  
 以テ他ノ機關ニ屬セシメタルモノヲ除ク外國家ノ各般ノ權力ヲ保有ス

二、民主國ニ於テハ國民ノ權力ヲ議會以外ノ機關ニ移スコトヲ容ミテ爲サ、ルカ故ニ國家百般ノ事業ハ皆  
 議會ノ意思ヲ以テ(法律)決定シ元首(大統領又ハ民立君主)ヲシテ單ニ之ヲ公布執行セシムルノミ反之君  
 主國ニ於テハ君主ノ決定シタル意思ヲ國家ノ意思トシ命令ヲ以テ執行スル權アリ只憲法ヲ以テ議會ノ職  
 權ニ屬セシメタルモノハ直ニ自己ノ意思ヲ以テ國家ノ意思トナスコトナク先ツ議會ニ協リ其同意ヲ俟テ  
 法律ノ名ヲ以テ公布シ執行ス然レトモ其所謂法律ハ議會ノ意思タルニアラス議會ノ代表スル所ノ國民ノ  
 意思ヲ以テ協賛シタル君主ノ意思ナリ



第四、帝國議會ハ統治權ノ目的タル國民ノ一方ニ立テテ其意思ヲ代表シ以テ統治權ノ行使ヲ補助スル機關ナリ其主タル機能ハ天皇ノ立法權ニ協賛スルニアントモ之ノミニ限ラズ議會ヲ以テ單ニ立法ノ機關トナスハ偏見ナリ現ニ上奏建議ハ政治ニ及フヘク又會計ニ關シテ職務ノ行政ニ涉ルモノ多キハ事實ナリ

第五、帝國議會ハ統治機關ナルカ故ニ

- 一、議會ハ自ラ開會シ自ラ閉會スルヲ得ス必ス天皇ノ命令ヲ俟ツ(十七條四十四條)
- 二、議會ハ自ラ其權利ヲ設定スルヲ得ス法令ニ依リ付與セラレ權限ニ限リ之ヲ享有ス
- 三、議會ハ國家ノ意思ヲ決定スルヲ得ス唯國民ノ意思ヲ代表シテ國家ノ意思決定ヲ贊助スルノミ

### 第二節 帝國議會ノ組織

各國ノ成例ヲ案スルニ議會組織ニ一院制ト二院制トアリ世界ノ大國ハ大約二院制ヲ採ル其理由トスル所ハ一、兩院ニ於テ同一事件ヲ種々ナル点ヨリ觀察シテ討究スルトキハ其議決精密ニシテ速算ナキヲ期スルヲ得二、法律ハ急ニ議決スルヨリモ寧ロ慎重ナルヲ要ス一院制度ニ於テハ多數ニ乘シ輕卒ニ議決シ將來ヲ觀ルノ恐レアリ 三、國中ニハ財産學識等則優秀性能ヲ有スル階級アリテ此階級ハ國家ノ發達ニ極テ必要ナル分子ナルモ其數ニ於テ少數ナリ若シ一院制度ヲ採ルキハ此優秀性分子ハ遂ニ代表セラレシテ終ルカ然ラサルモ適當ニ代表セラレシテ終ルヘシ故ニ二院制度ヲ採リ上院ヲ設ケ此優秀性分子ヲ代表セシムヘシト云フニアリ

我國ハ二院制度ヲ採リ貴族院及衆議院ヨリ成ル

#### 第一、貴族院

##### 一、貴族院ノ組織

- 1、皇族ノ成年男子(皇太子皇太孫ハ滿十八年其他ハ滿二十年)
- 2、二十五年以上ノ公侯爵(貴族院令七條)

3、伯子男爵二十五年ニ達シ各共同爵ノ選ニ當リタルモノ七年ノ任期ヲ以テ議員タリ(貴族院令七條)

##### 4、勅任議員

イ、各府縣ニ於テ滿三十年以上ニシテ多額ノ直接國稅ヲ納ムルモノ十五人中ヨリ一人互選シ勅任セラレタルモノハ七ヶ年ノ任期ヲ以テ議員タリ

ロ、國家ニ功勞アリ又ハ學識アル滿三十年以上ノ男子ニシテ勅任セラレタル者ハ終身議員タリ

##### 二、其特色

- 1、一定ノ官職アルモノヲ職權上ヨリ貴族院ノ議員ニ列セシメサルハ外國立法例ト異ナル所ナリ外國ニハ宮内大臣最高法衙ノ長官等ヲ其職權上ヨリ貴族院議員タラシムル制ヲ取ルモノ多シ
- 2、宗教ノ元素ヲ全ク度外視シタルモ他國ノ上院ト異ナル所ナリ
- 3、法人就中地方團體ヨリ議員ヲ取ラサルモ外國ニ往々見ル所ト異ナル所ナリ

#### 第二、衆議院

##### 一、衆議院ノ性質

衆議院ハ一般臣民ノ代表機關ナリ故ニ汎ク一般臣民ヲシテ其議員ヲ公選セシムル法ヲ採ル選舉ハ選舉人ニ於テ代表機關ノ編制ニ盡力スル公法上ノ義務ニシテ代理ヲ委嘱スル私法上ノ行爲ニアラス

##### 二、衆議院ノ組織

下院ハ何レノ國ニ於テモ人民ノ選舉ニ依リ組織セサルモノナシ選舉ニ制限選舉主義ト一般選舉主義ノ別ト直接選舉主義ト間接選舉主義ノ別トアリ

- 1、制限選舉主義トハ、撰舉者ニ或資格ノ制限特ニ財産資格ノ制限ヲ設クル主義ニシテ反之モノヲ一般撰舉主義トス則婦女幼者不能力者ヲ除キ國中各人ヲシテ撰舉權ヲ有セシムル主義ナリ例ハ佛國、瑞西、北米合衆國、獨乙帝國ノ如キ是ナリ



2、直接選舉トハ選舉人ニ直接代議士ヲ選舉セシムル方法ニシテ間接選舉トハ代議士ヲ選舉スヘキ者ヲ  
選舉セシメ選舉セラレタルモノヲシテ代議士ヲ選舉セシムル方法ニシテ二重ノ選舉ヲ爲スモノナリ  
例ハ普國「バイエルン」巴丁、那威等ノ如シ

人民ヲシテ政務ニ參與セシムル精神ヨリ云ヘハ可成廣ク人民ヲシテ選舉權ヲ有セシムルコトヲ希望スヘキハ  
論ヲ俟タサルモ選舉ハ國家ノ機關ヲ組織スル手段ナリ如何ナル程度マテ人民ヲシテ選舉ニ參與セシムルカハ  
如何ニ國家ノ機關ヲ組織スルニ最モ適當ナルヤヲ決セサルヘカラス代議ノ目的ハ社會ノ狀態ヲ議會ニ反映セ  
シムルニアリ普通選舉ハ數ノ多寡ハレテ實ヲ問ハサルノ恐アリ社界ノ下層ノ人民ハ優秀性能ヲ有スル中層若  
クハ上層ノ人民ヨリ數ニ於テ遙ニ多シ此下層ノ人民ハ智識ノ程度低ク從テ大概一定ノ見識ナク又此人民ハ財  
産ナキカ若クハ少ナキヲ以テ利害ヲ感スルコトモ中層若クハ上層ノ者ニ比シテ薄ク從テ選舉ニ關スル觀念冷  
膽ナルヲ以テ選舉ノ弊害其間ニ行ハレ易シ故ニ今日普通選舉ハ共和國ナルカ若クハ特別ノ歴史アルモノヲ除  
クノ外此制度ヲ採用スルモノナシ

我國ハ制限直接選舉主義ヲ採リ衆議院ノ組織ハ選舉法ニ依リテ之ヲ定メタリ其要點ヲ學クレハ選舉者ハ一、  
日本臣民男子ニシテ滿二十五年以上、二、選舉人名簿調製ノ期日前一年以上其選舉區内ニ住所ヲ有シ仍引續  
キ住スルモノ、三、一年以前ヨリ地租拾圓以上又ハ二年以前他ノ直接國稅拾圓以上ヲ納ムルモノ被選舉者ハ滿  
三十年以上ノ臣民男子トシ兩者ニ通シテ一、禁治產者、又ハ準禁治產者ニアラス、二、剝奪公權停止公權ニア  
ラス、三、禁錮以上ノ刑ニ處セラレ其確定ニ至ルマテノ間ノ者ニアラス、四、身代限又ハ破產ノ宣告ヲ受ケ確定  
ヨリ復權決定ノ確定スルマテノ者ニアラサルコトヲ要件トス

### 第三節 帝國議會ノ職權

第一、帝國議會ハ憲法ヲ以テ特ニ付與シタル職權ヲ有シ其他ヲ有セス是レ議會カ統治機關ナルヨリ生スル結  
果ニシテ民主政體ニ於ケル議院ト其國法上ノ地位ヲ異ニスル所以ナリ帝國議會ハ單ニ憲法ノ定ムル範圍内ニ

於テ國政ニ參與シ其職權ニ關シテハ之ヲ伸ヘ又ハ縮ムルコトヲ得ス換言スレハ議會ハ自ラ其議決ヲ以テ自己ノ  
權限ヲ伸縮スルヲ得ス憲法ノ明文ニ禁止ナキヲ口實トシ其權限ヲ擴張スルヲ得ス又憲法上參與スヘキ政務ヲ  
拋棄シテ之ヲ他ノ國家機關ニ讓ルコトヲ得ス是レ我國ノ議會ハ人格者ニアラスシテ國家機關ナルカ故ナリ凡  
ソ自己ノ目的ヲ有シ自主ノ權能アルモノハ法律カ禁セサルコトハ何事ヲ爲スモ自由ナリト解スルヲ原則トス反  
之人格ナキ機關ニ於テハ國法カ明文ニ之ヲ爲スヘシト定メタルコトノ外ハ爲シ得サルヲ原則トス故ニ議會  
ハ國法ニテ爲スヘシト命セラレタルコトノ外爲シ得ヘキ權能ナシ我國法ヲ以テ議會ニ付與シタル職權ノ多分  
ハ兩院ノ均シク有スルモノニテ只一部ノミ一院偏屬セリ

#### 第二、兩院共通ノ職權

##### 一、憲法改正ニ關スル權

天皇ヨリ憲法改正案ヲ下付セラレタルトキハ議決ヲ爲スヲ得併シナカラ憲法改正議案ハ法律案ニアラス  
全ク別種ノ議案ナリ其結果

- 1、特別議事法ニ依ルヘキコト
- 2、修正ヲ許サ、ルコト
- 3、條件ヲ付シテ議決スヘカヲサルコト
- 4、法律ヲ以テ憲法ヲ改正スルヲ許サ、ルコト

##### 二、法律命令ニ關スル權(五條三十七條)

###### 1、法律案ノ發議權

一、法律案ノ發議權ハ國法學上政府ノ必ス有セサルヘカヲサルモノナリ之ニ反シテ議會ニ之ヲ有セシム  
ルト否トハ一ニ國ノ成法ニ從フ近時ノ憲法ハ大抵議會ニ此權ヲ有セシム(瑞西國ハ例外)我憲法ハ第三  
十八條後段ニ依リテ各院ニ此權ヲ付與シタリ



二、政府ハ一旦提出シタル議案ヲ修正シ又ハ撤回スルヲ得ルモ議院ニハ此權ナシ何トナレハ主權君王政  
體ノ議會ハ推定ノ職權ナキヲ以テナリ

三、法律案ト法律草案トハ別物ナリ法律上ニ云ヘハ憲法ニ依リ發議權ヲ有スルモノヨリ提出シタルモノ  
ヲ始メテ法律案ト云フヲ得ヘシ其他ハ單ニ法律ノ草案タルニ止マルナリ發議權ハ政府及兩議院ニアリ  
故ニ其提出スル所ハ之ヲ法律案トナスコトヲ得反之議員ヨリ提出シタルモノハ法律案ニナサントスル  
法律ノ草案ニ過キス

此區別ヲナスハ空論ニアラス其實用ハ

甲、議院提出ノモノハ法律案ニアラサル故ニ必シモ三讀會ヲ經ルヲ要セス

乙、中途ニ否決セハ消滅シ斯ク消滅シタルモノハ法律案ニアラサルヲ以テ同會期カ再ヒ提出スルモノ不  
可ナシ(二十九條參照)

2、法律案ノ議決權(三十八條)

議會ハ法律案ヲ議決スル權ヲ有ス法律案ノ議決ヲ精密ニ分拆セハ二種ノ相異ナル決定ヲ包含ス

一、一ハ法律案ノ内容タルヘキ條項ヲ確定スルコト

二、他ハ此條項ヲ以テ法律トナスコトニ豫メ同意スルコト是ナリ

3、緊急勅令事後承諾權

議院カ緊急勅令ニ承諾不承諾ヲ與フルニハ何ヲ標準トスヘキヤニ付テハ左ノ二說アリ

一、議會ハ果シテ緊急勅令ヲ發スルノ必要アリシヤ否ヤ并ニ其命令ニ於テ規定スル所ノ手段ハ此必要ニ  
應スルニ適當シタルモノナリヤ否ニ關シテ諾否ヲ決スヘキモノニシテ寧ロ政府ノ緊急命令發布ニ於ケ  
ル責任ヲ解除スヘキヤ否ヤヲ主眼トスルモノナリ(スタイン)

二、緊急命令ノ必要アリト認メテ緊急命令ヲ發スル權ハ既ニ憲法第八條ヲ以テ政府ニ委任シタル所ナリ

故ニ此權利ヲ用ユルト否トハ政府ノ自由ナレハ議會ハ後ニ於テ之ヲ是非スルノ權ナシ事後承諾ノ目的  
ハ唯將來ニ向テ之ヲ法律トスルト否トヲ決スルニアリ(ホルンハッシ)

三、財政監督權

議會ノ財政事務ニ對シ監督ヲナス方法ハ

1、豫算議決(六十四條)

2、決算審査(七十二條)

3、國庫ノ負擔トナルヘキ契約ノ協贊(六十二條)

4、豫算外ノ支出ニ對シ事後承諾ヲ與ヘ及緊急ノ場合財政上ノ必要處分ニ關スル勅令ノ事後承諾(六十  
四條二項七十條二項)等ナリ財政事務ニ對シ協贊權ヲ行フハ行政ニ協贊スルモノニシテ立法ニ協贊ス  
ルモノニアラス則國家ノ事業ニ協贊スルモノニシテ國家ノ意思表示ニ同意スルモノニアラス

四、議會ノ意思表白權

1、上奏權、(四十九條議院法五十一條五十二條)

各院ハ各元首ニ對シ上奏ヲ爲スノ權ヲ有ス元首ハ議院ノ希望ヲ容ル、コトヲ要セサルハ勿論必シモ上  
奏ニ對シテ勅答ヲ爲スヲ要セス併シナカラ上奏權ヲ認メタル以上ハ上奏ヲ受理スルヲ要ス

2、建議權、(四十條議院法五十一條五十二條)

立法ニ關スルコト行政ニ關スルコトヲ問ハス何等ノ事件ニ限ラス建議スルヲ得併シナカラ建議ハ常ニ  
將來ニ向テ希望ヲ述フルモノニシテ已往ノ失敗ヲ非難スル如キハ建議ニアラス是上奏ト異ナル所ナリ

3、質問權(議院法四十八條四十九條)

何等ノ事件ニ限ラス質問ヲ爲スコトヲ得上奏建議ハ單ニ意思通告ニ止マルモ質問ノ權ハ單ニ意思ノ通  
告スルノミニアラスシテ報告ヲ求ムルノ權ナリ政府ハ其理由ヲ示サスシテ答辯ヲ拒ムヲ得ス



五、組織上ノ權限(五十一條)

組織上ノ權限トハ議院其内部ノ事務整理上ニ於テ有スル權利ナリ假令院内諸規則制定ノ權議院懲罰權ノ如キ是ナリ

六、請願ヲ受クルノ權(五十條)

- 1、請願トハ個人ノ利益又ハ一般ノ公益ニ關スル事件ニ付將來ニ向ヒ國家機關ノ行為不行爲ヲ求ムル懇願ヲ云フ故ニ已往ノ事實ヲ擧ケテ論スルモノハ勿論事將來ニ關係スルモノ單ニ其利害ニ關スル自己ノ意思ヲ述フルニ止リ國家機關ノ行為不行爲ヲ求ムルヲ目的トセサルモノハ請願ニアラス
- 2、議院ハ請願ヲ受ケテ審査ニ或ハ單ニ之ヲ政府ニ報告シ或ハ意見ヲ付シテ政府ノ報告ヲ求ムルヲ得ルモ議院ハ必シモ請願ヲ議定スル義務アルナク又政府ハ必シモ請願ヲ許可スルノ義務アルコトナシ

第三、一院偏屬ノ職權

一、貴族院偏屬ノ職權

貴族院ニ偏屬ノ職權ハ華族ノ特權ニ係ル條規ノ議決(貴族院令八條)

二、衆議院偏屬ノ職權

衆議院偏屬ノ職權ハ豫算案ノ先議權ナリ(六十五條)

- 1、我國ニ於テハ衆議院ノ先議權ヲ明ニ豫算案ノモ止メ其他ノ財務案ニ及ハス
  - 2、貴族院ハ英國其他ノ諸國ノ如ク豫算全体ニ付可否ヲ決スルコト止マルヘキ明文ナキニ依リ衆議院ト均シク修正ノ權ヲ有ス
- (第三議會ニ於テ實際問題トナリ上奏ヲ爲シ天皇ノ裁決ヲ仰キタルコトアリ天皇前説明ノ如ク裁決セラレタリ)

第四節 帝國議會ノ行動

議會ハ自ラ其發動ヲ作起シ又ハ之ヲ終止スル權利ナク一ニ天皇ノ勅命ヲ俟ツモノナルコトハ前説明セル所ナリ天皇ハ憲法ニ定メタル條項ニ依リ之カ發動ヲ命ス

第一、召集

一、召集ノ意義、召集トハ兩院議員ヲ議會開會ノ地ニ喚集メ以テ議會ヲシテ統治機關トシテ有効ナル發動ヲ爲スニ適シタル地位ニ置クヲ云フ

二、召集方法

- 1、兩院ヲ双方同時ニ召集スヘキモノトス何トヤレハ國法上兩院ヲ以テ一個ノ帝國議會トナスカ故ナリ(二十三條)
- 2、期日ヲ定メ少クトモ四十日前ニ召集ノ勅ヲ發スルヲ要ス
- 3、召集ニ毎年召集、臨時召集、衆議院解散後ノ召集ノ三アリ(四十一條四十五條六十四條)

第二、開會閉會

一、開會、召集ハ帝國議會ヲシテ其存立ヲ得セシムルコト止リ未タ有効ノ發動ヲナスノ權利ヲ得セシメス此權利ハ特ニ其爲メニ定メタル手續ヲ俟テ定マル之ヲ開會ト云フ

二、閉會、閉會スルトキハ其會期ノ事務ハ終了ナルモノトシ議案上奏建議請願ノ議決ニ至ラサルモノハ其儘終止シ次ノ會期ニ繼續スルコトナシ

第三、會期

一、開會ノ日ヨリ閉會ノ日ニ至ルマテノ日數ヲ以テ會期トス憲法第四十二條ハ三月ヲ以テ會期トシタルモ便宜問題ニシテ一定ノ理由アルニアラス又會期ノ延長モ其目的長短ヲ定ムルハ一ニ大權ニアリテ何等ノ標準ナク又幾回反覆スルモ天皇ノ自由ナリ

二、會期ノ延長ハ兩院同時ニ行ハサルヘカラス(四十二條)臨時召集ノ場合ハ會期ハ特ニ勅命ヲ以テ之ヲ定



（四十三條）

衆議院解散後ノ召集ノ場合ハ會期ニ付明文ナシ故ニ天皇ニ於テ自由ニ定ムルコトヲ得

第四、會議議事

- 一、議院ニ於テ政府ハ議員提出ノ各議案上奏案建議案及請願ニ關シテ其一院ノ意見ヲ定ムル所爲ヲ會議ト云フ會議ニ於テ各議員ノ意見ヲ圖ハシ遂ニ之ヲ一決セシムル方法ヲ稱シテ議事ト云フ
- 二、兩院ハ各其議員ノ三分ノ一以上出席スルコトヲサレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スヲ得ス
- 三、兩院ノ議事ハ公開ヲ原則トス（四十八條）

第五、議事進行中止

會期ノ繼續中議事ノ進行ヲ中止スル場合ニ二アリ

一、停會

- 1、政府ハ十五日以内停會ヲ命スルヲ得（議院法三十三條）
- 2、同一會期中幾回ニテモ停會ヲ命スルヲ得

二、休會

- 1、休會トハ議院ノ自ラ決議シテ議事ヲ中止スルヲ云ヒ政府ノ同意ヲ求ムルノ必要ナシ
- 2、休會ハ各院ノ別々ニ行フ所ノモノナリ

第六、解散

- 一、解散ハ滿期以前ニ於テ現任衆議院議員ノ任務ヲ解クヲ云フ天皇ノ行フ所ナリ解散ハ各議員ノ任務ヲ解クモノニテ衆議院ナルモノヲ解クモノニアラス（七條）
- 二、解散セラレタルトキハ貴族院ハ憲法第四十四條ノ結果トシテ當然停會ヲ命セラル

- 三、解散ハ元來議事ニ關スルモノニアラスシテ議員ノ任期ニ關スルモノナリ故ニ解散ヲ命スルハ會期中ニ於テ之ヲ命スルコト限ルコトナシ
- 四、衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ兩院ニ涉リ議案上奏建議請願ノ決議ニ至ラサルモノ皆終止シ後會ニ繼續スルコトナシ

第五節 兩院議員ノ權利義務

第一、兩院議員ノ國法上ノ地位

- 一、帝國議會ハ統治權ノ目的タル國民ノ一方ニ立テ其意思ヲ代表シ以テ統治權ノ行使ヲ補助スルノ機關ニシテ議員ハ議會ヲ組織シ其效用ヲ完フセシムルノ公職ニアルモノナリ
- 二、議員ハ公職ナリ故ニ參與ノ權ヲ行使スルト否トチ自ラ決スル權利ナク必ス參與スヘキ義務アリ從テ故際アルトキハ請假シテ其院ノ許可ヲ得サルヘカラス
- 三、一人ニテ同時ニ兩院議員タルヲ得ス是レ二院制度ノ精神ヲ完全ニ貫徹センカ爲ナリ（三十六條）

第二、議員ノ權利

一、國法上ノ權利

- 1、發言及表決ノ自由
  - 發言ノ無責任トハ司法權ニ對シテ言フモノ、義コシテ議院ノ懲戒權ニ對シテハ無責任ニアラス但意見ノ發表ト事實ノ陳述トヲ區別セス又文書ヲ以テスルト口頭ヲ以テスルトヲ區別セス
  - 憲法第五十二條ハ民事ニ關係ナシ故ニ人ノ名譽ヲ害スル發言ヲ爲シタルモノハ民事上ノ損害賠償ノ責ヲ免レ難シ

2、議員ノ身軀自由

開會後閉會前ニ於テハ現行犯罪又ハ國事犯ヲ除クノ外其院ノ許諾ナクシテ逮捕セラルコトナシ（五



十三條

開會前ヨリ逮捕セラレ居ルモノニハ適用ナシ何トナレハ憲法第五十三條ハ新ニ逮捕スル場合ヲ豫想セラルモノナレハナリ

憲法第五十三條ノ逮捕ハ審理ノ爲ニスル逮捕ニノミ適用シ刑ノ執行ノ爲ニスル逮捕ニハ關係ナシ

3、議員ノ特別保護(議會及議員保護法)

議會ノ議員ヲ誹毀侮辱スルモノヲ處罰シ以テ議員ヲ保護シタリ

二、議員ノ一身上ノ權利

1、歳費旅費日當ノ給與

歳費ハ官吏ノ俸給ト同様ニ其公職ニ居ル分限ニ對シ國家ヨリ支給スルモノナリ賃銀ニアラス又報酬ニアラス歳費供與ノ可否ハ考究スヘキ問題ナリ給セサレハ稍財產アルモノニアラサレハ議員トナルヲ得ス給スレハ政治ヲ職業トスルモノヲ生ス英國ノ如キハ支給セス普、佛ノ如キハ支給ス

第三、議員ノ責任

一、政治上ノ責任

自ラ國家ノ利益ト信スル所ニ從ヒ發言表決ヲ爲スヘキモノニシテ撰舉人ノ委嘱ヲ受クルヲ得ス

二、法律上ノ責任(議員ノ議院ニ對スル責任)

法律上ノ責任トハ議院法ノ禁ヲ犯シタル場合ニ生ス例ヘハ召集ニ應セス招狀ヲ受ケ一週日ヲ過キ尙出席セサル如キ是レナリ此ノ如キ場合ニ於テハ貴族院ハ出席ヲ停止シ勅裁ヲ乞ヒ衆議院ハ除名ス(議院法九十九條)

秩序ヲ亂リ不敬ヲ爲シ又無禮ノ語ヲ用ユル等ノコトアルトキハ懲戒處分ヲ行フ(全九十九條九十一條九十二條)

懲戒權ハ議長之ヲ有シ懲戒委員ニ依リ之ヲ行フ(全九十四條九十五條)

第四章 裁判所

第一、裁判所ノ國法上ノ地位

一、裁判所ハ司法權ヲ行フノ機關ナリ司法ハ統治權ノ機能ノ一ニシテ獨立自存ノ權力ニアラス

司法裁判所ハ國家ノ獨立機關ナリトノコトハ裁判所ハ行政機關ニ對シテ獨立ノ地位ニ立ツノ意ニシテ天皇ノ統治權以外ニ獨立スルトノ意ニアラス

二、裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム(五十七條)裁判所ノ構成ヲ定メタルモノハ裁判所構成法ナリ凡テ官制ハ勅令ヲ以テ定ムルヲ通例トシ法律ヲ以テスルモノハ憲法ノ特別規定ニ依ルモノナリ裁判所ノ官制ハ此特例ノ一タリ凡ソ法律勅令共ニ天皇ノ裁可スル所ニシテ法律ヲ以テ組織スルモ勅令ヲ以テスルモ其官廳タル性質ニ於テ異ナル所ナシ唯官制ヲ定ムル手續ヲ異ニスルノミ

三、裁判官ヲ任免スルハ固ヨリ君主ノ大權ニ屬ス但裁判官タルヲ得ルノ資格ハ法律ヲ以テ之ヲ定メ而シテ刑法ノ宣告又ハ法律ニ依ル懲戒ノ處分ノ外其意ニ反シテ其職ヲ免スルコトナシ然レ共是法律ヲ以テ其人ヲ任免スルニアラス任免ノ權ハ大權ニ屬シ唯法律ハ之ヲ任免スルノ要件ヲ一定スルノミ(五十八條)

第二、司法裁判所ノ種別

一、通常司法裁判所

區裁判所 地方裁判所 控訴院 大審院 通常司法裁判所トス(裁判法一條)

1、其權限ハ民事事ヲ裁判ス(全法二一條)

2、其組織

一、單獨制、區裁判所

二、合議制、地方裁判所、控訴院、大審院



3、其管轄

- 一、事物ノ管轄、訴訟物ノ性質及多寡ニ依テ定マルモノ(民訴法一條裁辦法第十四條十六條)
- 二、職務管轄、裁判權行使ノ方向ニ依テ定ムルモノ尙小分シテ1、事件ノ辯論及裁判ヲ司ルモノト又單ニ執行ヲ司ルモノト則訴訟裁判所ト執行裁判所トノ別ト2、審級ノ別(第一審控訴審上告審ノ別)ニ依リ區別スルモノトノ二トナスヲ得
- 三、土地ノ管轄、則土地ノ區域ニ依リテ定マルモノ(民訴法十條以下)

特別裁判所ノ設置ハ法律ニ依ラサルヘカラス命令ヲ以テ之ヲ設クルヲ得ス(六十條)

第五章 樞密顧問

第一、樞密顧問ノ國法上ノ地位(五十六條)

樞密顧問ハ皇室典範ニ於テ其權限ニ屬セシメタル皇室事務國家重要事務(主ナルモノハ國家全体ノ編成ニ付法律命令ニ付及政府ト議會ノ衝突ニ付キ)ニ付キ天皇ノ諮詢ニ應ヘ意見ヲ上奏スル合議機關ナリ

注意、樞密顧問ト樞密顧問官トヲ混同スルナキヲ要ス憲法上ノ機關ハ樞密顧問ニシテ樞密顧問官ニアラス

- 第二、樞密顧問ノ編制
  - 一、議長副議長各一人顧問官二十五人
  - 二、國務大臣ハ職權上顧問官タルノ地位ヲ有シ議席ニ列シ表決ニ加ハル職權ヲ有ス
  - 三、在京成年ノ皇族男子及特旨ヲ以テ樞密顧問官ニ列セラレタル國家ノ元勳
- 第三、樞密顧問ノ職權
  - 一、職權ハ意見ヲ奉ルニアリテ決シテ事務ニ關係スルコトナシ
  - 二、自ラ議ヲ發シ議決上奏スル權ナシ必ス諮詢ヲ俟タサルヘカラス

三、諮詢セラル、事項ハ樞密院官制第六條ニ列記シタルモノ是ナリ

第六章 特種官廳

特種官廳トハ政府議會裁判所以外ニ特立ノ地位ヲ有スル官廳ニシテ其特色トナル所ハ一、單ニ法律ヲ特段ナル場合ニ適用スルノニ獨立ノ意思ヲ以テ其盡サ、ル所ヲ補充スル必要ナク又其職權ナシニ、其職權ヲ行フ目的物ハ國家内部ノ官廳及官吏ニシテ國家ノ外部ニアラス(行政裁判ニ於ケル少數ノ場合ハ例外)從テ執行權ヲ必要トセスニ、官廳ハ常ニ必ス合議體ニシテ單獨制ノモノナキ是ナリ

第一節 會計検査院

第一、會計検査院ノ國法上ノ地位

- 一、國家會計ハ元來行政事務ノ一科ナリ然レトモ事國家ノ資力ト臣民ノ負擔トニ關係スルカ故ニ憲法々律ヲ以テ其原則ヲ定メ政府及行政官吏ノ責任ヲ明ニスル爲メニ特別ノ機關ヲ設ケタルナリ
- 二、會計ニ關スル原則ノ一部分ハ憲法及法律ヲ以テ之ヲ定ム而シテ會計上ノ命令ヲ此等ノ原則ニ適合セシムルハ國務大臣ノ國法上ノ責務ナリ國務大臣ノ國法上一般ノ責任ハ未ダ我國ニ於テハ特設ノ裁判機關ナキニ獨リ會計行政ノニ特設ノ裁判機關ヲ設ケタリ是則テ會計検査院ナリ故ニ検査院ハ會計命令ニ關スル國務裁判所ナリ併シナカラ會計検査院ハ仲裁裁判主義ニシテ検査院自ラ制裁ヲ行フモノニアラス
- 三、各省大臣及行政官ハ其會計ニ關スル事務ヲ會計ニ關スル法律規則ニ適合セシムル責任アリ是行政上ノ責任ナリ而テ之ヲ審判スル機關モ亦検査院ナリ故ニ検査院ハ會計事務ニ關スル行政裁判所ナリ

第二、會計検査院ノ組織

會計検査院ハ合議組織ナリ一般検査事務ハ合議ニ依リ行フ合議ニ部會議及總會議アリ  
検査官ハ勅令ニ定メタル資格アル者ヲ以テ任シ意ニ反シテ退官轉官又ハ非職ヲ命セラル、コトナシ



第三、會計検査院ノ職權

- 一、國務裁判所トシテノ職權  
決算ヲ検査確定シタル上其成績ヲ帝國議會ニ報告スルニアリ(會計検査院法十四條)
- 二、行政裁判所トシテノ職權
  - 1、支拂命令官ノ計算書檢定
  - 2、出納官吏(收入官吏現金前渡官吏物品出納官吏(金庫出納役))ノ検査判決  
此ノ爲ニ行フ方法ヲ書面検査及實地検査ノ二トス(二十二年勅令百六號)
  - 三、意見上奏ノ職權  
検査院検査成績ヲ天皇ニ上奏スルト同時ニ之ニ關スル法律又ハ行政上改良ノ意見ヲ上奏スル權アリ

第二一節 行政裁判所

第一、行政裁判所ノ國法上ノ地位

- 一、行政裁判所ノ本來ノ目的ハ行政事務ヲシテ行政法(則行政ニ關スル法律命令)ニ違背セサシムル爲之ヲ監督スルニアリ行政權ニ對スル一個人ノ權利ヲ保護スルカ如キハ此監督ノ偶然ノ結果タルニ過キス
  - 二、行政裁判所ノ大臣ニ對スル地位ハ検査院ノ大臣ニ於ケル如クニ完全ニ特立スルモノニハアラス
  - 三、行政裁判所ハ名ハ裁判所ナルモ其實ハ行政官廳ノ事務ノ現行法令ニ違背セサルヲ監視スル監視機關タルニ過キスシテ其裁判ノ結果ハ唯行政事務ニ關スル法令ノ適用ヲ示スニ止リ其適用ヲ誤リタル者ニ一定ノ制裁ヲ加フルニアラス只違法ノ判決ヲ受ケタル官吏ハ直ニ其處分ヲ更改スル義務アルノミ(行政法十八條)
- 第二、行政裁判所ノ組織
- 長官一人評定官幾名ヲ以テ成リ一人ノ裁判長四人ノ評定官ヲ以テ組織スル合議体ナリ  
長官評定官ニ完全ノ獨立ナシ何トナレハ組織ノ上ニ大臣ノ意思ヲ行フヲ得ンハナリ

第三、行政裁判所ノ職權

- 一、我國法ハ列記的概括主義ヲ取ル、法令ニ依リ出訴ヲ許シタル事件ニ限り審判スルノ權アルモノ(行政裁判所法第十五條)之ヲ列記主義ト云フ  
總テ行政事件ニ關シ訴訟ヲ提起スルヲ許スル原則トシ許サ、ルモノヲ明文ヲ以テ禁止スルモノ之ヲ概括主義ト云フ明治二十三年法律第百六號ニ於テハ兩主義ヲ折衷シタリ
- 二、損害賠償ノ訴訟ヲ受理セス、(行政法六條)  
蓋シ賠償ノ原因數額ヲ判定スルハ事實裁判ニシテ行政ニ關スル法律命令ノ適用問題ニアラス而テ行政裁判ハ行政法ノ適用ヲ誤リタルヤ否ヤノ問題ノ外ニ及フヘキモノニアラサルカ故ナリ
- 三、執行權ナシ、執行ヲ必要トスル場合(例ハ敗訴者ヨリ訴訟費用ヲ取立ツル場合ノ如キ)ハ其執行ヲ通常裁判所ニ囑託ス(行政法二十一條)

第三二節 權限裁判所

- 第一、權限爭議、官廳ハ法令ニ依リ各一定ノ職司ヲ有シ相犯スヲ得ス之ヲ權限ト云フ官廳間ニ其權限ニ付キ法令ノ解釋ヲ異ニスルトキハ則權限爭議アリ權限爭議ニ積極則二以上ノ官廳カ或事項ヲ互ニ自己ノ權限ナリト主張スル場合ト消極則二以上ノ官廳カ或事項ヲ互ニ自任ノ權限ニアラスト主張スル場合トノ二アリ
- 第二、權限爭議ノ場合
  - 一、行政各部ノ一行政官廳ト他行政官廳トノ權限爭議ハ內閣決定シ二、行政官廳ト行政裁判所トノ爭議ハ行政裁判所決定シ三、行政官廳ト司法裁判所トノ爭議ハ司法裁判所之ヲ決ス故ニ爭議ノ起ル場合ハ四、行政裁判所ト司法裁判所間ニ各其權限ニ付キ解釋ヲ異ニスル時ニアリ

第三、權限裁判所

未タ設置セラレス設置ニ至ル迄ハ樞密院之ヲ決ス(行政法四十五條)然レモ其手續ヲ定ムル勅令ノ發布ナキヲ



## 第四編 統治ノ機能

### 第一章 總論

第一、前説明ノ如ク天皇ハ統治ノ主体ニシテ固有獨存ノ權力ニ依リ帝國ヲ統治シ憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フ統治權ハ憲法ニ依リテ始メテ成立シタルモノニアラスシテ憲法ハ單ニ統治權行使ノ形式ヲ定メタルニ過キス統治權ノ作用ハ左ノ如ク分類スルヲ得

- 一、憲法上ノ大權
- 二、立法
- 三、司法
- 四、行政

是統治權則國權ノ作用ヲ其統治機關ノ權限ニ依リテ區別シタルモノニシテ國權ハ此四種ノ元素ヲ以テ構成スト云フニアラス是等ハ總テ皆唯一國權ノ作用ナリト雖モ之ヲ行使スルノ形式ニ於テ國法上便宜ノ區別ヲナスニ外ナラス

憲法上ノ大權ハ既ニ君主ノ大權ノ下ニ説明シタル所ナルヲ以テ之ヲ略シ立法司法行政ニ就テ論シ次ニ條約及豫算ノ事ニ論及セントス後ニ説明スル如ク元來條約ハ憲法上ノ大權ニ屬シ豫算ハ實質上行政ナルモ共ニ重要ノ問題ニシテ各別ニ説明スル價值アルノミナラス特別ニ説明スルカ通例ナルヲ以テ我輩モ亦之ニ從フ

## 第二章 立法

### 第一節 立法ノ意義

第一、立法ト云フ語ハ廣狹二義ニ用ヒタル廣義則本來ノ意義ニ於ケル立法トハ一般的則抽象的條規(法規)ノ



發布之目的トニル國家行動ヲ云ヒ狹義ニ於テハ法律ト命令トヲ區別シ立法トハ單ニ法律ヲ制定スルコトノミヲ指稱ス立法作用ハ或ハ新シキ規定ヲ設ケ或ハ舊規定ヲ廢罷シ變更シ或ハ有權的解釋ヲ爲スニアリ有權的解釋ハ法律ノ解釋タル外形ヲ有スルモ論理解釋ノ如ク論理上ノ理義ニ拘泥スル所ナキヲ以テ其實新シキ法ヲ作成スルモノトス

### 第二節 立法手續

第一、立法ハ統治權ノ作用ノ一ニシテ天皇ノ大權ニ存ス立法權ハ議會ニ存シ君主ハ行政ノ首長ナリトスレハ我國體ニアラス我帝國議會ハ法律案ヲ議定スルノ職權ヲ有スルモ立法者ニアラス立法機關トシテ法律制定ニ參與スルモノナリ

法律命令共ニ國家ノ意思ノ發表ニシテ共ニ國法ヲ成ス只法律ハ帝國議會ノ議定ヲ經ルコトヲ要ス  
第二、本來ノ意義ニ於ケル立法則汎ク國法ノ制定ハ其形式法律命令ノ二途ニ出ツ

### 第三節 法律

第一、法律ノ意義

法律ニ實質的意義ト形式的意義トノ二アリ

一、實質的意義ニ於ケル法律トハ一般抽象的ノ規定ヲ包含スル命令ニシテ法律上ノ拘束力ヲ有スルモノ(法規)ヲ云フ此意義ニ於ケル法律ニ對スルモノヲ處分トス處分ハ各個具體的事件ヲ定ムルヲ以テ其目的トスルモノナリ

二、形式的意義ニ於ケル法律トハ法律ノ形式ヲ以テ成立シ公布セラル、法規ヲ云フ換言スレハ帝國議會ノ議定ヲ經テ成立スル法規ヲ云フナリ

天皇ハ帝國議會ノ協贊ヲ以テ立法權ヲ行フ(五條)凡テ法律ハ帝國議會ノ協贊ヲ經ルヲ要ス(二十七條)立法ク

統治權ノ作用ニ屬シ一ニ天皇ノ權ニ歸スルコト憲法制定ノ前後ニ於テ其主義ヲ變スル所ナシ唯法律ヲ制定スルノ手續ニ於テ變更シケル所アルノミ議會ノ協贊ヲ經サルモノハ法律トナスヘカラス然レトモ議會ノ議決ハ立法ニアラス法律案ヲ議決スルノミ法律ノ法律トシテ成立スルハ一ニ裁可ニアリ裁可ハ天皇ノ大權ニ屬シ議會ノ議定案ヲ裁可スルト否トハ大權ノ自由ニ屬ス然ラハ立法權ハ天皇ノ大權ニ屬シ帝國議會ハ單ニ法律案ヲ議定スル權限ヲ有スルニ過キスト云ハサルヲ得ス

法律ハ實質ト形体トヲ具ヘテ成立ス包含スル規定ハ其實質ヲ成シ之ヲ國法トスル命令ハ其形体ヲ成ス行為ノ準則具ハルト雖トモ主權者之ヲ法トスルコトヲ命セサレハ効力ナシ又一方ヨリ云ヘハ法律ハ國家ノ命令ナリト云フトキハ人民ニ對シ行為ノ準則ヲ規定スルコトヲ意味ス是レ法律ノ一要素ナリ法律ノ實質ハ議會ノ議決ニ依リテ具ハリ法律ノ形式ハ天皇ノ裁可ニ依リテ具ハル

### 第二、法律ノ制定

法律制定ハ左ノ四階梯ヲ經テ完備ス

一、法律案ノ提出則發案

二、法律案ノ議定

三、裁可

四、公布

(一)法律案ノ提出ノコト及(二)法律案議定ノ事ハ前既ニ説明シタル所ナルヲ以テ再說セズ  
(三)裁可、裁可ハ法律ヲ完成ス法律ハ裁可ニ依リテ生ス議會ノ議定ハ立法ノ準備ナリ裁可ハ國家カ服從者ニ對シ法律トシテ施行スル旨ヲ命令スル命令權ノ發動ニシテ天皇ノ大權ニ屬ス換言スレハ裁可ハ國民ニ對スル大權ノ發動ニシテ議會ニ對シテ法案ヲ採納スル承諾ニアラス從テ議會ニ對シテ宣告スヘキモノニアラサルコト無論ナリ(英國ノ如キハ議會ニ對シテ宣告スルヲ要ストセリ)裁可アルモノハ一般ニ國法トシ



テ何人ニ對シテモ完全ノ法力ヲ有ス

裁可ハ法ヲ法トシテ成立セシムル行爲ナリ天皇ハ法律案ヲ裁可不裁可スル自由ヲ有スルモ一タヒ之ヲ裁可シタル以上ハ之ヲ公布セサルヘカラス而テ裁可ヲ經タル後ハ更ニ新ナル立法ノ手續ニ依ルノ外之ヲ廢止シ變更スルヲ得ス換言スレハ一タヒ裁可シタル以上ハ其裁可ヲ取消スコトヲ得サルモノナリ

裁可ハ何時マテニ決セサルヘカラスヤハ稍疑問ニ屬スルモ議院法第三十二條ニ「兩院ノ議決ヲ經テ上奏セシメタル議案ニシテ裁可セラル、モノハ次ノ會期マテニ公布セラルヘシ」トノ規定アルヲ見レハ裁可不裁可ハ次ノ會期マテニハ決セサルヲ得サルモノト云ハサルヲ得ズ從テ一度議決シテ上奏シタル議案ニシテ未タ裁可ヲ得サル法律案ハ其會期內ニ於テ再提出スルヲ得サルモノト論セサルヲ得ス蓋シ法律案ノ提出則發案トハ未タ成立セサル法律案ヲ成立セシムル働ナリ兩院ノ議決シタル法律案ニシテ未タ消滅セス(何トナレハ天皇ハ次ノ會期マテニ裁可不裁可ヲ決スルヲ要スルマテナレハ次ノ會期マテハ法律案ハ未タ消滅セスシテ天皇ノ手裡ニ存スルモノナレハナリ)現ニ存在セルニ拘ラス更ニ之ヲ成立セシムルコトハ概念ノ許サ、ル所ナレハナリ

(四)公布ハ法律ノ拘束力ヲ生スル所以ニシテ法律ノ遵守ハ公布ヲ以テ標準トナスモノナリ公布ナキモノハ臣民遵守ノ効力ヲ有セス法律ハ特定ノ人ニ對スル命令ニアラサルヲ以テ公布ハ特定人ニ對スル通告ニアラス何人ニモ法條ヲ認知スルヲ得ルノ方法ニ依ラサルヘカラス但シ臣民カ實際之ヲ知ルノ機會ヲ有スルヤ否ヤハ法ノ間フ處ニアラス公布ハ國家カ其意思ヲ表示スルノ方法ナルヲ以テ從テ國法上其權限ヲ有スルモノカ爲シタルニアラサレハ假令實際如何ニ臣民ニ周知セラル、モ國法上公布アリタリト云フヲ得ス法ハ公布ニ依リテ拘束力ヲ生スルヲハ前説明セル處ナリ此概念ヨリシテ別段ノ規定(假令ハ此法律ハ何年何月何日ヨリ施行ス又ハ此法律ハ公布アリタル日ヨリ何日後ニ施行ス等ノ規定ノ如シ)ナキハ公布ノ即時ヨリ施行セラル、モノト認メサルヲ得ス但シ通常公布ヨリ施行マテノ間ニ一定ノ期間ヲ設クルヲ例トス

以上ヲ約言スレハ法律案ノ提出ト議定トハ專ラ法律ノ實質ヲ具備シ裁可ト公布トハ其形体ヲ構成ス共ニ立憲制ニ於ケル立法ノ要件ヲ成スモノナリ

### 第四節 命令

#### 第一、命令ノ意義

命令トハ帝國議會ノ協贊ヲ經スシテ發布スル國家ノ意思ノ發表ニシテ一般的事件ニ通スルヲ目的トスルモノヲ云フ命令ハ天皇若クハ其委任ニ依リ行政機關之ヲ發ス

法律ト命令トノ區別ハ古キ國法ニハ存在セサリシ處ニシテ立憲制度ノ實施ニ依リ始メテ實際ニ行ハル、ニ至リタリ命令ノ法律ト異ナル所ハ議會ノ參助ナキノ一点ニアリ其處分ト異ナル所ハ處分ハ各個具體的事件ヲ定ムルヲ目的トスルモノナルニ反シ命令ハ實質上一般的事件ニ通スルヲ目的トスルモノナルノ点ニアリ

命令ハ獨立シテ法律ノ及ハサル範圍ニ法規ヲ設クル能力アリ但シ獨立シテ自由ニ命令スルノ能力ハ天皇ノ命令權ニ就テ云フモノニシテ行政機關ハ天皇ノ大權ニ藉口シテ其命令權ヲ濫用スルヲ得ス行政機關ハ法律又ハ勅令ノ概括的又ハ特別ノ委任ニ依ルニアラサレハ命令ヲ發スルコトヲ得ス官制ハ一定ノ事項ヲ指定シ其範圍內ニ於テ命令ヲ發スル職權ヲ概括的ニ委任シ法律勅令ハ特別ニ命令權ヲ委任スルコトアリ

命令權ヲ政府ノ諸官廳ニ分配委任スルハ官制權ニ伴フモノニシテ天皇ノ大權ニ屬ス故ニ諸官廳ハ其職司ヲ行フ外濫リニ之ヲ他官廳ニ委託シテ行ハシムルヲ得サルヲ通則トス蓋シ官廳ノ職權ハ自ラ之ヲ行使スルコトヲ條件トシテ付與セラレタルモノナレハナリ

#### 第二、命令ノ類別

命令ハ種々ノ点ヨリ觀察シテ種々ニ區別スルヲ得

一、命令ノ効果ヲ及ホス範圍ヨリ區別

命令ハ之ヲ規定スル事項ニ由リテ其實質ノ効果ヲ異ニス或ハ行政機關ニ對シ事務執行ノ規程ヲ訓諭スル



モノ則行政官廳ノ組織并ニ活動ヲ以テ其目的事項トスルモノアリ講學上之ヲ行政訓令ト稱シ直接ニ人民ノ權利ニ干與セサルモノトス又或ハ行政機關組織内部ニ於テ活動スルニアラスシテ一般遵守ノ條規トシテ人民ノ自由權利ノ準則タルモノアリ講學上之ヲ法規命令ト云ヒ法律ト其實質的ノ法力ヲ同クス行政訓令ハ其効力行政内部ニ止マリ新ニ臣民ノ權利義務ヲ伸縮スルヲ得ス從テ一般人民ハ之ヲ遵守スルノ義務ナキヲ以テ之ヲ公布スルヲ要セス但シ公布スルモ妨ナキナリ

二、規定ノ性質ニ依ル區別

命令ノ規定スル事項ノ性質ニ依リ命令ヲ區別シテ左ノ四種トナス則大權命令、緊急命令、行政命令、委任命令是ナリ

- 1、大權命令、大權命令トハ憲法上ノ大權事項ヲ命令スルモノナリ命令ヲ發スル權ハ天皇ノ大權ニ屬スルモ勅令ノ規定スル事項ハ必スシモ常ニ大權事項ニアラス或ハ勅令ヲ以テ立法事項ヲ規定スヘク(八條)或ハ大權事項及立法事項ノ外ニ於テ勅令(九條)ヲ發ス勅令ヲ發スルノ權ハ大權ナリト雖モ總テ勅令ノ規定スル所ハ大權事項ナリト云フヲ得ス故ニ特ニ大權事項ヲ規定スルノ命令ヲ稱シテ大權命令トナスナリ大權命令ハ憲法ニ依リ法律ト相對峙シ共ニ國權直接ノ行動ヲ行ハシメ各相侵スコトヲ得ス而テ互ニ相觸ル、コトナキハ各其憲法上ノ範圍ヲ異ニスルヲ以テナリ(第一編第一章第二節ヲ參照スヘシ)
- 2、緊急命令、帝國議會ニハ會期ナルモノアリテ開斷ナク開會シ居ルモノニアラス然ルニ社會現象ハ復雜ナレハ何時如何ナル非常事變出來スルヤモ不計而テ此事變ニ應スル爲メ立法事項ヲ要スル事アルヘク然ルニ議會開會シ居ラサル爲メ一々立法ノ常例ニ依ルコトヲ得サルコトアルヘシ如此不得止場合ニ於テ我憲法ハ法律ニ代ル命令ヲ發スルコトヲ認メタリ(八條)學者之ヲ緊急命令ト稱ス

緊急命令ヲ發スル場合ハ其條件トシテ

- 一、公共ノ安寧ニ對スル危險ヲ豫防スル爲メ必要ナルカ又ハ公共ノ災厄ヲ避クル爲メ必要ナルヲ要スルヲ得ス
- 二、議會閉會中ナルヲ要ス開會中ナレハ通常ノ手續ニ依リ立法スルヲ得ルカ故ナリ
- 三、命令ヲ發スルノ必要カ緊急ニシテ而モ緊急命令ヲ發スル必要アルヲ要ス次期ノ議會マテ待ツヲ得ルモノハ必要カ緊急ナリト云フヲ得ス又臨機ノ處分ヲ要スル事實存在スルモ法ノ範圍内ニテ之ヲ處分スルヲ得ルモノハ緊急命令ヲ發スルヲ得ス故ニ極メテ臨機ノ必要アリ且緊急命令ヲ出スニアラサレハ之カ處分ヲ爲ス能ハサル場合ニ限ル

則消極的ニ必要ナル場合ニ限レルモノニシテ積極的ニ公共ノ利益ヲ維持スル目的ヲ以テ緊急命令ヲ發スルヲ得ス

緊急命令ヲ發シタルトキハ次ノ會期ニ於テ議會ニ提出セサルヘカラス提出スルハ承認ヲ求ムル爲メタリ單ニ報告スルニ止マラス(八條二項)兩院何レハ先ニ提出スルモ自在ナリ

議會ノ承諾ハ緊急命令ノ存廢ヲ議決スルモノニシテ既性ニ遡リ之カ効力ノ有無ヲ決スルモノニアラス茲ニ一ノ説明スヘキハ協賛ト承諾ノ差異ナリ或學者ハ協賛ト承諾ハ單ニ事前ト事後ノ別アルノミト説明スルモ我輩ハ協賛ハ積極的ナリ承諾ハ消極的ナリト説明セントス則協賛トハ單ニ異議ナキコトヲ表示スルノミナラス進テ之カ實行ヲ希望スル旨ノ表示ナリ承諾ハ之ニ反シ單ニ異議ナキコトノ表示ニ過キス

議會ノ承諾ナキトキハ更ニ勅令ヲ以テ先ノ緊急命令ヲ廢止ス議會ノ議決直ニ緊急命令ヲ廢止スルモノニアラス又無効ナリト判定スルニモアラス假令議會ニ於テ承諾ノ議決ヲナスモ勅令ヲ以テ廢止セサル限リハ先ノ緊急命令ハ依然其効力ヲ持續ス只此場合ニ於テ政府カ憲法違反ノ責ニ任スルノミ

議會ノ承諾トハ一院ノ承諾ニアラサルコトハ論ヲ俟タス又議會ノ承諾ハ緊急命令其物ニ對シ承諾スルノ間ニシテ一ノ法案トシテ修正議決スルヲ得サルコト前説明セル承諾ノ觀念ニ依ルモ疑ナシ

緊急命令ヲ發シ次ノ會期前命令ヲ以テ緊急命令ヲ取消シタル場合ニ於テ前廢止シタル緊急命令ヲ更ニ



議會ニ提出スルヲ要スルヤ否ヤハ議論アルノ点ナリ前説明セル「スタイン」ノ説ヲ採レハ要スト解釋スルヲ要シ「ホルンハッシ」ノ説ヲ採レハ要セスト解釋スヘキモノ、如シ「第三編第三章第三節第二參照」

3、行政命令、行政命令ハ憲法上ノ大權命令事項及立法事項ノ外ニ於テ國家ノ目的ヲ達スルカ爲メニ發スル所ニシテ大權及法律ヲ執行シ又ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ増進スル爲メニ發スルモノナリ(九條)

行政命令ハ法律ニ對シ憲法上固有ノ範圍ヲ專有スルニアラス法令共同ノ區域内ニ於テ法律ノ未ダ占領セサル所ヲ補充スルモノナリ故ニ法律ヲ變更スルヲ得ス法律ヲ以テ行政命令ヲ變更スルヲ得ルハ當然ナリ是行政命令ハ大權命令ト異ナル所ナリ(大權命令ハ法律ヲ以テ侵スヲ得ス)

行政命令權ハ行政機關ニ委任シテ之ヲ行ハシムルコトヲ得是行政命令ノ大權命令緊急命令委任命令ト異ナル所ナリ而テ委任ニ依ルル命令權ハ其委任ノ範圍ノ外ニ出ツルコトヲ得又法律ヲ變更スルヲ得サルハ論ヲ俟タス

命令ノ勅裁ニ出テ親署ヲ經タルモノヲ勅令トシ其他行政機關ノ發スルモノハ各其名稱ヲ定メ委任ニ依ルモノナルコトヲ明ニス假令ハ内閣ヨリ出スモノヲ閣令各省ヨリスルモノヲ省令各府縣ヨリスルモノヲ府縣令ト稱スルノ類是ナリ

4、委任命令、憲法上法律ヲ以テ規定スル事項ハ緊急命令ノ外命令ヲ以テ規定スルヲ得ス併シ法律ハ此等ニ關スル規定ヲ命令ニ委任スルヲ得此法律ノ委任ニ依リ發スル命令ヲ委任命令ト云フ

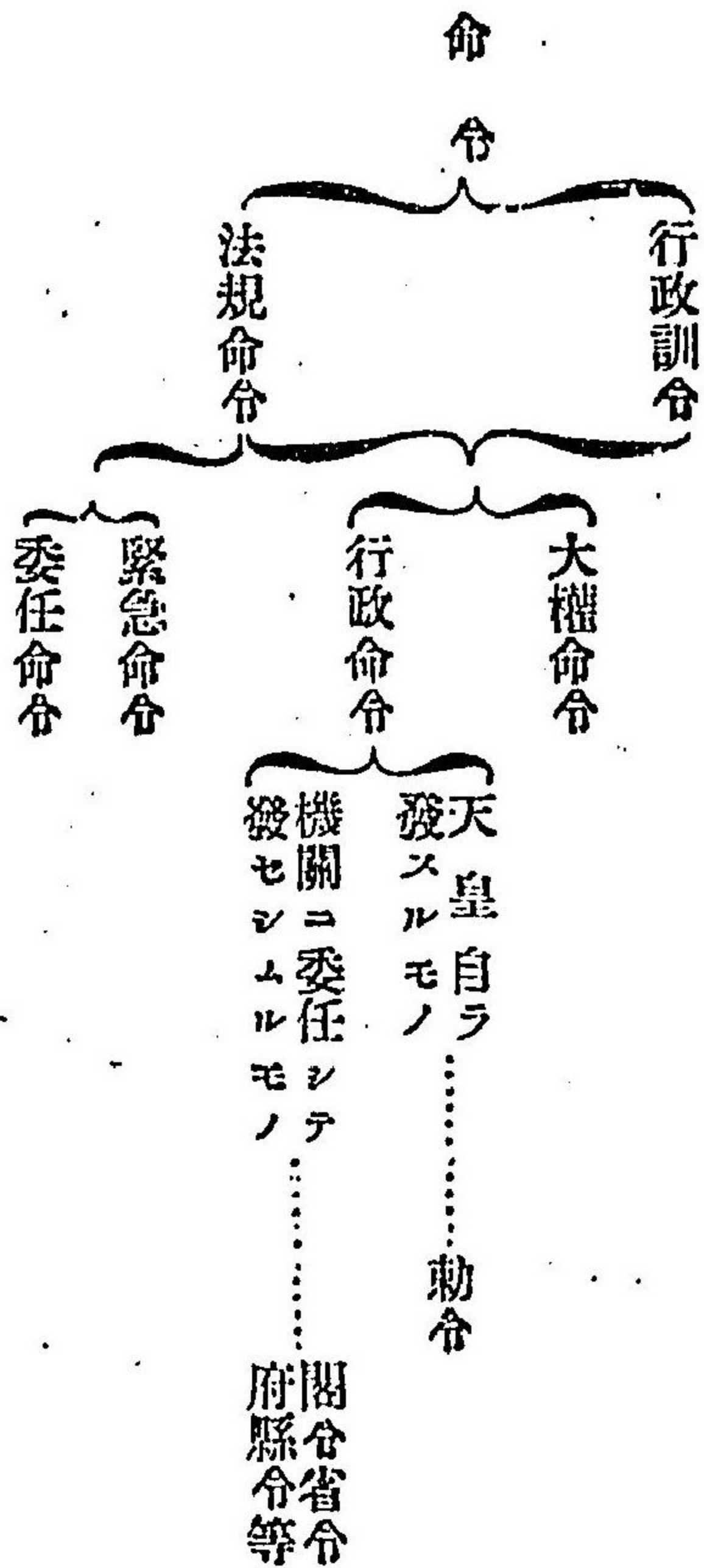
憲法ハ一定ノ事項ヲ規定スルニ法律ヲ以テスヘキコトヲ定ム併シ法律カ如何ニ之ヲ定ムヘキカヲ規定セス故ニ細目ヲ命令ノ規定ニ讓ルモ又法律ヲ以テ定ムル一ノ方法ナリ此方法ニ於テハ法律ハ命令ノ實質ヲ以テ自己ノ實質トナスモノナリ

法律ノ委任ニ基ク命令ハ法律ヲ以テ規定スル一ノ方法トシテ効力ヲ有スルヲ以テ若シ委任ヲ與フル法律

律廢止セラレタルトキハ委任命令モ亦自ラ消滅ニ歸ス

茲ニ注意スヘキハ大權命令及行政命令ニハ法規命令ト行政訓令トヲ含ム緊急命令及委任命令ハ常ニ法規命令ナルコト及行政命令ハ機關ニ委任シテ發セシムルヲ得ルモ大權命令緊急命令、委任命令ハ必ス天皇自ラ發スヘキモノナルコト是ナリ

以上説明セル命令ノ類別ヲ圖解スレハ則左ノ如シ



第五節 法令ノ範圍

立憲制度ニ於テ立法ノ範圍ヲ定ムルニ二種ノ主義アリ第一ノ主義ハ總テ人身ノ自由及權利ニ關スルコトハ必ス法律ヲ以テ規定スヘシト爲シ命令ハ只法律ヲ執行スルノ訓令タルニ止ルモノナリ第二ノ主義ハ法律命令共ニ人ノ自由及權利ヲ規定スルノ能力アリト爲シ憲法ヲ以テ法律命令ノ範圍ヲ分割スルモノナリ我憲法ハ第二ノ主義ヲ取リ法律命令各其憲法ノ制限内ニ於テ獨立シテ國法ヲ構成スルヲ原則トナス

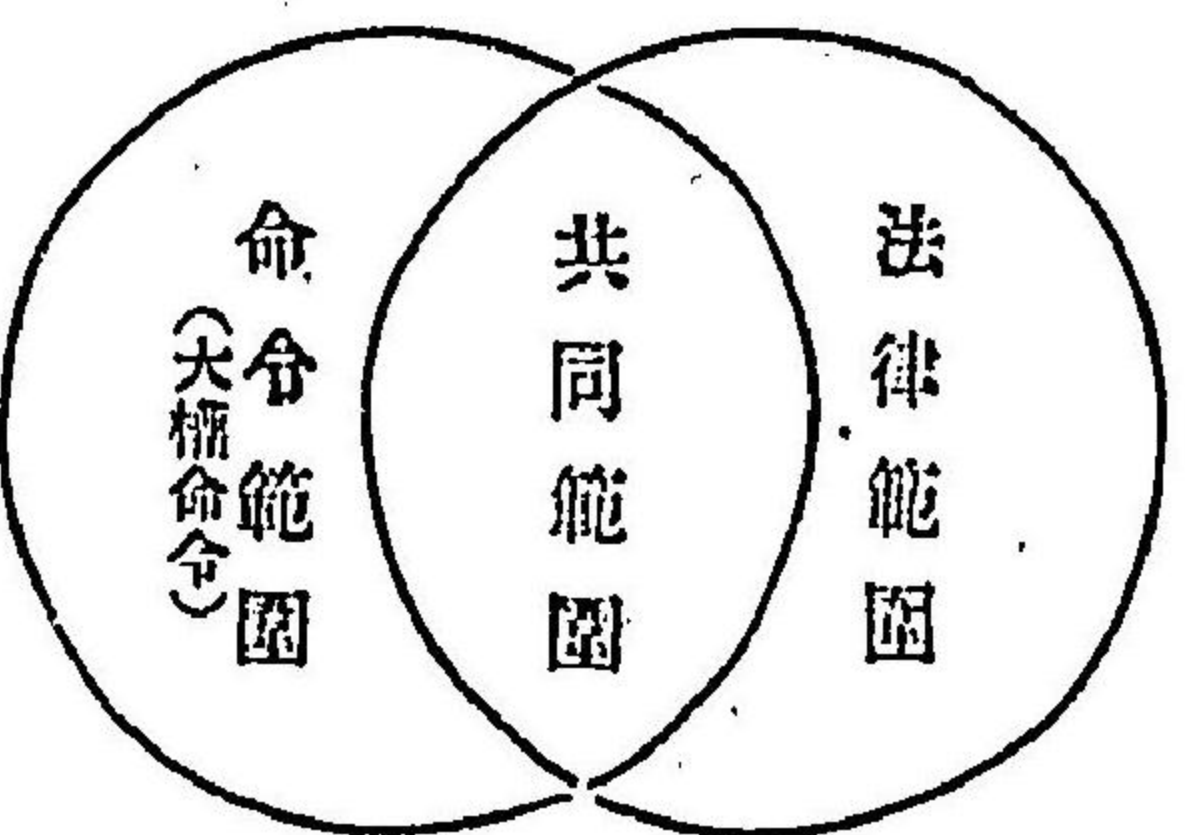


凡テ法律ハ帝國議會ノ協賛ヲ經ルヲ要ス然レモ何等ノ事物ハ法律ヲ以テ制定スヘキカハ別問題ニ屬ス我憲法ハ法律ヲ必要トスル事項ハ之ヲ憲法ニ明言シ大權ト相對シ憲法上互ニ相侵サ、ラシム而テ何レノ區域ナルカヲ明言セサルモノハ專ラ國家ノ便宜ニ依リ或ハ法律ヲ以テシ或ハ命令ヲ以テスルノ自由アラシム故ニ我憲法上法律命令ノ領域ハ左ノ如シ

- 一、憲法上ノ立法事項、憲法カ法律ヲ以テ規定スヘキコトヲ命スルモノナリ之ヲ立法事項ト云フハ憲法上ノ大權事項ト相對スルノ義ニシテ命令ヲ以テ規定スルヲ許サ、ルモノナリ是ヲ法律ノ獨占範圍トス
- 二、憲法上ノ大權事項、大權事項トハ憲法上ノ要件トシテ天皇ノ親裁ニ依ルヘキコトヲ必要トシタル事項ニシテ必ス大權命令ヲ以テ之ヲ規定ス憲法第一章ニ於テ何々ハ天皇之ヲ行フト云フ如キ規定アルハ多ク大權事項ナリ假令ハ官制編成ノ如キ陸海軍ノ編制ノ如キ是ナリ(十條、十一條)凡テ統治事務ハ天皇ノ權ニ屬ス然ルニ憲法カ殊更ニ或事項ヲ天皇カ定ムト規定シタル精神ハ統治機關ノ權限ニ委セスシテ自ラ活動スル則親裁スルモノタルコトヲ示スノ意ナルコト明ナリ大權事項ハ必ス天皇ノ命令(勅令)ヲ以テ定ム法律ヲ以テ之ヲ規定スルヲ許サル、ナリ故ニ是ヲ命令獨占ノ範圍トス(注意、大權事項ハ必ス命令ヲ以テ規定スルモ此命令ハ必スシモ茲ニ所謂命令ニアラスシテ其實處分ナルコトアリ假令ハ文武官ノ任免爵位勳章等榮典ノ授與ノ如キ是ナリ)
- 三、自由立法事項、憲法カ殊更ニ大權事項若クハ立法事項トナスコトヲ明言セサル事項ナリ法律ヲ以テ規定スルト命令ヲ以テスルトハ憲法上立法者ノ自由ニ存ス其事項ノ實質ハ概言スルコト難シ例ヘハ宗教ニ關スル取締ノ如キ教育ニ關スル施設及取締ニ關スル如キ營業ノ取締ニ關スル如キ是ナリ是ヲ法律命令共同ノ範圍トス茲ニ一ノ注意スヘキコトハ先ニ命令ヲ以テ定メタル事項後ニ法律ヲ以テ改廢スルコトハ自由ナリト雖モ一旦法律ヲ以テ規定シタル事項ハ後ニ至リ命令ヲ以テ改廢スル能ハサルコト是ナリ蓋シ法律ハ其形式的効力命令ヨリ強力ナルヲ以テナリ故ニ法令共同ノ範圍ニ於テ新ニ一ノ法律ヲ設クルハ將來

ニ向テ命令ノ範圍ヲ縮減スルノ結果ヲ生ス

法律命令ノ範圍ヲ圖解スレハ下ノ如シ



### 第六節 法令ノ廢止

第一、法ハ法ニ依ルノ外廢止スルヲ得サルハ法ノ觀念ヨリ生スル一般ノ原則ナリ法カ法トシテ存在セル以上ハ施行期限ニ達セサル前ニ於テモ法ニ依ル外廢止セラレサルコト無論ナリ而テ法カ法ニ依リテ廢止セラル、ニニ様アリ

- 一、直接ニ法ニ依リ法ヲ廢スル場合
  - 1、法ヲ廢止スルヲ目的トシテ發シタル法ニ依リ
  - 2、反對ノ規定ヲ有スル後ノ法ニ依リ
- 法ノ前後ハ公布ノ日ノ前後ニ依リテ定マルモノニシテ施行期限ノ前後ニ拘ハラズ



二、間接ニ法ニ依リテ法ヲ廢スル場合

間接ニ法ニ依リテ法ヲ廢スル場合ハ廢止スヘキ法又ハ後ノ法ノ明文又ハ精神ニ基クナリ其主タル場合ハ左ノ如シ

1、法ノ目的タル物体又ハ事件ノ消滅ニヨルトキ又ハ事情ノ變更ニ依リテ法ノ規定ヲ實行スルコト出來サルトキ

此場合ハ法ハ或物体或事件或事情ヲ前提トシテ規定シタルモノニシテ此物体事件若クハ事情ニ消滅若クハ變更アルトキハ法ハ自然廢止スヘキコトヲ豫想シテ規定シタルモノナルヲ以テ此場合ニ於テ法ノ廢止セラル、ハ物体事件ノ消滅若クハ事情ノ變更カ法ヲ消滅セシムル原因トナルニアラスシテ法ノ規定其自身カ法ヲ廢止スルモノト云ハサルヲ得ス

2、法ノ効力ヲ有スヘキ期限ヲ豫メ定メタルトキハ其期限ノ到達シタルトキ解除條件付ナルトキハ其條件ノ成就停止條件付ナルトキハ其條件ノ不成就

二、法ハ全部ヲ永久ニ廢止セラル、外ニ一時又ハ一部ニ限り廢止セラル、コトアリ  
一、免除特定ノ一事件若クハ數事件ニ限リテ法ノ適用ヲ廢止スルモノ仮令ハ租税ノ免除  
二、停止一定ノ時間ヲ限リ全國若クハ一定ノ區域ニ對シテ法ノ適用ヲ廢止スルモノ例ヘハ戒嚴中憲法ノ或條

項ヲ停止スルカ如シ

第三、以上ハ實質的意義ニ於ケル法則廣ク法律命令ノ廢止ノ事ヲ一般ニ說述シタリ茲ニ說明スヘキハ法律ハ法律若クハ緊急命令ニ依ルノ外廢止スルヲ得ス命令中大權命令ハ大權命令ニ依ルニアラザレハ廢止スルヲ得サルモ其他ノ命令ハ同一ノ命令ヲ以テ廢止スルヲ得ルノ外法律ヲ以テ自由ニ之ヲ廢止スルヲ得ルニト是ナリ蓋シ是先ニ屢々說明セル如ク法律ハ其形式的効力命令(大權命令ヲ除ク)ヨリ強力ナルヲ以テナリ

第三章 司法

第一節 司法ノ觀念

第一、實質上ノ司法トハ法規ノ維持ヲ目的トスル國家行動ノ總稱ナリ司法ノ作用ハ法律各部ノ範圍ニ亘リテ其種類甚多シ假令ハ國法上ノ司法私法及刑法上ノ司法等皆之ニ屬ス此等諸種ノ司法作用中民法上ノ司法ト國法上ノ司法トハ其趣別ナリ民法上ノ司法ハ國家カ其統治權ノ下ニアル臣民各個ニ對スル一般の權力關係ニ基クモノニシテ國法上ノ司法ハ統治機關相互間又ハ機關ト國家トノ特別法律關係ニ基クモノナリ簡人カ法令ニ違反スルニ當リ之ヲ矯正スルハ民法上ノ司法ニシテ國家機關ノ職務行動ヲ監督スルモノハ國法上ノ司法ナリ右述ヘタル個人トハ刑事司法ニ付テハ自然人ニシテ民事司法ニ付テハ自然人及法人ナリ

第二、形式上ノ司法トハ通常裁判所ノ行動ノ全体ヲ云フモノニシテ一方ニ於テハ裁判行為ノ全体ヲ包括セサルト同時ニ他ノ一方ニ於テハ司法ノ觀念ニ屬セサル或種ノ行動ヲ包含ス此意義ニ於ケル司法ヲ分テハ次ノ如シ

一、訴訟事件裁判々決ノ性質ヲ有スル司法權ノ行動ナリ訴訟事件ハ更ニ之ヲ二分ス

1、民事訴訟、個人ノ權利範圍ニ對スル侵害ヲ原狀ニ復スルコトニ關スル法規ノ維持ヲ目的トスルモノ  
2、刑事訴訟、公共ノ秩序ヲ妨害セル罪人ヲ處罰スルコトニ關スル法規ノ維持ヲ目的トスルモノ

訴訟事件ニ關スル裁判權ノ行使ハ二個ノ働ヲ包含ス則一般法則(成文法慣習法)ニ照シ各事件ニ付論理上ノ判斷ヲ下シテ疑アル法律關係ヲ確定スルコト其ニナリ國家ノ命令權ニ依リ判決ヲ強制執行スルコト其ニナリ

二、非訟事件、個人ノ私法的關係ニ付テ存スル國家ノ干渉作用ノ發動セル行動ノ全体ヲ云フ實質上ヨリ觀察スレハ非訟事件ハ裁判上ノ機能ニアラス寧ロ行政行為ノ性質ヲ有スルモノナリ或ハ個人間ニ法律關係ヲ設定スルニ付協力シ(例ヘハ競賣ノ如キ清算人ノ選任ノ如キ親族會員ノ選任招集ノ如キ是ナリ)或ハ之ヲ公證シ(例ヘハ商業登記ノ如キ不動産登記ノ如キ戶籍事務ノ如キ)或ハ他人ノ財産ヲ管理スルモノヲ監



督(例ハハ財産管理人ノ選任及監督ノ如キ)或ハ證書類及有貨物ヲ保管スルカ如キ皆之ニ屬ス

### 第二節 司法權ノ行使

第一、司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ(五十七條)天皇ハ法ノ源泉ナリ之ヲ立テ之ヲ行フ一ニ天皇ノ統治權ニ屬ス司法權ハ獨立ナリトシ之ヲ君主ノ權ノ外ニ特立スルモノト爲スハ固ヨリ我國法ノ許サレ所ナリ司法權ハ天皇ノ名ニ於テ行フ旨ヲ憲法ニ掲シルハ司法權ハ天皇ノ統治權ニ屬スルコト及裁判所ハ獨立シテ權力ノ主体タルニアラス統治ノ機關タルコトヲ明ニシタルモノナリ

司法權ハ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ裁判所ハ統治機關ノ一トシテ憲法上ノ委任ニ依リ此職權ヲ有シ而テ法律ハ司法權ノ行使ヲ規定スルモノナリ人民ハ裁判所ノ外ニ於テ審問セラル、コトナシ(廿四條)又法律ニ依ラスシテ裁判セラル、コトナシ(五十七條)但シ司法權ノ行使ハ法律ニ依ルトノ意ハ裁判所ノ構成訴訟審判ノ法則ハ必ス法律ヲ以テ規定シ命令ヲ以テ侵スコトヲ得サル義ニシテ裁判所カ適用スル成規カ法律ノ成文ニ止マリ命令及其他ノ法規ニ依リ裁判スルヲ得ストノ意ニアラス蓋シ法律命令共ニ國法ヲ構成シ共ニ權利義務ノ準則タルハ我國法ノ本義ナレハナリ

### 第三節 司法ト立法行政トノ區別

第一、司法ト行政トノ區別、司法ハ法規ノ適用執行ニシテ毫モ便宜ヲ酌量スル余地ヲ有セス則法規ノ維持ヲ目的トスル法規ノ適用ナリ而テ此法規ノ適用ハ特定ノ事件ニ對スル適用ナリ行政ハ後ニ説明スル如ク法規ノ範圍内ニ於テ便宜ヲ酌量シテ自由ニ活動スルヲ得ルヲ常態トスルモ法規ハ場合ニ依リ毫モ行政官ニ活動ノ余地ヲ與ヘサルコトアリ此ノ如キ場合ニ於テハ行政モ亦法規ノ執行ニ過キサルヲ以テ此点ニ於テハ司法ト毫モ區別スル所ナキカ如シ然レモ行政處分ニ當リ法ノ適用ヲ定ムルハ處分ヲ定ムルノ準備タル官廳内部ノ働ニシテ行政官廳ノ目的トスル所ハ處分ノ實體ナリ假令ハ公用徵收ヲ行フニ當テハ先ツ公用徵收ニ關スル法規ヲ現

實ノ場合ニ適用シ法律上徵收ヲ行フヲ得ルヤヲ決定スルハ無論ナルモ此法規ノ適用ハ終局ノ目的ニアラスシテ土地ノ所有權ヲ得ルノ目的ヲ達スルカ爲メニスル内部ノ働キニ過キス換言スレハ行政處分ニ當リ法規ヲ適用スルハ行政處分ニ依リ遂クセントスル或目的ヲ達セン爲メニスル手段タルニ過キス尙約言スレハ行政處分ニ於テハ法規ノ適用ハ手段ニシテ目的ニアラス反之司法官廳カ法ヲ適用スルハ手段ニアラスシテ其目的ナリ例ヘハ所有權ニ關スル爭ヲ判決スルニ當リテハ前示公用徵收ノ場合ト趣ヲ異ニシ國家カ被告ヨリ所有權ヲ奪ヒ原告ニ與フル如キハ國家ノ目的ニアラス國家ノ目的トスル所ハ法規ヲ現實ノ事件ニ適用シ其正公ノ結果ヲ得ルニアリ此場合ニ於テハ法規ハ私人ノ爲メニスル所有權ヲ享有スルノ手段ニシテ目的ニアラス反之國家ノ爲メニスル手段ニアラスシテ終極ノ目的ナリ今例示セシハ私法ノ區域ナルモ公法ノ區域ニ於テモ亦同様ナリ以上ヲ以テ之ヲ見レバ司法ハ法規ヲ維持テ目的トスル特定事件ニ對スル法規ノ適用ニシテ行政ハ通常法規ノ範圍内ニ於ケル自由ノ活動ニシテ時ニ特定事件ニ法規ヲ適用スル場合アルモ其目的トスル處ハ法規ノ維持ニアラスシテ國利民福ノ増進ヲ企圖スルニアリト云ハサルヲ得ス

第二、司法ト立法トノ區別、司法ハ特定ノ事件ニ付キ法規ヲ適用ス事實ヲ豫想シテ一般ノ條規ヲ設クルモノニアラス立法ハ反之抽象的條規ヲ設クルコアルナリ裁判ハ特定ノ人ニ對シ強制ノ力ヲ有シ其法力ハ當事者以外ニ及ハス法令ハ反之一般ニ對シテ効力アルヲ原則トス

## 第四章 行政

### 第一節 行政ノ意義

第一、行政ニモ亦實質的意義ト形式の意義トノ二アリ實質的意義ノ行政トハ國利民福ヲ目的トスル國家行動ニシテ各箇ノ處分ニ現發スルモノヲ云フ行政ハ抽象的條規ヲ制定スルモノニアラス具体的事件ヲ處理スルモノナリ此点ハ立法ト異ナリ其司法ト異ナル点ハ前既ニ説述シタリ



行政ノ事務ヲ處理スル爲メニ特別ノ機關ヲ設ク而テ此機關ニ委テラル、モノハ管ニ固有ノ行政ノミナラス時トシテ實質上立法又ハ司法ノ性質ニ屬スル事務モ亦之ニ委任セラル、コトアリ是等ノ機關ノ行動ヲ總稱シテ形式的意義ノ行政ト云フ

行政ノ範圍ハ實質上大別シテ左ノ五類ニ總括スルヲ得

一、外務、外國ニ對スル交渉事務

二、内政、保護及干涉ニ依ル民福ノ増進ヲ企圖スル國家作用(内務、遞信、農商務、文部ノ事務皆此内ニ包含ス)

三、軍事、兵力ヲ設備シ其組織ヲ定ムル國家作用(海軍、陸軍ヲ包含ス)

四、財務、國家目的ノ爲メニスル財貨ノ調達及管理

五、司法、國權若シハ私權保護ノ爲ニスル國家作用、是ナリ

外務財務及軍事ハ主トシテ國權ノ獨立ト維持トヲ防衛シ内政司法ハ專ラ公共ノ安寧福利ト個人ノ自由權利トヲ保全ス皆相待テ以テ國家ノ目的ヲ遂行スルモノナリ

行政行爲トハ行政機關カ其權限ヲ行フカ爲メニスル所ノ行動ヲ云フ行政行爲ハ其觀察点ヲ異ニスルニ依リテ種々ニ區別スルヲ得

第一、行動ノ行政組織内部ニ於ケルモノト他ノ權利主体ニ對スルモノトニ依ル區別

### 第二節 行政行爲

行政行爲トハ行政機關カ其權限ヲ行フカ爲メニスル所ノ行動ヲ云フ行政行爲ハ其觀察点ヲ異ニスルニ依リテ種々ニ區別スルヲ得

第一、行動ノ行政組織内部ニ於ケルモノト他ノ權利主体ニ對スルモノトニ依ル區別

一、行政組織内部ニ於ケル行動、行政組織内部ニ於テハ上級下級ノ關係アリ上級機關ハ下級機關ノ行動ヲ指揮シ且之ニ命令スルノ權ヲ有ス此命令權ヲ行フニ一般の規則則訓令ノ形式ヲ以テスルコトアリ

(此場合ハ實質的意義ニ於ケル行政ニアラス實質的ニハ立法ナリ)或ハ特別處分ノ形式ヲ以テスルコトアリ又上級機關ハ下級機關ニ對シ監督權ヲ行使スルヲ得

二、外部ニ對スル行政機關ノ行動ハ差ノ如ク三別スルヲ得

1、外國ニ對スル交渉、此行政ハ國際法ニ準據スルヲ要ス所謂外務行政是ナリ

2、國家個人間ノ私法上ノ取引、右ハ私法上ノ形式ニ依リテ行ハル權力ノ行政ニハアラス此種ノ行政ニ付キ特別ノ規定ナキ限リハ私法ノ原則ヲ適用ス

3、臣民ニ對スル命令權ノ行使、右ハ國法ニ準據ス此種ノ行政ハル權力ノ行動ナリ其形式ヲ分テ行政命令ト行政處分トニトナス行政命令ハ實質上法規ノ性質ヲ備フルモノナルコト前既ニ説明セリ依テ茲ニハ行政處分ノミヲ論ス處分ハ内務軍事財務何レニ於テモ行ハル其内容ヨリ之ヲ小分スレハ左ノ如シ

イ、命令及禁令、租稅ノ賦課兵役義務團體ノ解散ノ如キハ命令ナリ出版禁止屋外集會ノ禁止等ハ皆禁令ノ性質ヲ有ス

ロ、許可、仮令ハ營業免許狩獵免狀ノ下付等ノ如シ

ハ、權利ヲ設定シ又ハ廢止スル處分、此種ノ處分ハ一箇人ニ對シ權利ヲ與奪スルモノニシテ例令ハ國籍附與特許ノ付與又ハ其取消鐵山採掘權ノ許可又ハ取消土地收用法適用ノ許可又ハ取消等皆之ニ屬ス此種ノ處分ハ亦新メニ權利主体ヲ生シ又ハ既存ノ權利主体ヲ廢止スルコトヲ得(同業組合ノ設立ノ如シ)特定ノ人ニ對シ特定ノ法律關係ヲ定ムル行政處分ニヨリテ個人カ特定ノ權利ヲ得ルトキハ此行政處分ヲ稱シテ特權ト云フ

二、事實決定及證明書ノ交付、事實決定ハ仮令ハ海事官廳ノ検査ノ如キ是ナリ證明書交付ハ仮令ハ度量衡ノ検査ノ如キ是ナリ

第二、行動ノ實質ニ依ル區別

行政ノ目的トスル處ハ國民民福ヲ企圖スルニアリテ此目的ヲ達スル爲メ法律ノ範圍内ニ自由ニ活動スルハ行政本來ノ性質トス法規ハ行政作用ノ成立條件ニアラズテ其制限ナリ故ニ行政ハ法律ノ明文ニ依リテ委任セ

七九



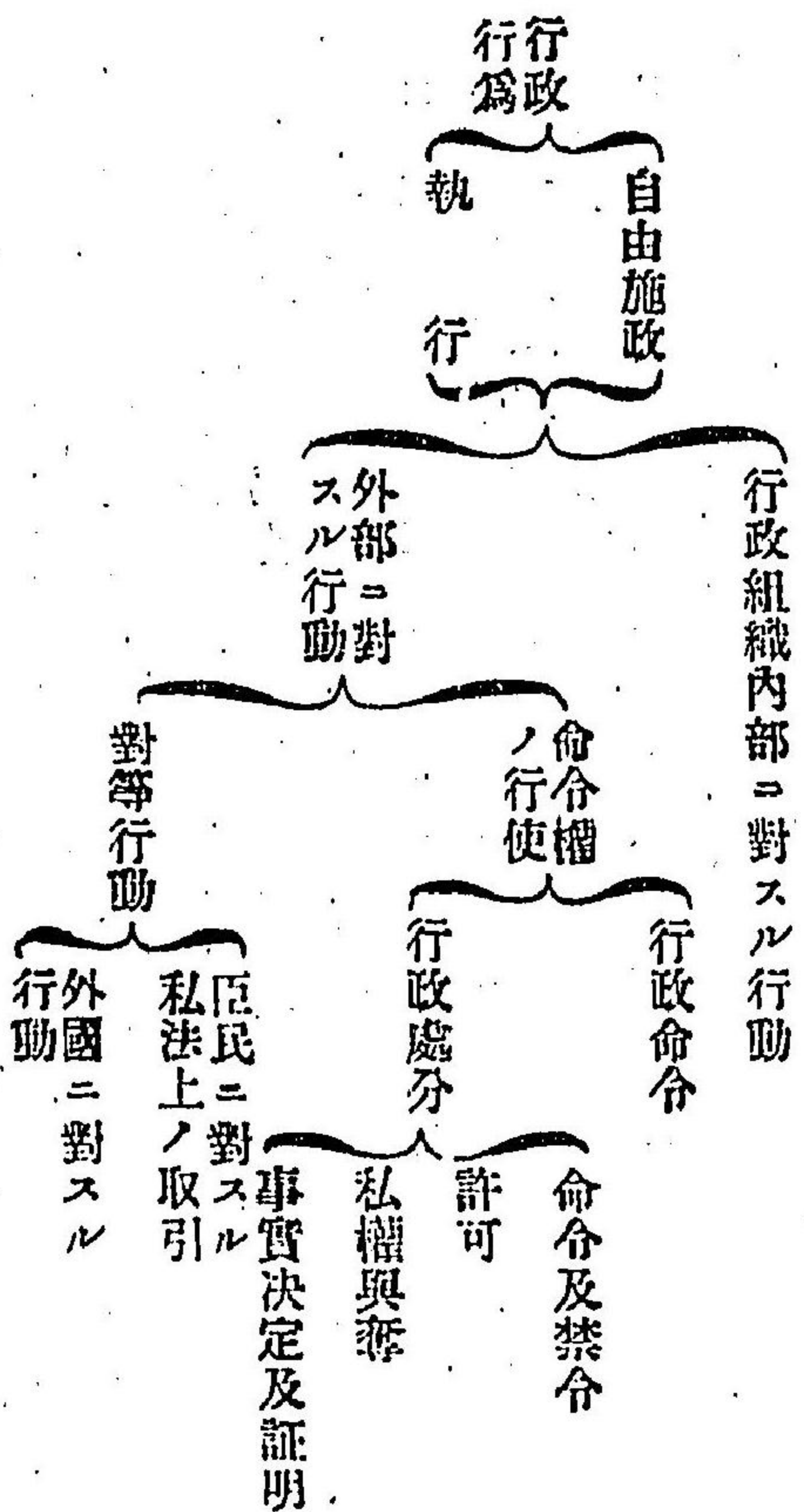
ラレタル事件ノミヲ限ルヘキモノニアラス法律ノ禁セサル所ハ總テ之ヲ爲スチ得此原則ハ先ツ警察上テ禁令  
命令ニ於テ其適用ヲ見ル併シナカラ前説明セル如ク法規ハ場合ニ依リ毫モ行政官廳ニ活動ノ余地ヲ與ヘサル  
コトアリ此ノ如キ場合ニ於テハ行政モ亦法規ノ執行ニ過キサルナリ以上ヲ以テ之ヲ見レハ行政行爲中自ラ左  
ノ二類ニ分ル

一、執行、則法規ヲ實行スル行政行爲

二、自由施政、則法規ノ範圍内ニ於ケル自由行動

茲ニ注意スヘキハ第一第二ノ區別ハ各其觀察点ヲ異ニシタル區別ナルコト是ナリ

行政行爲ノ區別ヲ圖解スレハ左ノ如シ



## 第五章 條約

### 第一節 條約ノ性質

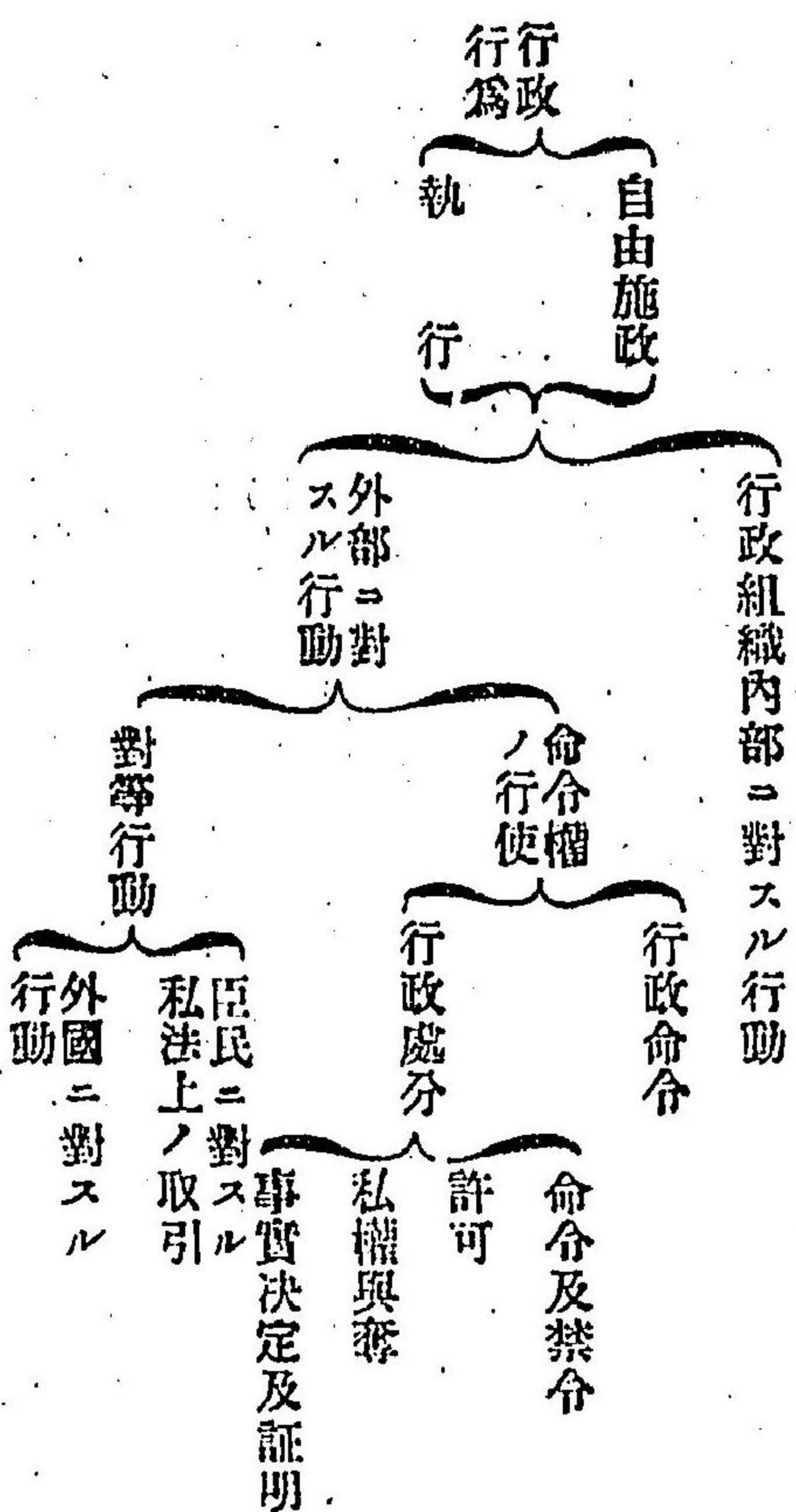
第一、條約トハ國家相互間ニ法律上ノ關係ヲ生セシメントスル國家相互ノ意思ノ合致ヲ云フ此ノ如ク條約ハ  
國家相互間ノ關係ニ屬スルモノナルヲ以テ國際ノ關係ヲ定ムル法規則國際法ニ依リテ其成立廢止及其効力ヲ  
決定スヘキモノアリ然レトモ國家ノ種類ニ依リテ條約締結者ハ夫々差アルモノナレハ何人カ條約締結ノ權能  
アルヤハ一々各國國法ニ依リテ決定セサルヘカラス又其締結ニ對スル制限若クハ形式モ各國々法ニ據ラサル  
チ得サルナリ從テ條約ヲ締結スルニ當リテハ相手國ニ於テハ如何ナル者カ締結ノ權能アリヤ且其締結ニ際シ  
如何ナル制限アリヤハ之ヲ審査セサルヘカラス

第二、條約締結權ハ國ノ首長ニ屬スルヲ通例トスルモ(北米合衆國ノ如キハ大統領ト上院ニ屬ス)立憲國ニ於  
テハ議會直接ニ條約締結ニ對シテ或權限ヲ有スルモノアリ例ヘハ普國獨乙國ニ於ケル如ク通商條約ナルカ又  
ハ條約ニ依リ國家ニ負擔ヲ負ヒ又ハ各個臣民ニ義務ヲ負ハシムルモノハ兩院ノ同意ヲ得ルニテ成ルハ其効  
ヲ有セスト規定セルカ如キ是ナリ我國ニ於テハ條約締結權ハ天皇ノ大權ニ屬シ何人モ之ニ參與スルヲ得ス  
第三、條約ハ國家ト國家トノ間ノ權利關係ヲ定ムルモノニシテ條約當事者ハ平等ナル人格者タル國家ト國家  
ナリ故ニ法令ト其性質ヲ異ニス其著シキ点ヲ擧クレハ第一、物質ヲ異ニス、法令ハ統治者ト被治者トノ關係ニ  
シテ條約ハ對等ノ人格者相互ノ關係ナリ第二、成立ヲ異ニス、法令ハ統治者一方ノ意思ニ依リテ成立シ條約  
ハ相手方ノ自由意思ニ依リテ成立ス第三、義務者ヲ異ニス、條約ハ國家ト國家トノ約束ナルヲ以テ唯國家ノ  
間ニシテ効力ヲ有スルヲ得條約ニ依リ權利ヲ得又義務ヲ負フモノハ國家ニシテ臣民ハ條約ニ依リテ義務ヲ  
負フモノニアラス臣民カ義務ヲ負フハ直接ニ條約ニ依ルニアラスシテ國家カ臣民ニ對シテ條約ヲ遵守スヘキコ  
トヲ命ジ又ハ國家カ條約ヲ執行スル爲メ法令ヲ發スルニ依ルモノナリ官廳ニ對シテモ亦同シ要之條約ハ法令



ラレタル事件ノミヲ限ルヘキモノニアラス法律ノ禁セサル所ハ總テ之ヲ爲スチ得此原則ハ先ツ警察上ノ禁令  
命令ニ於テ其適用ヲ見ル併シナカラ前説明セル如ク法規ハ場合ニ依リ毫モ行政官廳ニ活動ノ余地ヲ與ヘサル  
コトアリ此ノ如キ場合ニ於テハ行政モ亦法規ノ執行ニ過キサルナリ以上ヲ以テ之ヲ見レハ行政行爲中自ラ左  
ノ二類ニ分ル

一、執行、則法規ヲ實行スル行政行爲  
二、自由施政、則法規ノ範圍内ニ於ケル自由行動  
茲ニ注意スヘキハ第一第二ノ區別ハ各其觀察点ヲ異ニシタル區別ナルコト是ナリ  
行政行爲ノ區別ヲ圖解スレハ左ノ如シ



### 第五章 條約

#### 第一節 條約ノ性質

第一、條約トハ國家相互間ニ法律上ノ關係ヲ生セシメントスル國家相互ノ意思ノ合致ヲ云フ此ノ如ク條約ハ  
國家相互間ノ關係ニ屬スルモノナルヲ以テ國際ノ關係ヲ定ムル法規則國際法ニ依リテ其成立廢止及其効力ヲ  
決定スヘキモノアリ然レトモ國家ノ種類ニ依リテ條約締結者ハ夫々差アルモノナレハ何人カ條約締結ノ權能  
アルヤハ一々各國國法ニ依リテ決定セサルヘカラス又其締結ニ對スル制限若クハ形式モ各國々法ニ據ラサル  
ヲ得サルナリ從テ條約ヲ締結スルニ當リテハ相手國ニ於テハ如何ナル者カ締結ノ權能アリヤ且其締結ニ際シ  
如何ナル制限アリヤハ之ヲ審査セサルヘカラス

第二、條約締結權ハ國ノ首長ニ屬スルヲ通例トスルモ(北米合衆國ノ如キハ大統領ト上院ニ屬ス)立憲國ニ於  
テハ議會直接ニ條約締結ニ對シテ或權限ヲ有スルモノアリ例ヘハ普國獨乙國ニ於ケル如ク通商條約ナルカ又  
ハ條約ニ依リ國家ニ負擔ヲ負ヒ又ハ各個臣民ニ義務ヲ負ハシムルモノハ兩院ノ同意ヲ得ルコトヲサレハ其効  
ヲ有セスト規定セルカ如キ是ナリ我國ニ於テハ條約締結權ハ天皇ノ大權ニ屬シ何人モ之ニ參與スルヲ得ス  
第三、條約ハ國家ト國家トノ間ノ權利關係ヲ定ムルモノニシテ條約當事者ハ平等ナル人格者タル國家ト國家  
ナリ故ニ法令ト其性質ヲ異ニス其著シキ点ヲ擧クレハ第一、物質ヲ異ニス、法令ハ統治者ト被治者トノ關係ニ  
シテ條約ハ對等ノ人格者相互ノ關係ナリ第二、成立ヲ異ニス、法令ハ統治者一方ノ意思ニ依リテ成立シ條約  
ハ相手方ノ自由意思ニ依リテ成立ス第三、義務者ヲ異ニス、條約ハ國家ト國家トノ約束ナルヲ以テ唯國家ノ  
間ニシテ効力ヲ有スルコトヲ得條約ニ依リ權利ヲ得又義務ヲ負フモノハ國家ニシテ臣民ハ條約ニ依リテ義務ヲ  
負フモノニアラス臣民カ義務ヲ負フハ直接ニ條約ニ依ルコトヲスシテ國家カ臣民ニ對シ條約ヲ遵守スヘキコ  
トヲ命シ又ハ國家カ條約ヲ執行スル爲メ法令ヲ發スルニ依ルモノナリ官廳ニ對シテモ亦同シ要之條約ハ法令



ニアラス故ニ直接ニ臣民若クハ統治機關ヲ拘束スルモノニアラス  
 第四、條約ハ何事ヲモ規定スルヲ得立法事項大權事項ト云フハ國家カ法令ヲ發スルニ付テノ區別ナリ則命令  
 權ヲ行フ場合ノ規定ナリ但條約ヲ國內ニ執行スルニ付キ立法事項ナルトキハ我國ニ於テハ北米合衆國ノ如ク  
 條約ハ法律ト同一ノカアルコトヲ規定セサルヲ以テ議會ノ協贊ヲ經タル法律ヲ以テセサルヘカラス  
 第五、條約ハ批准ニ依リテ成立ス批准トハ條約ヲ可納スル旨ヲ相手方ニ對シ表示スルモノナリ公布ハ只成立  
 ナ公衆ニ知ラシムルマテニシテ條約ハ公布ヲ要セス批准ニ依リテ完全ナルモノナリ(秘密條約ノ如キハ公布  
 セス)

### 第二節 條約ノ施行

條約ヲ執行スルニ當リ往々法律ノ發布ヲ必要トスルコトアリ此場合ニ於テ議會カ法律案ヲ議決スルニ當リ條約  
 ニ依リテ羈束セラル、ヤハ學者間ニ頗ル議論アル所ナリ今信スル所ヲ述フレハ國家ハ憲法ノ規定ニ依リテ其  
 行動ヲ羈束セラル、ハ論ヲ俟タス憲法ノ規定ヲ變更スルハ國家ノ自由ナリト雖モ變更スルニハ變更ノ手續ヲ  
 爲サ、ルヘカラス其變更ヲ爲サ、ル間ハ依然憲法ノ規定ニ從ハサルヘカラス從テ外國ト條約スルニ當リテモ  
 憲法ノ規定ニ違反シタル行動ヲ約スルヲ得ス故ニ條約ヲ執行スル爲メニ法律ヲ要スヘキ條約ヲ結フハ是則國  
 家ハ憲法ノ規定ニ依リ法律ヲ發シ條約ノ條項ヲ實行スヘキコトヲ約スルモノト云ハサルヲ得ス而テ憲法ニ依レ  
 ハ法律ヲ發スルニハ議會ノ協贊ヲ要ス而テ議會ノ議決權ハ自由ナルヲ以テ議會ノ自由ナル協贊ヲ經タル法律  
 ナ發シテ其條項ヲ實行スヘキコトヲ約シタルモノニ外ナラス換言スレハ條約ノ條項ヲ實行スルニハ憲法ニ依ル  
 議會ノ自由ナル協贊ヲ經タル法律ノ成立ヲ以テ必然ノ條件ト爲シタルモノナリ故ニ若シ議會ニ於テ其自由ナ  
 ル議決權ニ依リ條約ヲ執行スル爲メニ必要ナル法律ヲ否決シタルナラハ是則條約ハ其實行ノ條件タル事項ノ  
 生セザリシ爲メニ實行セラル、ト能ハザリシモノノ換言スレハ條件ノ不成就ニ了リシモノナレハ是ヲ以テ條約  
 違犯ト云フヲ得ス(本章第一節第一ノ說明參照)但シ條約締結ノ際法律ノ不成立ヲ豫期シナカラ締結シタル等

ノ事實アリテ惡意アリト認ムヘキ場合ニ於テ國際ノ紛議ヲ生スルカ如キ若クハ此紛議ヲ避クル爲メ國家緊急  
 ノ必要ヨリ議會ノ議決ヲ制限スルノ如キハ固ヨリ實力ノ問題ニシテ法理ノ問題ニアラス從テ國法学ニ於テ論  
 スヘキ範圍外ニ屬ス

## 第六章 豫算

### 第一節 豫算ノ性質

第一、豫算ノ性質ハ學者間ニ議論アル点ナリ大別シテ左ノ二種トス

甲、規説、豫算ハ形式上法律ナルノミナラス實質上法規ヲ定ムルモノ則法律ヲ定ムルモノナリ(ヘー  
 テル)

乙、非法律説、形式上法律タルモ實質上ノ意味ニ於テハ法律ナラストノ説ニシテ小別スレハ左ノ如シ  
 一、全權説、時ノ内閣ニ財政ヲ行フノ全權ヲ與フルモノニシテ豫算成立セザルトキハ内閣ハ財政ヲ行  
 フ全權ナキモノナレハ自ラ其職ヲ去ラサルヘカラサル結果ヲ生ス(レンヂ)

二、訓令説、豫算ハ財政ノ標準ヲ定メ行政官廳ニ訓令スルモノナリ(ポルンハック)

三、財政計畫説、豫算ハ法規ニアラス一年間ノ財政計畫ナリ(シニルワエ)

此ノ如ク學說區々ナルモ豫算ノ性質ヲ探究スレハ豫算ハ形式上ニ於テハ行政コアラズ大體ニアラス憲法ノ規  
 定ニ依リ議會ノ協贊ヲ經テ成立スルモノナルモ而モ其實質ニ於テハ行政事務ニ屬シ豫算ハ事實ノ豫見ニ過キ  
 ス豫算ヲ以テ事實ヲ左右スルコト得サルハ明白ナリ法令ノ規定ト其適用ヲ受クル社會的事實トニ依リ明年度  
 ノ收入ハ幾干ナルカヲ定ムルモノニシテ其實際ノ額ハ將來ノ事實ニ依リテ定マリ豫算ヲ以テ増減スルヲ得ス  
 故ニ單純ノ事實ノ豫見ニ過キス歳入ニ對シテモ亦同一ナリ則歳入歳出ノ實際ハ來年度ノ社會ノ有様如何ニ依  
 リテ如何ニモ變更シ得ヘキ性質ノモノナレハ豫算ハ讀テ字ノ如ク豫メ政府ノ見積リヲ爲シタルモノト云フニ



過キス實質上法規ト異ナリ法規ハ事實ノ豫見コアラシテ定マリタル現象ヲ惹起スルヲ命令スルモノナリ  
 法規ト豫算トノ實質ノ差異ハ茲ニ存ス故ニ豫算ヲ法規ナリトスル學說ハ誤ナリ然ラハ何故ニ法律ニアラサル  
 モノヲ議會ノ協賛ヲ經テ決スルヤノ問ニ對シテハ左ノ如ク答ヘサルヲ得ス一、ハ豫算ノ歴史ナリ豫算ハ其始  
 メ歐洲ニ於テ國家ノ收入カ支出ニ償ハサルトキハ新稅ヲ起スカ若クハ稅率ヲ高ムルノ承諾ヲ求ムルニ當リ其  
 收支ノ償ハサルヲ實際ニ證明スル爲メ豫算ヲ議會ニ提出シタリ其後租稅ハ永久ノ法律ニ依リ徵收スルコト  
 ヲナリタルモ豫算ハ依然年々議會ノ承諾ヲ經ルコト、ナリタルコト是ニシテ一、ハ國家經濟ハ一年ノ收入ヲ以  
 テ一年ノ支出ニ充ツ蓄積シタル財產ヲ以テ爲スモノニアラサルヲ以テ豫算ハ可成事實ニ依ラシメサルヘカラ  
 ス然カスルコトハ成ルヘク鄭重ナル議決ヲ爲スノ必要アルヨリ議會ヲシテ之ニ協賛セシムルニ至リタルモノナ  
 リ次ニ豫算ハ委任全權ヲ與フルモノニアラス政府ハ職責上當然財政ヲ行フモノニシテ議會ノ委任ニ依リテ之  
 ナ行フモノニアラス故ニ全權說ノ誤リナルコト明ナリ又豫算ハ官廳ニ對スル訓令ニアラス豫算ノ効力ハ官廳  
 ニ對レテ訓令ノ性質ヲ帶フルモ斯ハ豫算其物カ訓令ノ性質アルニアラス政府カ會計法ヲ以テ行政官ニ命令シ  
 歲出ヲ行政官自己ノ權限ニテ行フトキハ豫算ノ額ヲ越ユルヲ許サストナスカ故ナリ則豫算其モノニハ効力  
 ナク會計法ノ規定ニ依リ始メテ豫算カ行政官ノ行爲ヲ羈束スル効力ヲ生スルナリ然ラハ豫算ハ訓令ナリトノ  
 說モ亦其當ヲ得タルモノニアラス

第二、豫算ハ裁可ニ依リテ成立ス、或一派ノ學者ハ(一木博士ノ如キ)豫算ハ議會ノ議決ニ依リテ當然ニ成立  
 シ裁可ヲ要セスト主張シ其論據ヲ憲法ニ裁可ヲ要スル明文ナキト豫算ハ元租稅承諾權ニ基ツキ起リタルモノ  
 ナルヲ以テ議會ノ承諾ニ依リテ成立スルモノトセリ併シナカラ此說明ハ我國法ニ於ケル豫算ノ說明ト爲スニ  
 足ラス我國法ハ天皇ハ統治權ノ主体タルト同時ニ統治ノ作用ヲ總テ一身ニ總攬ス統治機關ハ獨立シテ統治權  
 ヲ行フモノニアラス單ニ天皇ノ統治權ヲ行フヲ補助スルノミ故ニ國家ノ財政計畫ヲ立ツルモ亦ク天皇ノ行動  
 ニシテ議會ハ天皇カ財政計畫ヲ確定スルニ參與スルノミ故ニ政府ノ提出シタル豫算案ヲ議會ニ於テ豫算議定

權ノ範圍ヲ越ヘ又ハ法令ニ背キ議決シタルトキハ天皇ハ之ヲ裁可セサルコトヲ得若シ然ラスシテ議會ノ議決  
 シタル豫算カ當然効力ヲ有スルモノトスレハ財政計畫ヲ立ツルモノハ議會ニシテ從テ財政事務ニ付テノ統治  
 者ハ天皇ニアラスシテ議會タルニ至ルヘシ是レ我國法ノ許サ、ル所ナリ故ニ我輩ハ豫算ハ天皇カ行政官廳ニ  
 對シテ財政ノ標準ヲ示ス爲メニ制定スルモノニシテ之ニ準據スヘントノ命令ヲ爲シ得ルモノハ大權ノ外ナシト  
 解釋ス

### 第二節 豫算ノ議定

#### 第一、豫算案ノ提出權

豫算案ノ提出權ハ政府ニアリ法律案ノ如ク議院之ヲ提出スルヲ得ス豫算案ハ先ツ衆議院ニ提出セサルヘカラ  
 ス併シナカラ兩院ノ議決權ニ差異アルコトナシ貴族院カ豫算案ヲ修正スルヲ得ルコト亦論ヲ俟タス此点ハ既  
 ニ說明セリ

議院カ豫算案ヲ提出スルヲ得サルトノ原則ヨリシテ議會ハ政府カ要求セサル歲出費目ヲ加フルコト及要求額  
 ナ増額スルコトヲ得ス我憲法ニハ右ノ如キ明文ナキモ是ヲ許ストスルトキハ之ヲ濫用スレハ則チ新シキ豫算  
 案ヲ議院カ提出シテ自ラ之ヲ議決スルノ結果トナレハナリ故ニ明文ナシトモ自ラ豫算案ヲ提出スル職權ナシ  
 トノ原則ヨリシテ如上述ヘタル結果ヲ生スルモノト云ハサルヲ得ス

#### 第二、豫算議決權

豫算ハ法規ニアラス故ニ豫算ハ法規ヲ變更スルヲ得ス從テ議會カ豫算案ヲ議定スルニハ法令ノ範圍内ニ於テ  
 爲ス一、法令ニ於テ議會ノ豫算議定權ノ制限ノ出ツル所以ニシテ其原則ナリ此原則ヲ詳説スレハ

- 一、法令ニ於テ歲入歲出ノ目的及ヒ金額共ニ定マレルモノハ議會ハ之ヲ變更スルヲ得ス
- 二、法令ハ歲入出ノ目的ヲ定ムト雖モ其金額ヲ定メサルモノハ議會ハ其目的ヲ變更セサル限リ其金額ヲ議  
 定ス



三、目的及金額共ニ法令ノ規定ニヨラサルモノハ議會ハ其目的ノ必要ヲ審査シ金額ヲ議定ス（ラバンド歳計豫算論）

右ハ明文ナキ限リ適用スヘキ原則ニシテ豫算本來ノ性質ヨリ生スル結果ナリ憲法ハ特定ノ規定ヲ以テ議定權ヲ制限セリ第六十七條及第六十六條ノ規定是ナリ

第六十七條ノ規定ハ左ノ三者ヲ包含ス

- 一、法律ノ結果ニ依ル歳出、此ハ前示第一原則ノ内ニ包含セラル
- 二、法律上政府ノ義務ニ屬スル歳出、是ハ民法上ノ契約ニ依リ生スル義務ノ如キ法律カ一般ニ認ムル義務ヲ政府ニ於テ負擔シタル場合ヲ云フモノニシテ法令ニ基ツクモノナルヲ以テ當然前示第一ノ原則ニ包含セラル

右一、及二、ハ豫算ハ法令ニアラス從テ豫算ハ法令ヲ變更スルヲ得ストノ原則ニ包含セラル、モノニシテ實ハ第六十七條ノ明文ヲ要セス唯全條中「憲法上ノ大權ニ基ケル既定ノ歳出云々」ハ憲法ノ明文アルニ依リ初メテ議會ノ議定權ノ制限トナルモノナリ

- 三、憲法上ノ大權ニ基ケル既定ノ歳出、憲法上ノ大權ニテ定マル所ノ費用ニシテ前年度ノ豫算ニ於テ既定マレルモノヲ云フ例ヘハ官制々定ハ大權ニ屬ス然ルニ其費用ニ付テハ官制ヲ變更セサル限り金額ノ多少ハ前示第二原則ニ依リ議會ノ自由議決權ニ屬ス然ルニ憲法ノ明文ヲ以テ此原則ニ制限ヲ付シタルモノナリ豫算ハ元來一年限リノ性質ノモノナレハ昨年度ノ豫算ハ昨年度限リニテ効力消滅スヘキ道理ナルモ憲法ノ此條文ニ依リ特別規定ヲ設ケ前年度ノ議決カ本年度ノ議決ニ於テ制限的効力ヲ有セシムルモノナリ

四、次ニ憲法ハ第六十六條ニ於テ皇室經費ハ憲法施行前ノ定額ニ依リ將來増額ヲ要スル場合ニ限り議定ヲ要ストシ以テ議定權ニ制限ヲ付シタリ皇室經費ヲ定メタルハ法令ニシテ憲法前ノ法令ハ名稱ノ如何ニ拘

ハラス遵守ノ義務アルヲ以テ（七十六條）此場合ハ前示第一原則ニ當然包含セシメ特別ノ明文ヲ要セス憲法ノ規定ハ疑ヲ防ク爲メ當然ノ事理ヲ明文ニ顯ハシタルニ過キス

### 第三節 豫算ノ効力

第一、豫算ノ時期ニ於ケル効力、豫算ノ効力ノ期限ハ一年ナリ種目ニ依リ數年ニ經ルコトアリ小國ニ於テハ二三年間効力ヲ有セシムル制度アリ（獨乙聯邦中ノ小國ノ如シ）

第二、豫算ノ内容ニ於ケル効力

- 一、過テ生シタル場合、別段ノ手續ヲ要セス豫算ノ全額ハ必シモ支出シ盡スヲ要セス又收入ノ超過モ問題トナラサルナリ
- 二、不足ヲ生シタル場合、豫算ハ款項ニ超過シ又ハ豫算ニ設サル支出ヲ爲ス爲メ豫備費ヲ設ケ是ヨリ支出ス尙不足シタルトキハ議會ノ承認ヲ經ルヲ要ス
- 三、豫算ハ其款項ハ互ニ流用スルヲ得ス不得止流用スルトキハ超過支出ニ準ス
- 四、收入ノ不足ヲ生シタルトキハ豫メ設ケアル豫備費ヲ以テ之ヲ支辨ス（六十九條）

### 第四節 豫算ノ不成立

第一、不成立ノ場合ハ議會カ議事ヲ爲ス能ハサルカ又ハ兩院ノ議決一致セサルカ又ハ議了シ了ル時間ナカリシカ又ハ極端ナル場合ヲ想像スレハ議定セル豫算ヲ天皇カ裁可セサルカノ場合ニ生スルモノニシテ我國ニハ數年間不成立ニ終リシ例ナキモ外國ニハ其實例ニ乏シカラス例令ハ普國ニ立權制ヲ始メテ布キシ當時ノ如シ

第二、不成立ノ効果ニ付テハ學說ノ分カル、所ニシテ

- 一、全權說ニ依レハ豫算ハ政府ニ財政ヲ行フノ全權ヲ與フルモノナレハ豫算成立セサルトキハ假令法令アルモ時ノ政府ニ財政ヲ行フ全權ナキニ依リ收入支出ヲ爲ス途ナシ故ニ時ノ内閣ハ其職ヲ去リ他ノ全權ヲ



得ル見込アル内閣ニ譲ラサルヲ得ス(レンチ)

二、財政條件説ハ豫算ヲ以テ財政ヲ行フニ必要ナル條件トス故ニ若シ不成立ニ了ルトキハ政府ハ法律上財  
政ヲ處理スルヲ得ス(イエリチツク)

三、財政計畫説ニ依レハ議會カ豫算ヲ議決セル効果ハ豫メ支出ニ關シテ政府ノ責任ヲ免スルニアリ不成立  
ノ場合モ政府ハ法令ニ依リ收支ヲナスヘキモノニシテ不成立ノ場合ハ政府カ豫メ責任ヲ免ル利益ヲ失フ  
ニ止ル故ニ政府ハ國家ノ目的ヲ達シ法令ノ執行ヲ完フスルニ必要ナル程度ニ於テ獨立シテ經濟ヲナシ之  
ヲ後ノ議會ニ提出シテ追認ヲ乞フヘシ(ヲバインド、グナイスト)此説ハ目下勢力アリ

我國ハ明文ヲ設ケ不成立ノ場合ハ前年度豫算ヲ執行スヘシトナセリ政府カ已ムヲ得サル場合ニ於テ豫算ノ款  
項ニ超過シ又ハ豫算外ノ支出ヲ爲シタルトキハ後ニ議會ノ承諾ヲ求ムルコトヲ要ス(七十一條七十條)

明治三十六年八月七日印刷  
明治三十六年八月十五日發行

著者兼 士 族  
發行 者 兼 本 佐 榮 太 郎

廣島市平塚町貳百八拾參番地

印刷者 本 明 貞 藏

廣島市中島新町九番地

印刷所 本 明 活 版 部

廣島市中島新町九番地



2J-1



29



國法講義案

平佐栄太郎

国立国会図書館

031556-000-3

特22-812

國法講義案

平佐 栄太郎/著

M36

BBE-0160

